

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン セイケイガクエン 学校法人 成蹊学園							
フリガナ大学の名称	セイケイダイガク 成蹊大学 (Seikei University)							
大学本部の位置	東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号							
大学の目的	成蹊大学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として学術の理論及び応用を研究教授するとともに、成蹊学園建学の精神に基づき、良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>【経営学部総合経営学科】</p> <p>経営学の学問的な知識と実務的な即戦力を持ち、それらの知識と関連した高い情報処理能力と国際的視野を備えることで、企業をはじめとした組織の主力な人材として、あるいは独立した事業家として活躍し、世の中に広く貢献できる真に役立つ職業人を養成する。こうした人材の養成のために、人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる幅広い視野で思考・判断できる能力を有し、経営学の基礎的な概念と理論及び経営学の各専門分野を理解していることに加え、国際文化や情報コミュニケーション技術に関する知識をあわせもつことで、企業や企業の経営活動に関する諸問題を柔軟かつ適応的に解決できる実践的な総合マネジメント能力を修得した、職業人を養成するとともに、総合科学としての経営学を探究し、その研究成果を的確かつ明瞭に発信することで社会に貢献することを目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	経営学部 (Faculty of Business Administration) 総合経営学科 (Department of General Business Administration)	4年	290人	— 年次人	1160人	学士(経営学) (Bachelor of Business Administration)	令和2年4月 第1年次	東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号
	計		290		1160			
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<p><u>経済学部(廃止)</u> <u>経済経営学科(△500)</u> ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>経済学部 経済数理学科(80)(平成31年4月届出済み) 現代経済学科(150)(平成31年4月届出済み)</p> <p>文学部 英語英米文学科[定員減](△9)(令和2年4月) 日本文学科[定員減](△6)(令和2年4月) 現代社会学科[定員減](△5)(令和2年4月)</p> <p>理工学部 物質生命理工学科[定員減](△8)(令和2年4月) 情報科学科[定員増](16)(令和2年4月) システムデザイン学科[定員減](△8)(令和2年4月)</p>							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	経営学部 総合経営学科	270科目	127科目	2科目	399科目	124単位			
教員	学部等の名称	専任教員等							兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設	経営学部 総合経営学科	14人 (14)	9人 (9)	0人 (0)	0人 (0)	23人 (23)	0人 (0)	174 (174)	
	経済学部 経済数理学科	6人 (5)	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	8人 (8)	1人 (1)	180人 (180)	
	現代経済学科	8 (9)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	10 (10)	0 (0)	191 (191)	
	計	28 (28)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	41 (41)	1 (1)	— (—)	
既設	理工学部 物質生命理工学科	11 (11)	1 (1)	2 (1)	12 (12)	26 (25)	0 (0)	38 (38)	
	情報科学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	11 (11)	25 (25)	0 (0)	42 (42)	
	システムデザイン学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	10 (9)	24 (23)	0 (0)	48 (48)	
	文学部 英米文学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	39 (39)	
	日本文学科	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	36 (36)	
	国際文化学科	8 (8)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	42 (42)	
	現代社会学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	26 (26)	
	法学部 法律学科	18 (13)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	22 (17)	0 (0)	25 (25)	
	政治学科	12 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	21 (21)	
	教養教育	16 (16)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	253 (253)	
	教職課程	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	
	大学共通 大学附属機関等	1 (1)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	16 (15)	0 (0)	5 (5)	
	計	106 (101)	28 (28)	20 (18)	38 (37)	192 (184)	1 (1)	— (—)	
	合計	134 (129)	39 (39)	21 (19)	39 (38)	233 (225)	2 (2)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計			
	事務職員	134人 (134)		90人 (90)		224人 (224)			
	技術職員	1 (1)		2 (2)		3 (3)			
	図書館専門職員	5 (5)		20 (20)		25 (25)			
	その他の職員	1 (1)		38 (38)		39 (39)			
計	141 (141)		150 (150)		291 (291)				

平成31年4月届出済み
平成31年4月届出済み

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	成蹊高等学校 (必要面積13,704 ㎡)(収容定員:966人) と共用				
	校 舎 敷 地	78,816.78㎡	0㎡	51,241.63㎡	130,058.41㎡					
	運 動 場 用 地	87,580.85㎡	0㎡	18,671.01㎡	106,251.86㎡	成蹊中学校				
	小 計	166,397.63㎡	0㎡	69,912.64㎡	236,310.27㎡	(必要面積12,924 ㎡)(収容定員:801人) と共用				
	そ の 他	8,256.21㎡	237,813.30㎡	0㎡	246,069.51㎡	成蹊小学校				
	合 計	174,653.84㎡	237,813.30㎡	69,912.64㎡	482,379.78㎡	(必要面積10,620 ㎡)(収容定員:720人) と共用				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		92,528.93㎡ (92,528.93㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	92,528.93㎡ (92,528.93㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	70室	46室	211室	8室 (補助職員 0人)	6室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		経営学部 総合経営学科			24 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 冊	電子ジャーナル 種 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 図書 179,214〔44,851〕 (172,298〔44,332〕)		
	経営学部	57,866〔11,717〕 (54,784〔11,563〕)	307〔112〕 (307〔112〕)	11〔11〕 (11〔11〕)	29,937 (27,265)	284 (284)	0 (0)			
	計	57,866〔11,717〕 (54,784〔11,563〕)	307〔112〕 (307〔112〕)	11〔11〕 (11〔11〕)	29,937 (27,265)	284 (284)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
		11,925.03㎡	1032	1,700,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5006.6㎡	野球場 1面、サッカー場 1面、テニスコート 1面、卓球場 1棟 ハンドボールコート 1面、アーチェリー射場 1面、弓道場 1面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コストを含 む)を含む。
		教員1人当り研究費等		1,068千円	1,068千円	1,068千円	1,068千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		1,305千円	1,305千円	1,305千円	1,305千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	7,372千円	7,372千円	7,372千円	7,372千円	7,372千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	8,209千円	8,209千円	8,209千円	8,209千円	8,209千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,300千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

大学等の名称	成蹊大学									所在地
	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	年	人	年次人	人		倍				
経済学部						—		東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号		令和2年度より学生募集停止
経済経営学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成16年度			
理工学部				1580		1.00				
物質生命理工学科	4	133	—	526	学士(理工学)	0.98	平成17年度			平成30年度入学定員増(3人)
情報科学科	4	134	—	528	学士(理工学)	1.03	平成17年度			平成30年度入学定員増(4人)
システムデザイン学科	4	133	—	526	学士(工学)	0.98	平成17年度			平成30年度入学定員増(3人)
文学部				1760		1.01				
英語英米文学科	4	130	—	520	学士(文学)	1.01	昭和40年度			
日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.03	昭和40年度			
国際文化学科	4	110	—	440	学士(文学)	0.99	平成12年度			
現代社会学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.00	平成12年度			
法学部				1740		1.02				
法律学科	4	280	—	1110	学士(法学)	1.01	昭和43年度			平成30年度入学定員増(5人)
政治学科	4	160	—	630	学士(政治学)	1.03	昭和43年度			平成30年度入学定員増(5人)
理工学研究科										
理工学専攻										
博士前期課程	2	70	—	140	修士(理工学)又は修士(工学)	0.85	平成21年度			
博士後期課程	3	10	—	30	博士(理工学)又は博士(工学)	0.13	平成21年度			
経済経営研究科										
経済学専攻										
博士前期課程	2	6	—	12	修士(経済学)	0.16	平成19年度			
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.00	平成19年度			
経営学専攻										
博士前期課程	2	10	—	20	修士(経営学)	0.35	平成19年度			
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.00	平成19年度			
法学政治学研究科										
法学専攻										
博士前期課程	2	8	—	16	修士(法学)	0.06	昭和45年度			
博士後期課程	3	4	—	12	博士(法学)	0.08	昭和47年度			
政治学専攻										
博士前期課程	2	4	—	8	修士(政治学)	0.37	昭和47年度			
博士後期課程	3	2	—	6	博士(政治学)	0.00	昭和48年度			

文学研究科 英米文学専攻	博士前期課程	2	8	—	16	修士 (文学)	0.12	昭和 46年度	平成29年度より学 生募集停止
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (文学)	0.16	平成 10年度	
	日本文学専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士 (文学)	0.31	昭和 46年度	
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (文学)	0.08	平成 3年度	
	社会文化論専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士 (学術)	0.06	平成 3年度	
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (学術)	0.08	平成 3年度	
	法務研究科 法務専攻	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成 16年度	
附属施設の概要	<p>名称：成蹊大学高等教育開発・支援センター 目的：教育の質的向上に資する全学的な学修・教育支援施策の企画及び実施並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援、教育研究環境の整備 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：308.49㎡ 設置年月：2014年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学アジア太平洋研究センター 目的：アジア太平洋地域に関連する各分野の学際的・国際的共同研究の推進及びその研究成果の社会への還元並びに国際学術交流の促進 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：698.82㎡ 設置年月：1981年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学国際教育センター 目的：大学における国際教育を円滑に推進すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：377.38㎡ 設置年月：2004年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学キャリア支援センター 目的：全学的な見地から全学生に対してキャリア教育の推進を図るとともに、個々の学生の進路、就職等に関する支援を行うこと 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：606.12㎡ 設置年月：2006年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学ボランティア支援センター 目的：大学における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：151.19㎡ 設置年月：2014年4月</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手					
全学 共通科目	英語科目 外国語	College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○									兼4		
		College English (Reading & Writing) I	1前	1			○										兼6	
		College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○										兼4	
		College English (Reading & Writing) II	1後	1			○										兼6	
		Intensive English I	1前		1			○		1							兼1	
		Intensive English II	1後		1			○		1							兼1	
		College English (Integrated Skills) I	2前		1			○			1						兼7	
		College English (Integrated Skills) II	2後		1			○			1						兼7	
		TOEFL Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		TOEFL Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		TOEIC Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		TOEIC Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		IELTS Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		IELTS Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		基礎からのコミュニケーション英文法	1前		2				○									兼1
		自分でデザインする英語学習	1前		2				○			1						
		英語発音トレーニング	1前		2				○									兼1
		英語読解トレーニング	1前		2				○									兼1
		Presentation Skills Basic	1前		2				○			1						
		Discussion Skills Basic	1前		2				○			1						
		Writing Skills (Paragraph)	1前		2				○			1						
		Presentation Skills Intermediate	1後		2				○			1						
		Discussion Skills Intermediate	1後		2				○			1						
		Writing Skills (Essay)	1後		2				○			1						
		多読で学ぶ英語と文化	2前		2				○									兼1
		映画で学ぶ英語と文化	2前		2				○									兼1
		ドラマで学ぶ英語と文化	2前		2				○									兼1
		歌で学ぶ英語と文化	2前		2				○									兼1
		メディアで学ぶ英語と文化	2前		2				○									兼1
		キャリアのための英語と文化	2前		2				○									兼1
		TOEFL Preparation Advanced I	1前		1					○								兼1
		TOEFL Preparation Advanced II	1後		1					○								兼1
		IELTS Preparation Advanced I	1前		1					○								兼1
		IELTS Preparation Advanced II	1後		1					○								兼1
		TOEIC Preparation Advanced	1前		1					○								兼1
		Media English	2前		2					○		1						
		Academic Listening	2前後		2					○								兼1
		Cross Cultural Communication Skills	2前後		2					○								兼2
		Discussion & Presentation	2後		2					○								兼1
		English for the Workplace	2後		2					○								兼1
		Essay Writing	2前後		2					○			1					兼1
		Intensive Reading	2前後		2					○			1					兼1
		World Englishes	2後		2					○		1						
小計(43科目)		—	4	63	0		—		2	2	0	0	0			兼18		
初修 外国語科目	ドイツ語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	フランス語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	フランス語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	スペイン語基礎A I	1前		1			○									兼2		
	スペイン語基礎B I	1前		1			○									兼3		
	中国語基礎A I	1前		1			○									兼4		
	中国語基礎B I	1前		1			○									兼4		
	韓国語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	韓国語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎A II	1後		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎B II	1後		1			○									兼1		
	フランス語基礎A II	1後		1			○									兼1		
	フランス語基礎B II	1後		1			○									兼1		
	スペイン語基礎A II	1後		1			○									兼2		
スペイン語基礎B II	1後		1			○									兼3			
中国語基礎A II	1後		1			○									兼4			
中国語基礎B II	1後		1			○									兼4			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学 共通科目	外国語 初修外国語科目	韓国語基礎AⅡ		1		○									兼1
		韓国語基礎BⅡ		1		○									兼1
		ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	1後	2			○								兼1
		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1
		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○								兼1
		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○								兼1
		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○								兼1
		フランス語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○								兼1
		フランス語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1
		フランス語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○								兼1
		フランス語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○								兼1
		フランス語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○								兼1
		スペイン語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○								兼1
		スペイン語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1
		スペイン語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○								兼1
		スペイン語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○								兼1
		スペイン語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○								兼1
		中国語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○								兼1
		中国語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1
		中国語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○								兼1
		中国語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○								兼1
		中国語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○								兼1
		韓国語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○								兼1
		韓国語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1
		韓国語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○								兼1
		韓国語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○								兼1
		韓国語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○								兼1
		ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○								兼1
		ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○								兼1
		ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○								兼1
		ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○								兼1
		フランス語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○								兼1
		フランス語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○								兼1
		フランス語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○								兼1
		フランス語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○								兼1
		スペイン語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○								兼1
		スペイン語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○								兼1
		スペイン語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○								兼1
		スペイン語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○								兼1
		中国語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○								兼1
		中国語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○								兼1
		中国語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○								兼1
		中国語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○								兼1
		韓国語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○								兼1
		韓国語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○								兼1
		韓国語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○								兼1
		韓国語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○								兼1
		ドイツ語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○								兼1
ドイツ語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○								兼1		
ドイツ語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○								兼1		
ドイツ語演習検定対策Ⅳ	2後	2			○								兼1		
フランス語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○								兼1		
フランス語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○								兼1		
フランス語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○								兼1		
フランス語演習検定対策Ⅳ	2後	2			○								兼1		
スペイン語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○								兼1		
スペイン語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○								兼1		
スペイン語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○								兼1		
スペイン語演習検定対策Ⅳ	2後	2			○								兼1		
中国語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○								兼1		
中国語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○								兼1		
中国語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○								兼1		
中国語演習検定対策Ⅳ	2後	2			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
外国語	韓国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
	世界の言語(タイ語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(タイ語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
	世界の言語(イタリア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
世界の言語(イタリア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
小計(101科目)		—	0	176	0		—		1	0	0	0	0	兼37	
技能	実践日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実践話し方入門	1前後		2			○								兼1
	日本語表現講義	1後		2			○								兼1
	実践漢字講座	1後		2			○								兼1
	語彙・読解講座	1後		2			○								兼1
	古典に学ぶ日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実用文書の作り方・情報の伝え方	2前後		2			○								兼2
	テーマ別日本語表現(文芸をたのしむ)	2後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(成蹊俳句教室)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(源氏物語を読む)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(文章表現を磨く)	2前後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(話し方を磨く)	2前		2			○								兼1
小計(12科目)		—	0	24	0		—		0	0	0	0	0	兼9	
キャリア教育科目	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼2
	ビジネストレーニングセミナー	1後		2			○								兼1
	キャリアセミナー	2前後		2			○								兼1
	グローバルキャリアセミナー	2後		2			○								兼1
	キャリア発展講義	2後		2			○								兼1
	日本企業の現状と展望	3後		2			○			2					共同
	インターンシップ準備講座	3前		2			○								兼1
	インターンシップ実習	3前		2			○								兼1
	発展インターンシップ準備講座	3前		2			○								兼1
	発展インターンシップ実習	3後		2			○								兼1
	Global Career Design	3後		2			○								兼1
小計(11科目)		—	0	22	0		—		2	0	0	0	0	兼5	
情報基盤科目	情報基礎	1前		2			○								兼3
	情報活用A	1後		2			○								兼1
	情報活用B	1後		2			○								兼1
	情報活用C	1後		2			○								兼1
	情報活用D	1後		2			○								兼1
	情報活用E	1後		2			○								兼1
	情報活用F	1後		2			○								兼1
小計(7科目)		—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼5	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A	1前		2			○								兼10
	健康・スポーツ演習B	1後		2			○								兼10
	スポーツと科学	1後		2			○								兼1
	健康と科学	1後		2			○								兼1
	スポーツと文化	1後		2			○								兼1
	スポーツと社会	1後		2			○								兼1
小計(6科目)		—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	兼10	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教養基礎	哲学の基礎	1前後		2		○									兼1
	倫理学の基礎	1前後		2		○									兼1
	現代社会と哲学	1後		2		○									兼1
	現代社会と倫理学	1後		2		○									兼1
	文学への招待	1前後		2		○									兼1
	芸術への招待	1前後		2		○									兼2
	カルチュラル・スタディーズ	1前		2		○									兼3
	心理学の基礎	1前後		2		○			1						
	自己理解の心理学	1前後		2		○									兼1
	教育原理	1前		2		○									兼1
	教育心理学	1前		2		○									兼1
小計(11科目)		—	0	22	0	—			0	1	0	0	0		兼13
社会科学	政治学の基礎	1前後		2		○									兼1
	社会学と現代	1前後		2		○									兼2
	日本国憲法	1前後		2		○									兼2
	市民生活と法A	1前		2		○									兼1
	市民生活と法B	1後		2		○									兼1
	現代のマスメディア	1前		2		○									兼1
	社会心理学入門	1前		2		○									兼1
	学校と社会	1後		2		○									兼1
	近現代日本史A	1前後		2		○									兼1
	近現代日本史B	1前後		2		○									兼1
	現代社会の地理	1前後		2		○									兼2
小計(11科目)		—	0	22	0	—			0	0	0	0	0		兼12
自然科学	物質の究極像	1前		2		○									兼1
	人間と進化	1後		2		○									兼1
	脳科学と心	1後		2		○									兼1
	天文学入門	1前		2		○									兼2
	薬はなぜ効くか	1後		2		○									兼1
	身の回りの科学	1前		2		○									兼1
	科学史	1前		2		○									兼1
	科学技術の発展と歴史	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(熱と光の科学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(物質の科学)	1前		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(数の世界)	1前		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(生命の科学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(文系のための数学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(文系のための科学実験)	1後		2		○									兼2
小計(14科目)		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0		兼16
環境・地域	地球と環境	2前		2		○									兼1
	気象と地球環境	2後		2		○									兼1
	自然環境と文明	2前		2		○									兼1
	日本列島の歴史と災害	2前		2		○									兼1
	日本の国土と社会	2前後		2		○									兼1
	外国の自然と社会A	2後		2		○									兼1
	外国の自然と社会B	2前		2		○									兼1
	地域づくり論	2前		2		○									兼1
	環境科学トピックス(生命と環境)	2前		2		○									兼1
	環境科学トピックス(食料と環境)	2後		2		○									兼1
小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0		兼9

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通科目	国際 理解	戦後の日本と世界	2前後	2		○			1						兼1	
		近現代のアジアA	2前	2		○										兼1
		近現代のアジアB	2後	2		○										兼1
		近現代の欧米A	2前	2		○										兼1
		近現代の欧米B	2後	2		○										兼1
		中東地域史	2前	2		○										兼1
		現代の国際政治	2前	2		○										兼1
		グローバル経済論	2前	2		○										兼1
		国際文化交流論	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(ドイツ語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(フランス語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(スペイン語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(中国語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(韓国語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(イスラーム世界)	2後	2		○										兼1
	小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼12	
	持統 社会 探究	人 権・ 共生	裁判と社会	2後	2		○									兼1
			生命倫理と法	2後	2		○									兼1
			地域福祉論	2前	2		○									兼1
			人権とジェンダー	2前	2		○									兼1
			こころの健康と臨床	2前	2		○				1					兼1
			老人福祉論	2前	2		○									兼1
			福祉社会に生きる	2後	2		○									兼1
			特別支援教育概論	2前	2		○									兼1
			共生社会トピックス(アートと社会)	2前	2		○									兼1
			共生社会トピックス(日本女性史)	2後	2		○									兼1
	小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼8	
	実践	成 蹊 を 知 る	成蹊を知る	1後	2		○			1						兼1
			情報保障とボランティア	1前	2		○									兼1
			野外自然教育論	1前	2		○									兼1
			地元学実践演習	1後	2		○		○							兼1
			武蔵野地域研究	1後	2		○									兼1
			武蔵野市寄附講座	1後	2		○									兼1
大学生活と相互理解			1後	2		○				1					兼1	
成蹊グローバルセミナーA			1前	2		○		○							兼1	
成蹊グローバルセミナーB			1後	2		○		○							兼1	
武蔵野地域連携セミナー			1後	2		○		○							兼1	
Global Studies Seminar I (Academic Study Abroad Preparation)			1前	2		○		○			1				兼1	
Global Studies Seminar II (Global Citizenship)			1後	2		○		○							兼1	
Global Studies Seminar III (Japanese Culture)			2前	2		○		○		1					兼1	
小計(13科目)	—	0	26	0	—	—	—	2	2	0	0	0	0	兼9		
全学共通科目 小計(264科目)			—	4	479	0	—	—	5	3	0	0	0	0	兼151	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
演習科目	基礎演習	1前	2				○		8	6					兼1
	経営専門演習Ⅰ	3前	2				○		10	7					兼1
	経営専門演習Ⅱ	3後	2				○		10	7					兼1
	経営卒業研究	4通	4				○		10	7					兼1
	小計(4科目)	—	10	0	0		—		13	9	0	0	0		兼1
専門基礎科目	企業経営の基礎	1前	2				○			1					兼1
	会社のしくみと制度	1前		2			○								兼1
	ミクロ経済学の基礎	1前		2			○		2						
	統計の基礎	1後		2			○		1	1					
	企業会計の基礎	1後		2			○		1	1					
	マクロ経済学の基礎	1後		2			○		2						
	小計(6科目)	—	4	8	0		—		4	3	0	0	0		兼1
専門基礎科目	経営戦略	2前後		2			○			2					
	マーケティング	2前後		2			○		1	1					
	人間行動と組織	2前後		2			○		2						
	ファイナンスの基礎	2前後		2			○		2						
	基本簿記	2前後		2			○		2						
	国際経営	2前後		2			○		1	1					
	ゲーム理論	2前後		2			○		1						
	経営情報	2前後		2			○		1	1					
	ビジネス法の基礎	2前後		2			○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0		—		9	4	0	0	0		兼1
専門科目	競争戦略	2前		2			○			1					
	情報戦略	2前		2			○			1					
	ベンチャー・ビジネス	2前		2			○			1					
	ブランド戦略	2前		2			○			1					
	消費者行動	2前		2			○		1						
	生産管理	2前		2			○			1					
	産業の経済学	2前		2			○		1						
	情報産業	2後		2			○			1					
	広告と市場	2後		2			○			1					
	イノベーションと製品開発	2後		2			○			1					
	環境と経営戦略	2後		2			○		1						
	企業の国際戦略	2後		2			○		1						
戦略的問題解決型プロジェクト演習A	2前後		2				○		2						
	小計(13科目)	—	0	26	0		—		3	4	0	0	0		0
専門応用発展科目	人事政策	2前		2			○		1						
	意思決定科学	2前		2			○		1						
	職場の心理学	2前		2			○			1					兼1
	カウンセリングの基礎	2前		2			○				1				兼1
	組織と管理	2前		2			○								兼1
	キャリア・マネジメント	2前		2			○								兼1
	組織と社会	2後		2			○								兼1
	人的資源管理	2後		2			○		1						
	人間情報処理	2後		2			○		1						
	コーチングの基礎	2後		2			○								兼1
	ストレス・マネジメント	2後		2			○			1					
組織の経済学	2後		2			○		1							
戦略的問題解決型プロジェクト演習B	2前後		2				○		1					兼1	
	小計(13科目)	—	0	26	0		—		4	1	0	0	0		兼5
ファイナンスと会計科目	コーポレート・ファイナンス	2前		2			○		1						
	資産選択の意思決定	2前		2			○		1						
	管理会計	2前		2			○		1						
	財務会計	2前		2			○		1						
	国際会計	2前		2			○		1						
	経営分析	2前		2			○		1						
	証券市場	2後		2			○		1						
	財務諸表論	2後		2			○		1						
	コスト・マネジメント	2後		2			○		1						
	戦略支援システム	2後		2			○		1						
	税務会計	2後		2			○			1					
	戦略的問題解決型プロジェクト演習C	2前後		2				○		2					
	小計(12科目)	—	0	24	0		—		5	1	0	0	0		0

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
専門 応用 発展 科目	労働法の基礎	2前		2		○									兼2	共同		
	租税法の基礎	2前		2		○				1					兼1			
	経営学特殊講義A(自然保護論)	2前		2		○				1					兼1			
	商法A	2後		2		○												
	商法B	2後		2		○												
	経営学特殊講義B(行動ファイナンス)	2後		2		○				1								
	ロジカル・シンキング&ライティング	3後		2		○				1								
	実証研究の方法	3後		2		○				1								
	ケーススタディの方法	3後		2		○					1							
	小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	4	2	0	0	0	兼3			
情報 分析 科目	経営数学A	1前		2		○				1						兼1		
	経営数学B	1後		2		○				1								
	プログラミングの基礎	1後		2		○				1								
	統計学	2前		2		○				1								
	情報コミュニケーション技術	2前		2		○				1								
	ビジネスゲーム	2前		2		○				1								
	多変量解析	2後		2		○												
	ビジネス・モデリング	2後		2		○				1								
	経営情報分析	2後		2		○				1								
	小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	2	2	0	0	0	兼1			
学際 科目	Business English	2前		2		○										兼1		
	Business Presentation	2前		2		○				1								
	Global Study Skills	2前		2		○				1								
	Area Studies	2前		2		○										兼1		
	Intercultural Understanding and Global Business	2後		2		○				1								
	Topics in Global Business	2後		2		○										兼1		
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	—	1	2	0	0	0	兼1			
	実践 キャリア 創造 科目	社会理解実践講義(OB・OGが語るビジネス 最前線)	2前		2		○										兼1	
	実践ビジネス演習	3前		2				○		1						兼1		
	プロジェクト・マネジメント	3前		2				○								兼1		
モティベーション・マネジメント	3前		2				○								兼1			
実践リーダーシップ	3前		2				○		1						兼1			
社会理解実践演習	3後		2				○		1						兼1			
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼2				
学際 共通 科目	学際特殊講義(多文化社会を生きる)	2後		2		○				1								
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0			
高度 情報 分析 科目	情報分析演習	2前		2				○			1					兼1		
	マルチメディアプレゼンテーションA	2前		2		○				1								
	総合分析A	2前		2		○												
	情報分析特殊講義(SNSと情報倫理)	2前		2		○												
	マルチメディアプレゼンテーションB	2後		2		○				1								
	総合分析B	2後		2		○				1								
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	—	3	2	0	0	0	兼1			
	高度 学際 科目	International Business	2前		2		○											兼1
		Japanese Economy	2前		2		○											兼1
		Current Topics in Business and Economics	2前		2		○											兼1
International Relations		2後		2		○										兼1		
Regional Studies		2前		2		○				1								
Current Topics in Global Issues		2前		2		○										兼1		
Japanese Contemporary Issues		2後		2		○										兼1		
Japanese Traditional Culture		2後		2		○										兼1		
Current Topics in World Affairs		2前		2		○										兼1		
小計(9科目)		—	0	18	0	—	—	—	—	0	1	0	0	0	兼7			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(経営学部総合経営学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専門科目 広域基礎科目	日本史概論Ⅰ	2前		2		○								兼1
	日本史概論Ⅱ	2後		2		○								兼1
	世界史概論Ⅰ	2前		2		○								兼1
	世界史概論Ⅱ	2後		2		○								兼1
	人文地理学	2前		2		○								兼1
	自然地理学	2後		2		○								兼1
	地誌学	2後		2		○								兼1
	現代の政治学	2後		2		○								兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0				0	0	0	0	0	兼6
教職課程の 大学が独自 に設定する科目	教職特論演習Ⅰ	3後			2		○							兼1
	教職特論演習Ⅱ	4前			2		○							兼1
	学校経営と学校図書館	2前			2		○							兼1
	学校図書館メディアの構成	2後			2		○							兼1
	学習指導と学校図書館	2前			2		○							兼1
	読書と豊かな人間性	2後			2		○							兼1
	情報メディアの活用	2後			2		○							兼1
	小計(7科目)	—	0	0	14	—			0	0	0	0	0	兼4
教職の 教科及び 教職に関 する科目	教職論	1前			2		○							兼1
	教育課程論	2前			2		○							兼1
	道徳教育の指導法	3前			2		○							兼2
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2		○							兼1
	特別活動の指導法	3前			2		○							兼1
	教育方法論	2前			2		○							兼4
	生徒・進路指導論	1後			2		○							兼1
	教育相談	2前			2		○							兼2
	教育実習論	3後			1		○							兼3
	教育実習(中・高)	4通			5									兼3
	教育実習(高)	4通			3									兼3
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○							兼4
	社会科教育法A	3前			2		○							兼1
	社会科教育法B	3前			2		○							兼1
社会科・地理歴史科教育法	2後			2		○							兼1	
社会科・公民科教育法	2後			2		○							兼1	
公民科教育法	3後			2		○							兼1	
	小計(17科目)	—	0	0	37	—			0	0	0	0	0	兼8
専門科目 小計(135科目)		—	14	210	51	—			14	9	0	0	0	兼32
合計(399科目)		—	18	689	51	—			14	9	0	0	0	兼174
学位又は称号	学士(経営学)	学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等					
4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあっては、次の要件を満たした上で28単位以上修得すること。 ①「外国語(英語科目、初修外国語科目)」 「技能(日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目)」から16単位以上(このうち英語科目を必修4単位を含め6単位以上) ②「教養基礎」「持続社会探究」から8単位以上 (2) 総合経営学科専門科目にあっては、次の要件を満たした上で76単位以上修得すること。 ①「演習科目」:10単位 ②「専門基幹科目」:経営経済基礎科目にあっては、企業経営の基礎、企業会計の基礎の単位を含め10単位以上、経営専門基礎科目にあっては10単位以上 ③「専門応用発展科目」:戦略とマーケティング科目、組織と人間科目およびファイナンスと会計科目から各8単位以上を含み、応用発展共通科目を含めた科目の単位30単位以上 ④「学際科目」「高度学際科目」から6単位以上 (3) 卒業に必要な単位124単位のうち、(1)(2)から規定単位数を差し引いた残り20単位については、(1)(2)において規定単位数以上を修得した科目の単位を合計する。									1学年の学期区分		2期			
									1学期の授業期間		14週			
									1時限の授業時間		100分			

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(経済学部経済経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	桃李成蹊科目	フレッシュャーズ・セミナー	1前	2					○		15	9	1	2	兼1
		フレッシュャーズ講座	1前		1			○							兼1
		成蹊を知る	1後		2			○			1				
		成蹊教養セミナー	1前		2			○							兼2
		成蹊ボランティア	1休		2			○							
		武蔵野地域研究	1後		2			○							兼1
		成蹊環境セミナー	1休		2			○							
		地域福祉論	1前		2			○							兼1
		武蔵野市寄附講座	1後		2			○							兼1
		武蔵野地域連携セミナー	1前		2			○							兼3
		人権とジェンダー	1前		2			○							兼1
		青年の心と身体	1後		2			○			1				兼1 (共同)
		こどもと社会	1前		2			○							兼1
		老人福祉論	1前		2			○							兼1
		福祉社会に生きる	1後		2			○							兼1
		情報保障とボランティア	1前		2			○							兼4 (共同)
成蹊グローバルセミナーA	1前		2			○							兼1		
成蹊グローバルセミナーB	1後		2			○							兼1		
小計 (18科目)			2	33	0	-			16	9	1	2	0	兼19	
全学共通科目	人間形成系統 英語科目	Freshers' English	1前	1				○			1				兼18
		College English (Listening & Speaking) I	1前	1				○							兼18
		College English (Listening & Speaking) II	1後	1				○				1			兼19
		College English (Reading & Writing) I	1前	1				○							兼18
		College English (Reading & Writing) II	1後	1				○				1			兼19
		College English (Global Topics) I	2前	1				○							兼19
		College English (Global Topics) II	2後	1				○							兼17
		College English (Local Topics) I	2前	1				○							兼19
		College English (Local Topics) II	2後	1				○							兼17
		TOEFL Preparation Intermediate	1前		1			○							兼3
		TOEFL Preparation Advanced	1前		1			○							兼2
		TOEIC Preparation Intermediate	1前		1			○							兼2
		TOEIC Preparation Advanced	1前		1			○							兼2
		IELTS Preparation Intermediate	1前		1			○							兼4
		IELTS Preparation Advanced	1前		1			○							兼4
		Presentation Skills	2後		2			○							兼1
Discussion Skills	2前		2			○				1					
Writing Skills	2前		2			○							兼1		
多読で学ぶ英語と文化	2前		2			○			1	1			兼2		
映画で学ぶ英語と文化	2前		2			○			1				兼1		
ドラマで学ぶ英語と文化	2前		2			○			1				兼1		
歌で学ぶ英語と文化	2後		2			○							兼1		
小計 (22科目)			9	20	0	-			2	2			0	兼72	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学 共通科目	人間 形成系 統	日本 語力 科目	日本語表現講義	1前	2		○									兼1	
			実践漢字講座	1前	2		○										兼1
			実践日本語表現	1前	2		○										兼4
			実践話し方入門	1前	2		○										兼1
			文章読解講座	1前	2		○										兼1
			古典日本語A	1後	2		○										兼1
			古典日本語B	1前	2		○										兼2
			テーマ別日本語表現	2前	2		○										兼3
			実用文書の作り方・情報の伝え方	2前	2		○										兼2
	小計 (9科目)		0	18	0	-							0		兼14		
	キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアプランニング	1前	2		○										兼5	
		ビジネストレainingセミナー	1後	2		○										兼1	
		キャリアセミナー	2前	2		○										兼5	
		キャリア発展講義	2後	2		○										兼2	
		International Internship	2休	2		○										(共同)	
		日本企業の現状と展望	3後	2		○				2						兼1	
		インターンシップ準備講座	3前	2		○										兼1	
	インターンシップ実習	3後	2		○				1						兼1		
小計 (8科目)		0	16	0	-			2				0		兼7			
情 報 基 盤 科 目	情報基礎	1前	2		○										兼8		
	情報活用A	1後	2		○										兼2		
	情報活用B	1後	2		○										兼1		
	情報活用C	1後	2		○										兼2		
	情報活用D	1後	2		○										兼1		
	情報活用E	1後	2		○										兼1		
	情報活用F	1後	2		○										兼1		
小計 (7科目)		0	14	0	-							0		兼12			
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目	健康・スポーツの基礎	1前	2		○										兼15		
	スポーツと科学	1後	2		○										兼1		
	スポーツと文化	1後	2		○										兼1		
	スポーツと社会	1後	2		○										兼1		
	健康と科学	1後	2		○										兼1		
	スポーツと身体	1休	2		○												
	健康・スポーツの発展A I	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展A II	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展A III	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展A IV	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展B I	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展B II	1後	2				○								兼16		
	健康・スポーツの発展B III	1休	2				○										
	健康・スポーツの発展B IV	1休	2				○										
健康・スポーツの発展S I	1休	2				○								兼16			
健康・スポーツの発展S II	1後	2				○											
健康・スポーツの発展S III	1休	2				○											
健康・スポーツの発展S IV	1休	2				○											
小計 (18科目)		0	36	0	-							0		兼21			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	文化創造系統 総合文化科目	哲学の基礎	1前	2		○									兼3
		倫理学の基礎	1前	2		○									兼2
		心理学の基礎	1前	2		○				1					兼2
		自己理解の心理学	1前	2		○				1					兼2
		文学への招待	1前	2		○				1					兼1
		現代社会と哲学	2後	2		○									兼1
		現代社会と倫理学	2後	2		○									兼1
		現代社会と宗教	2前	2		○									兼1
		日本の思想史	2前	2		○									兼1
		脳科学と心	2前	2		○									兼1
		こころの健康と臨床	2前	2		○					1				
		音楽への招待	2前	2		○									兼1
		美術への招待	2前	2		○									兼1
		人間と美術	2後	2		○									兼1
		多文化主義と文学	2前	2		○									兼1
		サブカルチャーと文学	2前	2		○									兼1
		舞台芸術論	2前	2		○									兼1
		ことばの科学	2休	2		○									
		ファッションと文化	2前	2		○									兼1
		映像と文化	2前	2		○									兼1
		映像と人間	2後	2		○									兼1
		文化人類学の考え方	2後	2		○									兼1
		政治学の基礎	1前	2		○					1			1	兼1
		経済学の基礎	1前	2		○					1	1			兼2
		社会学と現代	1前	2		○					1				兼2
		日本国憲法	1前	2		○									兼1
		市民生活と法Ⅰ	1後	2		○									兼1
		市民生活と法Ⅱ	1前	2		○									兼1
		日本の政治	2休	2		○									
		現代の国際政治	2後	2		○									兼1
		日本と世界の経済	2前	2		○					1				
		企業と社会	2後	2		○							1		
		現代のマスメディア	2前	2		○					1				
		コミュニケーションと社会	2前	2		○									兼1
		社会心理学入門	2前	2		○									兼1
		社会と統計	2前	2		○									兼1
		裁判と社会	2後	2		○									兼1
		生命倫理と法	2休	2		○									
		科学的に考える	1前	2		○									兼7
		環境と科学	1前	2		○									兼2
		物質の究極像	2後	2		○									兼1
		人間と進化	2後	2		○									兼1
		天文学入門	2前	2		○									兼2
		薬はなぜ効くか	2後	2		○									兼1
		身の回りの科学	2前	2		○									兼1
		科学技術の発展と歴史	2休	2		○									
		科学と哲学	2前	2		○									兼1
		環境論	2後	2		○									兼1
		気象と地球環境	2後	2		○					1				
小計 (49科目)			一	0	98	0	一			4	3		2	0	兼46

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
全学 共通科目	文化 創造系 国際理 解科目	ドイツ語基礎A I	1後	1		○									兼2
		ドイツ語基礎A II	2前	1		○									兼2
		ドイツ語基礎B I	1後	1		○									兼1
		ドイツ語基礎B II	2前	1		○									兼1
		フランス語基礎A I	1後	1		○				1					兼1
		フランス語基礎A II	2前	1		○				1					兼1
		フランス語基礎B I	1後	1		○									兼2
		フランス語基礎B II	2前	1		○									兼2
		スペイン語基礎A I	1前	1		○				1					兼3
		スペイン語基礎A II	2前	1		○				1					兼3
		スペイン語基礎B I	1前	1		○									兼4
		スペイン語基礎B II	2前	1		○									兼4
		中国語基礎A I	1前	1		○									兼7
		中国語基礎A II	2前	1		○									兼7
		中国語基礎B I	1前	1		○									兼7
		中国語基礎B II	2前	1		○									兼7
		韓国語基礎A I	1後	1		○									兼3
		韓国語基礎A II	2前	1		○									兼3
		韓国語基礎B I	1後	1		○									兼3
		韓国語基礎B II	2前	1		○									兼3
		ドイツ語基礎A III	2後	1		○									兼2
		ドイツ語基礎B III	2後	1		○									兼2
		フランス語基礎A III	2後	1		○									兼1
		フランス語基礎B III	2後	1		○									兼1
		スペイン語基礎A III	2後	1		○				1					兼2
		スペイン語基礎B III	2後	1		○									兼2
		中国語基礎A III	2後	1		○									兼2
		中国語基礎B III	2後	1		○									兼2
		韓国語基礎A III	2後	1		○									兼2
		韓国語基礎B III	2後	1		○									兼2
		ドイツ語演習言語と文化 I	3前	2		○									兼1
		ドイツ語演習言語と文化 II	3後	2		○									兼1
		ドイツ語演習検定対策 I	3休	2		○									
		ドイツ語演習検定対策 II	3休	2		○									
		ドイツ語演習プレゼンテーション I	3前	2		○									兼1
		ドイツ語演習プレゼンテーション II	3後	2		○									兼1
		フランス語演習言語と文化 I	3前	2		○					1				
		フランス語演習言語と文化 II	3後	2		○					1				
		フランス語演習検定対策 I	3前	2		○									兼1
		フランス語演習検定対策 II	3後	2		○									兼1
		フランス語演習プレゼンテーション I	3前	2		○									兼1
		フランス語演習プレゼンテーション II	3後	2		○									兼1
スペイン語演習言語と文化 I	3前	2		○									兼1		
スペイン語演習言語と文化 II	3後	2		○									兼1		
スペイン語演習検定対策 I	3休	2		○											
スペイン語演習検定対策 II	3休	2		○											
スペイン語演習プレゼンテーション I	3前	2		○									兼1		
スペイン語演習プレゼンテーション II	3後	2		○									兼1		
中国語演習言語と文化 I	3前	2		○									兼1		
中国語演習言語と文化 II	3後	2		○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	文化 創造 系統 国際 理解 科目	中国語演習検定対策Ⅰ	3前	2		○									兼1	
		中国語演習検定対策Ⅱ	3後	2		○									兼1	
		中国語演習プレゼンテーションⅠ	3前	2		○									兼1	
		中国語演習プレゼンテーションⅡ	3後	2		○									兼1	
		韓国語演習言語と文化Ⅰ	3休	2		○										
		韓国語演習言語と文化Ⅱ	3休	2		○										
		韓国語演習検定対策Ⅰ	3前	2		○										兼1
		韓国語演習検定対策Ⅱ	3後	2		○										兼1
		韓国語演習プレゼンテーションⅠ	3前	2		○										兼1
		韓国語演習プレゼンテーションⅡ	3後	2		○										兼1
		ドイツ語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		ドイツ語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		ドイツ語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		ドイツ語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		フランス語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		フランス語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		フランス語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		フランス語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅰ	2前	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅱ	2後	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		中国語会話Ⅰ	2前	1		○										兼5
		中国語会話Ⅱ	2後	1		○										兼5
		中国語会話Ⅲ	3前	1		○										兼3
		中国語会話Ⅳ	3後	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		韓国語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		異文化理解A	1前	2		○					1					兼18
		異文化理解B	1後	2		○					2					兼3
		世界の言語	1前	1		○										兼3
		近現代日本史A	1前	2		○										兼2
		近現代日本史B	1前	2		○										兼3
		戦後の日本と世界	1前	2		○										兼3
		現代日本の地理	1前	2		○					1					
		現代世界の地理	1前	2		○										兼2
		国際教養総合講義	1前	2		○										兼3
		近現代アジア史A	2前	2		○										兼1
		近現代アジア史B	2後	2		○										兼1
		近現代欧米史A	2前	2		○										兼2
		近現代欧米史B	2後	2		○										兼2
		歴史トピックス	2前	2		○										兼2
		アジア地域理解	2前	2		○										兼1
		ヨーロッパ地域理解	2前	2		○					1					
		北米地域理解	2後	2		○										兼1
イスラーム世界理解	2後	2		○										兼1		
地域理解トピックス	2前	2		○										兼2		
海外研修A	1休	2		○												
海外研修B	1休	2		○												
小計 (101科目)		—	0	151	0	—			3				0	兼73		
全学共通科目 計 (232科目)		—	11	386	0	—			21	10	1	2		兼254		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
演習科目	上級演習Ⅰ	3前	2				○		24	5	1			
	上級演習Ⅱ	3後	2				○		24	5	1			
	卒業研究	4前	4				○		24	3				
	トピックス演習	1後		2			○		1	2				
	コア演習	2前		2			○		5	3				
	経済経営ワークショップ	3後		4			○		1					
	小計(6科目)	—	8	8	0		—		25	7	1		0	
A群	マクロ経済学入門Ⅰ	1前		2		○			3			1		
	ミクロ経済学入門Ⅰ	1前		2		○			4					
	会社入門	1前		2		○			1	1		1		
	統計入門	1前		2		○			3	1				
	マクロ経済学入門Ⅱ	1後		2		○			3			1		
	ミクロ経済学入門Ⅱ	1後		2		○			4					
	企業経営入門	1後		2		○			3			1		
	企業会計入門	1後		2		○			3			1		
	小計(8科目)	—	0	16	0		—		17	2		2	0	
B群	マクロ経済学	2前		2		○					1	1		
	ミクロ経済学	2前		2		○			2					
	ゲーム理論	2前		2		○			1					
	財政学	2前		2		○			1		1			
	国際経済学	2前		2		○			2					
	金融経済学	2前		2		○			1					
	競争戦略	2前		2		○				1				
	マーケティング	2前		2		○			1					
	人間行動と組織	2前		2		○			2					
	ファイナンスの基礎	2前		2		○			1					
	経営分析	2前		2		○			1					
	経営科学	2前		2		○			2					
	基盤特殊講義	2後		2		○				1				
小計(13科目)	—	0	26	0		—		11	2	1	1	0		
A群(経済理論)	上級マクロ経済学	2後		2		○					1			
	上級ミクロ経済学	2前		2		○			1					
	国際マクロ経済学	2後		2		○			1					
	経済発展論	2後		2		○			1					
	情報の経済学	2後		2		○			1					
	公共経済学	2後		2		○				1				
	法と経済	2前		2		○			1					
	組織の経済学	2後		2		○			1					
小計(8科目)	—	0	16	0		—		5	1	1		0		
B群(産業と金融)	産業の経済学	2前		2		○			1					
	産業と政策	2後		2		○			1					
	観光の経済学	2前		2		○			1					
	産業と立地	2前		2		○			1					
	企業の国際戦略	2後		2		○			1					
	日本の金融制度	2後		2		○			1					
	国際金融	2前		2		○			1					
	環境経済学	2前		2		○				1				
小計(8科目)	—	0	16	0		—		5	1			0		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
経済学部開設科目	C群 (くらしと経済)	労働経済学	2前	2		○			1							
		労働市場のしくみと制度	2後	2		○			1							
		教育経済学	2後	2		○					1					
		福祉の経済学	2後	2		○			1							
		年金の経済学	2前	2		○			1							
		医療と健康の経済学	2後	2		○			1							
		土地と住宅の経済学	2後	2		○			1							
		地域と交通政策	2前	2		○										兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			3		1			0	兼1	
	D群	地方公共政策	2前	2		○			1							
		開発経済学	2後	2		○			1							
		経済地理	2後	2		○			1							
		現代日本経済	2前	2		○			1							
		地域振興の実践	2後	2		○			1							
		経済学特殊講義	2前	2		○										兼4
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			5					0	兼4	
A群 (戦略とマーケティング)	経営戦略	2後	2		○				1						兼1	
	情報戦略	2後	2		○											
	ブランド戦略	2前	2		○					1						
	広告と市場	2前	2		○					1						
	消費者行動	2後	2		○			1								
	生産管理	2前	2		○										兼1	
	イノベーションと製品開発	2後	2		○										兼1	
	国際経営	2前	2		○			1								
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	2				0	兼2	
	B群 (組織と人間)	人的資源管理	2後	2		○			1							
人事政策		2前	2		○			1								
人間情報処理		2前	2		○			1								
組織と管理		2前	2		○										兼1	
意思決定科学		2前	2		○			1								
コーチングの基礎		2後	2		○										兼1	
職場の心理学		2後	2		○										兼1	
カウンセリングの基礎		2後	2		○					1						
小計(8科目)	—	0	16	0	—			3	1				0	兼3		
C群 (財務と会計)	コーポレート・ファイナンス	2後	2		○			1								
	資産選択の意思決定	2前	2		○			1								
	証券市場	2後	2		○			1								
	管理会計	2前	2		○			1								
	財務会計	2前	2		○			1								
	財務諸表論	2後	2		○			1								
	国際会計	2前	2		○			1								
	コストマネジメント	2後	2		○										兼1	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			4					0	兼1	
D群	戦略支援システム	2後	2		○			1								
	環境と経営戦略	2前	2		○			1								
	組織と社会	2後	2		○			1								
	企業の社会的責任	2後	2		○										兼1	
	基本簿記	2前	2		○			1								
	経営学特殊講義	2前	2		○			3	1						兼5	
小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	1				0	兼6		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学際基礎科目	基礎解析	1前		2		○			2	1					
	行列	1前		2		○			2	1					
	統計学	1後		2		○				1					
	プログラミングの基礎	1後		2		○				1					
	経済史の基礎	1後		2		○			1						
	環境問題の基礎	1後		2		○				1					
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	2			0		
学際科目	A群 (数学情報)	解析	2後	2		○			1						
		確率	2前	2		○			1						
		多変量解析	2後	2		○						1			兼1
		データの活用	2前	2		○									
		エコノメトリクス入門	2前	2		○			1						
		上級エコノメトリクス	2後	2		○			1						
		経営情報分析	2後	2		○			1						
		ビジネスゲーム	2前	2		○			1						
		小計(8科目)	—	0	16	0	—			6			1	0	兼1
		B群 (環境)	環境社会学の基礎	2前		2		○			1				
環境と社会システム	2後			2		○			1						
地球環境問題	2後			2		○								兼1	
環境とGIS	2前			2		○				1					
環境経営実践	2前			2		○								兼1	
日本の環境政策	2前			2		○				1					
小計(6科目)	—	0	12	0	—			1	2			0	兼2		
C群 (歴史)	日本経済史A	2前		2		○			1						
	日本経済史B	2後		2		○			1						
	西洋経済史A	2前		2		○								兼1	
	西洋経済史B	2後		2		○								兼1	
	社会史	2後		2		○			1						
	社会経済思想史	2前		2		○			1						
	数量経済史	2後		2		○			1						
	比較経済史	2後		2		○			1						
	地域経済史	2前		2		○			1						
小計(9科目)	—	0	18	0	—			3				0	兼1		
D群	欧米地域研究	2前		2		○			1						
	アジア地域研究	2前		2		○								兼1	
	職業生活の法律	2前		2		○								兼1	
	雇用と労働法	2後		2		○								兼1	
	企業をとりまく法律	2前		2		○								兼1	
	金融に関する法律	2後		2		○								兼1	
	対人関係の心理学	2後		2		○								兼1	
	学際分野特殊講義	2前		2		○			2	2				兼2	
	社会理解実践講義	2前		2		○			2					兼15	
	社会理解実践演習	2後		2			○							兼2	
小計(10科目)	—	0	20	0	—			4	2			0	兼24		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
経済学部開設科目	情報分析プログラム	情報分析演習Ⅰ	2前	2			○		1						兼1 兼1	
		情報分析演習Ⅱ	2後	2			○			1						
		情報分析演習Ⅲ	3前	2			○		1							
		情報分析演習Ⅳ	3後	2			○			1						
		総合分析A	2後	2			○		1							
		総合分析B	2後	2			○		1							
		マルチメディアプレゼンテーションA	2前	2			○		1							
		マルチメディアプレゼンテーションB	2前	2			○		1							
		情報分析特殊講義A	2前	2			○		2	2						
		情報分析特殊講義B	3休	2			○									
	小計(10科目)		—	0	20	0	—	—	6	2				0	兼1	
	高度学際科目	成蹊国際コース	Independent Study I	2前	2			○			1					兼4
			Independent Study II	2後	2			○			1					兼4
			Independent Study III	3前	2			○			1					兼4
			English for the Work Place	2後	2			○								兼1
			Cross Cultural Communication Skills	2前	2			○								兼2
			Academic Listening	2前	2			○								兼1
			Intensive Reading	2前	2			○			1					
			Discussion & Presentation	2後	2			○								兼1
			Essay Writing	2後	2			○								兼2
			Global Perspectives	2前	2			○			1					兼3
			Embracing Cultural Diversity	2前	2			○								兼1
			History and the World	2後	2			○								兼1
			International Societies and Representation of "Others"	2前	2			○								兼1
			Regional Studies Seminar	2前	2			○				1				
			Seminar on Culture	2後	2			○								兼2
			Current Topics	2後	2			○				1				
			Exploring Media Literacy	2前	2			○			1					
			Global Peace Studies	2後	2			○								兼1
			Global Values	2休	2			○								
			Science and Technology in the World	2後	2			○								兼1
			World Politics in Comparative Perspective	2後	2			○								兼1
			Seminar on Communication Strategy A	2休	2			○								
			Seminar on Communication Strategy B	2休	2			○								
World Englishes			2後	2			○			1						
小計(24科目)		—	0	48	0	—	—	3	3				0	兼21		
経済学部開設科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		日本史概論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		世界史概論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		世界史概論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		人文地理学	2前	2			○			1						
		自然地理学	2後	2			○				1					
		地誌学	2後	2			○								兼1	
		現代の政治学	2後	2			○								兼1	
	小計(8科目)		—	0	16	0	—	—	1	1				0	兼4	
	自己設計科目	海外研修C	1休		2			○								
海外研修D		1休		2			○									
海外研修E		1休		2			○									
海外研修F		1休		2			○									
海外研修G		1休		2			○									
海外研修H	1休		2			○										
検定試験 単位認定 科目	検定試験	1休		2												
小計(7科目)		—	0	14	0	—	—						0			
経済学部開設科目 計(175科目)		—	8	346	0	—	—	30	10	1	2	0	0	兼68		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自に設定する科目 教職課程の大学が独	教職特論演習Ⅰ	3後			2		○								兼1
	教職特論演習Ⅱ	4前			2		○								兼1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○									兼1
	学校図書館メディアの構成	2後			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	2前			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性	2後			2	○									兼1
	情報メディアの活用	2後			2	○									兼1
	小計(7科目)	—	0	0	14	—							0		兼4
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	1前			2	○									兼1
	教育原理	1前			2	○									兼1
	学校と社会	1後			2	○									兼1
	教育心理学	1前			2	○									兼1
	特別支援教育概論	2前			2	○									兼2
	教育課程論	2前			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	1後			2	○									兼1
	教育方法論	2前			2	○									兼4
	教育相談	2前			2	○									兼2
	道徳教育の指導法	3前			2	○									兼2
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	○									兼1
	特別活動の指導法	3前			2	○									兼1
	教育実習論	3後			1	○									兼3
	教育実習(中・高)	4通			5			○							兼3
	教育実習(高)	4通			3			○							兼3
	教職実践演習(中・高)	4後			2			○							兼4
	社会科教育法A	3前			2	○									兼1
社会科教育法B	3前			2	○									兼1	
社会科・地理歴史科教育法	2後			2	○									兼1	
社会科・公民科教育法	2後			2	○									兼1	
地理歴史科教育法	3後			2	○									兼1	
公民科教育法	3後			2	○									兼1	
小計(17科目)	—	0	0	47	—								0	兼11	
教職課程科目 計 (24科目)		—	0	0	61	—									兼14
合計 (431科目)		—	19	732	61	—				32	11	1	2		兼315
学位又は称号		学士(経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通科目からは、桃李成蹊科目と人間形成系統から必須科目11単位を含め20単位、文化創造系統から14単位修得すること。学部の専門科目からは、演習科目の必修8単位と選択科目から66単位を修得し、学部の専門科目と全学共通科目を合わせて124単位以上修得すること。(年間履修上限：40単位)							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) I	この授業科目は、会話相手と円滑なコミュニケーションを取るために、相手の言うことを正確に聞き取って理解する力、そして相手の言うことを踏まえて自分が伝えたいことを伝えられるようになる力(発信する力)を鍛えることを目的とする。まずは、日常会話を正確に聞き取れるようになるために、ボキャブラリー増強を含むリスニングの訓練を集中的に行う。その後、習熟度に応じて、より高度なリスニングのスキルを身につけることを目指す。さらに、徐々に話す練習も取り入れていき、日常会話で用いる言い回しなどを学ぶ。	
		英語科目	College English (Reading & Writing) I	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、英文読解力を身につけ、自分の意見などを英語で表現できるようになることを目標とする。リーディングでは易しいと感じられるレベルの英文をたくさん読むことに加え、さまざまなトピックに関する英文にもチャレンジすることで、英文を読むことは必ずしも逐語訳をすることではないことを理解し、英文読解力を段階的に伸ばす。さらにインプットした英語を定着させるために、読んだ内容に対する自分の考えや感じたことを英語で書くなど、習熟度に応じてさまざまなライティングのアクティビティを行う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) II	この授業科目は、College English Listening & Speaking I である程度英語の音に慣れていることを前提に、より高度で、かつ多岐にわたるトピックを扱い、円滑なコミュニケーションが取れるようにリスニング力、およびスピーキング力(発信力)を養うことを目的とする。まずは特定の場面を想定した練習を行うことで、場面に応じた適切なスピーキングスキルを身につける。さらに、習熟度に応じて、様々なシチュエーションに対応し、より自由に話せるような表現力とボキャブラリーの増強を図る。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Reading & Writing) II	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、College English Reading and Writing I で養ったリーディング力及びライティング力をさらに伸ばすことを目標とする。リーディングでは、より多岐にわたるジャンルやトピックの英文にチャレンジし、目的に応じた読み方を身につけながらボキャブラリーの増強も図る。さらにインプットした英語を自分でも使いこなせるようになるために、テキストの要約などさまざまなテーマ・形式のライティングを通して表現の幅をさらに広げていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Intensive English I	この授業科目は、グローバル社会に通用するコミュニケーション能力および異文化理解能力の育成を目指す。まず毎日25分間の英会話が可能なおんライン英会話サービスを授業内外で利用し、個人のレベルとニーズに合わせて主に会話能力(リスニング・スピーキングのスキル)を伸ばしていく。その際、その土台となる語彙・文法知識もトピックに合わせて定着を図っていく。さらに、多様なトピックについて話し合いながら異なる視点への理解を深め、同時に自分の考えをより客観的、論理的に表現できるように批判的思考力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Intensive English II	この授業科目は、Intensive English I に引き続き、グローバル社会に通用するコミュニケーション能力および異文化理解能力の育成を目指す。I と同様に会話能力（リスニング・スピーキングのスキル）のさらなる向上を図る。また、語彙・文法知識についてもトピックに合わせて、より幅広く、アカデミックな内容に焦点を当てていく。 さらに、多様なトピックについて話し合いながら異なる視点への理解を深め、同時に自分の考えをより説得力を持って発信できるように批判的思考力を養う。	
		英語科目	College English (Integrated Skills) I	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、1年次に身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに応用し、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Integrated Skills) II	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、College English (Integrated Skills) I で身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに伸ばし、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	
		英語科目	TOEFL Preparation Introduction	この授業科目は、将来留学を希望する学生や英語力を向上させたい学生のための TOEFL の入門授業である。原則として TOEIC400 点以上（または英検準2級・3級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式を理解し、それに則って、各セクション（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の実践的な指導を行いながら、アカデミックな内容を英語で理解し、発信できる基礎力、それを支える語彙力をつけ、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Intermediate	この授業科目は、将来留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験対策の授業である。原則として TOEIC470 点以上（または英検準2級・2級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式に則り、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行いながら、Introduction より高度でアカデミックな内容を英語で理解できるようにすることを目指して、語彙力強化も行き、総合的な英語力の向上に努める。	
		英語科目	TOEIC Preparation Introduction	この授業科目は、主に TOEIC400 点以上の学生を対象として、英語の基礎力をつけ、TOEIC スコアの向上を図る科目である。TOEIC のテスト形式に慣れることを第一に、各セクション（リスニングおよびリーディング）の実践的指導を、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEIC Preparation Intermediate	この授業科目は、主に TOEIC470 点以上の学生を対象とする。TOEIC スコアを向上させより高い英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることをふまえて、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を、Introduction よりも実践的に、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
		英語科目	IELTS Preparation Introduction	この授業科目は、英語力を身につけ、将来留学を希望する学生のための IELTS 受験にあたっての入門科目である。原則として TOEIC400 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得するための学習に習熟することを目指す。履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、IELTS の問題の性質を理解するとともに、履修者同士の会話のセッションなどを通じて実用的な英語運用力の向上（特に、留学時や海外渡航時に役立つ英語力の向上）を目指す。今後の英語学習方法についても指導を行う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Intermediate	この授業科目は、留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備、および会話力をはじめとする英語力向上のための授業である。原則として TOEIC470 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、Introduction において理解した IELTS の問題の性質をふまえ、より高いスコアが取れるようになることを目指すと同時に、履修者同士の会話のセッションなども取り入れて、留学先で役立つ実用的な英語運用力向上を目指す。	
		英語科目	基礎からのコミュニケーション英文法	この授業科目は、自分が伝えたいことを確実に伝えられるようになる為に、英語のルールにかなった表現を効果的に用いる力(ちから)、つまり「文法を使える力」の習得を目的とする。文法書を片手に文法を学ぶのではなく、コミュニケーションの場面で必要となる英語のルールを、実践を通じて学ぶ。高校までに学んだ文法事項の知識を最大限に活用しながらグループワークやペアワークに挑戦し、基礎的な文法の知識を定着させるとともに「聴く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばし、自信を持ってコミュニケーションに臨める姿勢を養う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	自分でデザインする英語学習	この授業科目は、様々な英語学習方法を実践し、その学習効果を理解しながら自分の学習スタイルに適した学習方法を探求することを目的とする。また、段階的目標（短期・中期・長期）を設定し、実績に応じて計画の見直しや軌道修正を行うことも学ぶ。学生一人ひとりが今までの自分の学習スタイルを見つめ直し、より効果的なスタイルを考え、英語学習を継続するコツを見つける。授業外でも楽しみながら英語に触れる時間をできるだけ多く持たせ、自主的な取り組みを促す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	英語発音トレーニング	この授業科目は、英語の発音をより良くしたい、留学前に発音を良くしておきたい、あるいは英語を使った仕事に就きたいのでよりよい発音を身につけたい、というような学生の要望に対応する授業である。単純な反復練習のみを繰り返し行う訓練をするだけでなく、日本語と比較しながら英語の発音について体系的に学び、「なぜ難しいのか」「何をどうすれば発音がより良くなるのか」について考えながら、英語発音の習得と上達を目指す。	
		英語科目	英語読解トレーニング	この授業科目は、アカデミックな英文の精読演習(Intensive Reading)を通じて、高度な英文読解力を養うことを目的とし、特に大学生が自らの知的関心の対象についてより深く学ぶために必要となる学術性や専門性の高い英文を読む力を伸ばしていく。英語圏の高校生・大学1,2年生が使用する教科書や、知的関心の高い一般読者向けの読み物などから、大学生の好奇心を刺激する様々なトピックを選び、文構造やテキスト構成の解析を通して、英語による高度な議論の内容を正解に把握する力を養う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Basic	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。プレゼンテーションに便利な語彙や言い回しを学び、流暢に使えるようにすると共に、グループでプレゼンテーションの練習をして自信をつけていく。また、グループメンバーのサポートを得てクラスの前で発表する機会も多く設ける。扱うトピックはインフォーマルなものを主とし、学生自身が各自の興味に沿って選ぶものとする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Basic	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要な語彙や句を学習し、自分のものとして使えるように練習を行う。学生は、自信を持って話せるトピックを自ら選び、堅苦しくない雰囲気の中でディスカッションを行う。本科目の履修を通して、学生は自分の意見を自信を持って主張し、議論に参加することを目標とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Writing Skills (Paragraph)	この授業科目は、与えられたテーマについてまとまりのあるわかりやすいパラグラフ(段落)が書けるようになることが目標である。論理的なパラグラフを書くためには、モデルとなるパラグラフを読むことでパラグラフの構成を理解し、ライティングのルールや効果的な表現方法を学ぶことも大切である。書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いパラグラフの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Intermediate	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。学生はより高度なプレゼンのストラテジー(例:視覚資料を効果的に使用する、計画通りに時間を守る、内容を聴衆に合わせる)を学ぶ。プレゼンテーションは個人で行うが、クラスメイトからのサポートやフィードバックも受ける。また、プレゼンのトピックはビジネス、アカデミック、ニュースのような時事的なものまで幅広く扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Intermediate	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要なテクニクやストラテジーを学習し、中断、反論、小グループのディスカッションのリードの仕方などを適切に行う方法を学ぶ。トピックは、ビジネス会議、アカデミックセミナー、政治討議など様々なコンテキストを含むものから選ぶ。本科目の履修を通して、学生は様々なコンテキストやトピックにおけるディスカッションに参加し、リードできるようになることを目標とする。	
		英語科目	Writing Skills (Essay)	この授業科目は、Writing Skills (Paragraph)で学んだパラグラフライティングの基礎を基に、論理的なエッセイが書けるようになることが目標である。論理的なエッセイを書くためには、モデルとなるエッセイを読むことで効果的な文章構成を学び、引用の仕方や自分の意見を明確に且つ説得力を持たせるための手法など、より高度なライティングスキルを身につけることが大切である。Writing Skills (Paragraph)同様、書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとクラスメイトとのピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いエッセイの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	多読で学ぶ英語と文化	この科目は、今よりも英語力を大きく伸ばしたい、そしてそれを楽しく無理なく達成できる学習法があるのならばぜひともやりたいと思う人のためのものである。おそらくほとんどの人が、これまでに触れてきた英語をはるかに上回る量の英文を読むことになるであろう。それによって英語を、日本語を介することなく自然に英語のまま理解できるようにすることを目指す。それを無理なく達成するために、最初はスラスラと読める易しい絵本から始め、そのスピードを保ったまま徐々にレベルの高い本を読んでいく。また、さまざまなジャンルの本を読むことによって英語圏の文化や社会に関する知識が増えていくため、英語に対する理解も深まることになる。最終的には、英語にとことん慣れ親しみ、日常的に英語に触れることを習慣にしてもらいたい。	
		英語科目	映画で学ぶ英語と文化	この授業科目は、映画を通じて英語とともに映画の中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルの映画自体について学ぶことを目標とする。映画を原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい。俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、映画は大変良い教材である。映画を素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、映画作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	ドラマで学ぶ英語と文化	この授業科目は、テレビドラマを通じて英語とともにドラマの中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルのドラマ自体について学ぶことを目標とする。ドラマを原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい。俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、ドラマは大変良い教材である。テレビドラマを素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、ドラマ作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	歌で学ぶ英語と文化	この授業科目は、英語の歌を通して英語とともに歌詞やそのメッセージに映し出された英語圏の文化や思想、ならびに文化としての様々なジャンルの洋楽について学ぶことを目標とする。洋楽と称される広いジャンルを含む英語の歌は、英語の音やリズム、英語の語彙や英語圏の人々のものの考え方など、英語圏の言語や文化に関しての優れた教材である。さまざまなジャンルの英語の歌を取り上げ、実際に歌詞を聞き取りながらその意味や背景を考え、歌詞に出てくる英語の表現の意味やニュアンスに対する理解を深めるとともに、英語のリズムや音声に対する理解も深める。また、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、歌にこめられた文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	
		英語科目	メディアで学ぶ英語と文化	この授業科目は、国内外の様々な英語メディアで発信される、幅広い種類のメッセージを扱うことで、英語とともに英語圏の文化的・社会的側面について学ぶことを目標とする。メディアが多様化する現在、英語での情報収集や英語で表現されたメッセージを読み解く力はますます重要となっている。新聞、テレビといった従来のメディアのみならず、インターネット上のニュース、さらには SNS のような媒体で発信される情報を読み解く力を育成し、教科書には出てこない、今の時代を映し出す旬の話題やそれを表現する言い回しなどを学ぶ。また、そうした情報を通じて、国際関係(世界各国のつながりやかけひき)、および日本の政治・経済の仕組みや問題点などを理解し、さらにインターネットを含むメディアにあふれる情報の中から正しい情報を選別する力を養い、将来も役立つメディアリテラシーを高める機会とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	キャリアのための英語と文化	この授業科目は、社会人として必要とされる英語のスキルを幅広く扱うものである。職場ではどのような英語のスキルが必要か、想像することが難しい学生たちに対し、英文メールの書き方、英文履歴書の書き方、英語でのビジネスプレゼンテーションやディスカッション、図表の書き方/説明の仕方、関心のある業種・企業の事業内容の英語での説明など、多岐にわたるビジネス関連の英語の具体的な例と文化的背景を学ぶ機会を提供することで、学生への就職への意欲と成功にもつなげることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Advanced I	この授業科目は、TOEFL Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション(リスニング、文法、リーディング)の実践的な指導を行い、スキル向上を図る。また、ハイレベルな文献等を理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Advanced II	この授業科目は、TOEFL Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション(リスニング、文法、リーディング)の実践的な指導を行い、スキル向上に努める。また、高度でアカデミックな内容を英語で正しく理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、社会人として必要な4技能の総合的な英語力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Advanced I	この授業科目は、IELTS Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学が必要とされる IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクション（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）の実践的な指導を行い、各スキルの向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要なコミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
			IELTS Preparation Advanced II	この授業科目は、IELTS Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクションの実践的な指導を行い、各スキルのさらなる向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要な(理解力も含めた)コミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEIC Preparation Advanced	この授業科目は、主に TOEIC550 点以上の学生を対象とする。更に高度な英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることを前提に、正確な英語の理解に重点をおきながら、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を実践的に行う。コンピュータや情報通信ネットワークの活用を交えながら指導する。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する	
全学共通科目	外国語	英語科目	Media English	この授業科目では、時事問題ニュースを主な題材として、国内外の現況や社会的テーマについて英語で理解し、発信できる能力を養う。米国 ABC World News, TIME, Newsweek などアメリカを中心とする海外の主要なメディアが発信するニュースを聞き、または読み、メディアで使用される特徴的な英語に慣れる訓練を行う。またこのような情報源から得られた内容について客観的な批評ができるようにメディアリテラシーを身につけ、批判的能力を養う。そして、自らも口頭または文章で時事問題に関する意見が述べられるようになることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Academic Listening	この授業科目は、英語 4 技能のうち、リスニング力を鍛える授業である。リスニングのコツを学び、様々な英語を聞いてその要旨や必要な情報を聴き取るスキルを身につける。特に留学先で講義を受けることを見据え、アカデミックな講義内容を聴き取るためのストラテジーや効果的なノートの取り方などについて実践的に学んでいく。さらには、TED などを適宜活用して、世界トップレベルの優れた講義に実際に触れることで、教養知識を深めることがねらいである。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Cross Cultural Communication Skills	この授業科目では、異なる文化を有する人々とのコミュニケーションを円滑に行うスキルを学ぶ。ステレオタイプ、アイデンティティ・価値観の相違、言語・非言語コミュニケーション、カルチャーショックといった異文化交流の主要なテーマや問題点を学び、自文化と他文化を客観的に見つめる術を身につける。さらにはロールプレイなど実践的なアクティビティーを通して異文化適応能力を高める。また、世界における多様な文化に関する知識を深めることもこの科目のねらいである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion & Presentation	この授業科目は、英語4技能のうち、スピーキング力を鍛える授業である。とりわけ英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力を伸ばすことを目的とする。ディスカッションでは、アカデミックな議論において頻繁に使われる定型表現などを学び、実際にディスカッションをこなして実践力をつけていく。プレゼンテーションについては、基本構造、頻出表現、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びつつ、自らもプレゼンテーションを行うことで発表力を養っていく。	
		英語科目	English for the Workplace	この授業科目は、グローバル化が進む世界の中で将来のキャリアにおいても役に立つ実践的なスキルを取得することを目的とする。メールを書く、アポをとる、履歴書やカバーレターを書く、面接を受ける、などといったフォーマルな場面やビジネスの場で必要とされる英語を学びながら、それぞれの強みや弱点について振り返り、今後のキャリアについて考える契機とする。その際、特に国際的なキャリアについても考えていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Essay Writing	この授業科目は、英語4技能のうち、ライティング力を鍛える授業である。英語のエッセイ(小論文)の書き方を学び、自分の考えを英語で論理的に提示できるようにすることを目的とする。パラグラフの基本構造や書き方を復習しつつ、より長い小論文に取り組み、適切なトピックの選び方、アウトラインの作成、目的に合ったパラグラフの構成(比較、例示、説得、原因と結果など)や内容に合う文体(スタイル)、校正の仕方などを学ぶ。	
		英語科目	Intensive Reading	この授業科目は、英語4技能のうち、リーディング力を鍛える授業である。様々なリーディングのストラテジーなどを学び、アカデミックな内容の英文を読み込む力を身につける。論文や専門書など、実際に高度な内容の英文に取り組むと同時に、大量のリーディング課題を読みこなすコツを学ぶ。自分の専門分野の文献を実際に読んで、英語で専門知識を増やしていくことも、この科目のねらいである。	
全学共通科目	外国語	英語科目	World Englishes	この授業科目は、グローバル社会における英語の多様性を理解し、アメリカ英語またはイギリス英語のみを基準とするのではなく、世界で使われている様々な英語に適応できる力を身につけることを目的とする。具体的には、イギリス、アメリカに加えアジア、ヨーロッパの国々をいくつか取り上げ、各英語方言の特徴について文献や映像音声資料などから学ぶと同時に、各国の言語事情や社会文化的背景についても理解を深めていく。さらには他国の事情を学ぶことで日本における英語学習についても理解を深める。なお、実践的に英語の多様性に親しむため、可能な範囲でゲストスピーカーを迎え、生の交流を体験する。	
		初修外国語科目	ドイツ語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)のさまざまな文化や多様な価値観に触れるために、初級ドイツ文法の基礎知識(話す・聞く・読む・書く)の習得および基本的な運用能力の養成を目的とする。このドイツ語基礎AIの授業では、主に文法の基礎的な内容に関する知識の修得し、発音やアクセントのルール、格変化、動詞の人称変化などを中心にドイツ語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、ドイツ語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身につける。並行して履修する「基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎B I	この授業科目は、ドイツ語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、様々な日常生活のテーマを中心に、平易なドイツ語を聞く、読む、書く、話す練習を行い、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。それに平行して一つのヨーロッパの異文化を知り、新しい世界や考え方に出会い、その面白さ楽しさを味わいながら手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
		初修外国語科目	フランス語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、主にフランス語の文法の修得を通してフランス語圏の基本文化や価値観に触れること目的とする。日本語と異なる発音に留意しながら、ほぼ厳格に定められた発音の規則にまず慣れることから始めて、日常生活でも頻度の高い基本的な文法に関する知識の修得を目指しながら、フランス語圏の対人関係における基本的な約束事や独自の生活習慣に触れるための、基礎的な語彙を身に付けて表現力を養う。同時に履修する「基礎 BI」でのより実践的な場面を想定した表現練習に対応できるように文法構造の正確な理解に基づく言語運用能力を高めるとともに、次学期に履修する「基礎 AII」での学習に備えて、言語の文法的な特徴を理解する。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎B I	この授業科目は、日常生活でよく使用されるフランス語の表現を修得するための科目である。主に口頭による練習や、場面を設定しての役割に基づいて対話力を深めることを目指す。基本的な表現を学ぶうえでも、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟とそれを具体的に運用する力を伸ばすことを目指す。コミュニケーション能力の修得には、その文化の特殊性や日常生活での具体的な対人関係を考慮することが重要であり、それぞれの言語表現の文化的・社会的な背景についての知識も必要となる。そのうえで話す・聞く・書く・読むの四技能を相乗的に伸ばすことを目指す。日常的によく目にするような簡単な文章の読解や、利用頻度の高い単語や表現を使った会話練習を実際におこなうことで、対話能力を高めていく。	
		初修外国語科目	スペイン語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、スペイン語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音やアクセントの仕組み、文字と発音の関係、名詞等の性数変化や直説法現在形の活用を中心にスペイン語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、スペイン語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎B I	この授業科目は、スペイン語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項(名詞等の性数変化、現在形の活用)の習熟と定着化を図るとともに、あいさつや自己紹介を始めとした基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、中国語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。中国語の発音の仕組み、ピンインと四声、簡体字、基本語順などを押さえ、声調感覚の養成と文の構造を理解できるようになることを目指す。また、中国語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音の基礎を徹底的に身につけていく。	
		初修外国語科目	中国語基礎B I	この授業科目は、中国語での会話練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。大量な発音練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。基本文型に沿った短文の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象にする。韓国語の文字と発音の仕組み、基本的な文法と文章の仕組みを学習することを目標とする。「基礎 BI」と並行して行う授業で、「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。また、韓国語への理解を深めるために日本語と韓国語を比較するとともに、韓国語圏の文化・歴史・社会などの知識にも触れる。次学期に履修する「基礎 AII」での学習に備えて、韓国語の基礎的な特徴を概観的に理解する。	
		初修外国語科目	韓国語基礎B I	この授業科目は、韓国語の基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基礎的な韓国語の語学力の養成することを目標とする。「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項と語彙を用いて練習する。具体的には、簡単な文章読解や作文、学習した単語を使った会話を練習することで、コミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学びながら話す・聞く・書く・読むという四技能をバランスよく伸ばすことを目指し、韓国語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、動詞の直説法過去、完了形、受動態、接続法を中心にドイツ語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の仕組み、格変化、動詞の人称変化等を復習しながら、未習の文法事項や日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してドイツ語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	ドイツ語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、ドイツ語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、ドイツ語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した動詞を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材やインターネットのニュースなどの時事的な情報等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、文法の観点からみたフランス語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の規則や、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」でのコミュニケーション能力の実践的な活用に対応できるように、正確な文法の理解をさらに深めていくとともに、フランス語圏の文化や社会に対する理解を、他の文化との比較対象なども交えながら深めていき、より高度な語学力を修得するための基本的なステップとしての重要な科目と位置付けられる。	
		初修外国語科目	フランス語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、日常生活での表現能力や対話能力を高めるためにフランス語の口頭練習を中心としながら基本的なフランス語の表現を修得することを目指す。「基礎 AII」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力に加えて、自己の意見表明や、他者の表現に対する様々なリアクションの取り方なども含めて、対人関係を豊かにするための会話能力を育成する。コミュニケーションに欠かせない文化的、社会的な背景についても学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能を相互に高めていくことを目指す。日常生活での会話の基礎をなす主要メディアの文章表現などにもある程度親しみながら、より知的な文章の読解能力も習得しつつ、豊富な会話練習を通して言語と文化に慣れ親しみ、次のステップの学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、動詞の直説法現在形を中心にスペイン語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の仕組み、名詞等の性数変化、ser / estar 動詞の用法、規則活用等を復習しながら、未習の文法事項、特に不規則活用の動詞や gustar 型動詞、再帰動詞、日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してスペイン語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	スペイン語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、スペイン語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、スペイン語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した動詞の現在形および様々な応用表現 (gustar 型動詞、再帰動詞等) を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、声調感覚の養成と基本文型の習得を目的とする。「基礎 AI」で学んだピンインと声調、動詞述語文、形容詞述語文、助動詞「想」、数詞、助数詞等を復習しながら、未習の文法事項、「有」 / 「在」、完了と変化の「了」、前置詞等日常生活で必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通して中国語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、中国語の基本文法をベースに会話練習をおこなうことで、中国語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した基本文型の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	韓国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、韓国語の文法と文章の仕組み、より自然な韓国語の表現を学習することを目標とする。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。具体的には、韓国語の語尾変化と不規則変化を作文と会話の練習を通じて定着させる。より自然な表現を身につけるために、視聴覚教材を用いて韓国語圏の文化や社会に対する理解を深める。次の段階として用意されている演習科目での継続学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、「基礎 AII」で学習した文法事項と語彙を用いてより自然な表現を身につけることを目標とする。基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成する。具体的には、韓国で使われている表現を中心に学習するとともに、視聴覚教材を用いて表現の差異を学び、韓国語への理解も深めていく。ある程度まとまった文章読解や作文、会話練習を通して韓国語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション I	この授業科目は、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。格変化や人称変化の活用練習を中心に、ヨーロッパ共通言語参照枠の A1~A2 レベルの名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこない、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション II	この授業科目は、「コミュニケーション I」の継続科目として、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、格変化や人称変化の活用練習を中心に、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なドイツ語のスピードにも慣れる機会とする。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション III	この授業科目は、「コミュニケーション II」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。学習する文法の範囲としては、直説法過去、完了形、受動態、接続法までとし、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。また発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。さらに、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、政治・経済に関するテーマや文化に関するテーマ、あるいはドイツの地域的な違いなどにも関心を向ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。直説法過去、完了形、受動態、接続法までを範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の B1 レベルの会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等やや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、フランス語の初学者を対象に、ごく入門程度の会話能力の養成を目指す。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおき、実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
		初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、フランス語の初級程度の会話能力の養成を目指す。旅行等で使える基本的な表現に重点をおき、基礎会話を復習しつつペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、フランス語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
		初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、フランス語の中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションV	この授業科目は、「コミュニケーションIV」の継続科目として、フランス語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオやCD等の視聴を通して理解を深める。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションI	この授業科目は、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。動詞 <i>ser / estar</i> 、規則活用の直説法現在形を中心に、名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオやCD等の視聴を通して、スペイン語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションII	この授業科目は、「コミュニケーションI」の継続科目として、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、直説法現在形の練習を中心に基本語彙を身に付けながら、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CDやビデオ等の視聴を通じてスペイン語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なスペイン語のスピードにも慣れる機会とする。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションIII	この授業科目は、「コミュニケーションII」の継続科目として、スペイン語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法点過去、線過去、現在完了までを範囲とし、過去の描写も含め、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、ビデオやCD等の視聴を通して世界各地のスペイン語の地理的変異(特に語彙や発音の違い)にも関心を向ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションIV	この授業科目は、「コミュニケーションIII」の継続科目として、スペイン語の中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法の時制全般を範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やジェスチャーにも注目していく。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションV	この授業科目は、「コミュニケーションIV」の継続科目として、スペイン語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等のやや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。ピンイン、声調、基本語順を中心に、基本文型を用いたパターン練習を重ねることにより、様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。挨拶、自己紹介ができることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
		初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、声調感覚の養成を中心に、基本文型を身に付けながら、買い物など旅行の際に必要な表現を話せるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CD やビデオ等の視聴を通じて中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、中国語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。中華料理店で注文、会計、中国人店員に声掛けができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、ビデオや CD 等の視聴を通して中国の伝統文化やポップカルチャーにも関心を向ける。	
		初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、中国語の中級程度の会話能力の養成を目指す。身近な場面での活用も視野に入れ、日本に来た中国人観光客に声掛け、案内ができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、中国語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。アパレル業界、飲食店、役所など様々なアルバイト先、就職先において中国人従業員及び中国人客とスムーズにコミュニケーションできる程度の中国語能力を身につけることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、韓国語の初学者を対象に、挨拶、自己紹介などの会話ができることを目標とする。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現を学び、ペアやグループで練習をおこなう。韓国語は日本語と類似点が多いため、より早く実践力を身につけるように繰り返し練習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら特定の場面における会話を学習する。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、旅行、買い物ができる程度の会話能力の養成をすることを目標とする。基礎会話と文法を復習しつつペアやグループで繰り返し練習をおこなう。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、電話、注文などの状況で話せる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、要請、招待ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、発表ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、ドイツ語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の過去時制、複合時制等）を体系的に学ぶ。ドイツ語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習をもとに、ドイツ語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文）を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、ドイツ語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に接続法現在、命令法）を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材（新聞、小説、エッセイ等）の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習をもとに、ドイツ語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 I	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、フランス語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習を受け、フランス語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 III	この授業科目は、「言語と文化 II」での学習を受け、フランス語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習を受け、フランス語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 I	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、スペイン語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の過去時制、複合時制等)を体系的に学ぶ。スペイン語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習をもとに、スペイン語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文)を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 III	この授業科目は、「言語と文化 II」での学習をもとに、スペイン語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に接続法現在、命令法)を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材(新聞、小説、エッセイ等)の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習をもとに、スペイン語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化 I	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の復習および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎的な文法事項を復習しながら、未習の文法事項、特に方向補語、様態補語、結果補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、手紙等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の定着および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎文法を復習しながら、未習の文法事項、特に複合方向補語、可能補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、新聞等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、中国語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでに学習した文法事項を復習しながら、未習の文法事項だけでなく、文語的な表現、たとえば諺のような成語や故事成語を体系的に学ぶ。特にオーセンティックな教材（新聞、小説、エッセイ、コラム等）の講読に取り組み、簡単な作文や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会にも目を向け、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
		初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習をもとに、中国語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでに学習事項を復習しながら、基本的な文法事項を一通りマスターすることを目指す。簡単な小説、新聞等の講読にも挑戦し、レポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。中国語において諺のような成語や故事成語は極めて重要となるため、文語的表現の能力を身につけることも視野に置く。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、韓国語の準中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習を受け、韓国語の中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習を受け、韓国語の準上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習を受け、韓国語の上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 4 級、Goethe zertifikat A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 3 級、Goethe zertifikat A1~A2 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定準 2 級程度、Goethe zertifikat A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 2 級程度、Goethe zertifikat B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、初級～中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級～上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 6～5 級、DELE A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 4 級程度、DELE A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級程度、DELE B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級以上、DELE B1 以上を目指せるレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験準4級をターゲットにし、6月または11月に行われる中国語検定準4級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取りに対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験4級をターゲットにし、11月または3月に行われる中国語検定4級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定3級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定3級～2級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、準中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、準上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。長期留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、ドイツ語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてドイツ語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとにやや大きめのプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(初級～中級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、スペイン語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(中級～上級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてスペイン語圏の人のことと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級中国語の運用能力を基礎に中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。日本国内での異文化交流や留学先での授業も視野に入れ、身の回りのことや中国語圏の文化や社会について発表できる能力および日本の文化、社会について積極的に発信する能力を養成する。よって、これまでに学習した文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表に挑戦する。特にプレゼンテーションでも利用可能な文語的表現も身につける。	
		初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級中国語の運用能力をもとに、中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等の実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野について中国語圏の人のことと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために必要な文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、質疑応答、議論の技術も身に付ける。これに加えて、特に文語的表現の習得にも力を入れる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、簡単なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身につける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、高度なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身につける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、ロシア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、ロシア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（タイ語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、タイ語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、タイ語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（タイ語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、タイ語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（イタリア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、イタリア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、イタリア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（イタリア語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、イタリア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	日本語力科目	実践日本語表現	この授業科目は、大学生生活・社会生活に必要な文章作成力・語彙力を身につける科目である。具体的には、(1) 日本語の文章にはさまざまなスタイルがあることを理解した上で、それぞれのスタイルにとって適切な文章を書けるようになること、(2) 高度な日本語を読解し、また表現する上で必要な語彙力を身につけること、の2点を目標とする。各受講生の抱える文章表現上の問題点が解消できるよう、少人数の演習形式で行う。目標(1)を達成すべく、隔週以上の頻度で、受講生は課題の文章を作成、担当教員は提出された文章を次回までに添削して返却する。また、目標(2)を達成すべく、指定テキストに基づく語彙テストなどを行う。	
		日本語力科目	実践話し方入門	この授業科目は、「話し言葉としての日本語」の特徴や、コミュニケーションにおける聞く力の重要性を理解し、相手に伝わるように話す力を身につける科目である。少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。実習としては、1分間程度のスピーチのほか、発声・滑舌・音読の練習などを行う。授業ではまず、話し手だけでなく聴き手にとっても興味深い内容を、すっきりとした構成にあてはめて、わかりやすい言葉ではきはきと話せるようになることを目指す。また、自分の内面を見つめて言語化したり、外からの情報を取捨選択し整理して伝えたりするなど、「内」と「外」をバランスよく話材にできるような習慣をつける。さらに、論理的に説明できる力や表現力をも身につけていく。	
全学共通科目	技能	日本語力科目	日本語表現講義	この授業科目は、日本語表現の諸ルールと文章作成上の留意点を学ぶ科目である。講義形式によるが、ほぼ毎回、語彙テストまたは課題提出があり、実践的に学ぶことができる。扱う内容は、敬語・敬意表現の使い方、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係といった文の構造、文章要約のポイント、手紙・履歴書・事務的文書・意見文といった各種文書の作成法など。これらを学ぶことにより、大学生や社会人に必要不可欠な文章作成力・読解力・コミュニケーション力を身につける。	
		日本語力科目	実践漢字講座	この授業科目は、実生活で役立つ漢字能力を高めるため、講義によって漢字に関する基礎知識を身につけるとともに、漢字を書く訓練も行う科目である。授業では、漢字の成り立ちの分類、部首や読みの注意点、「常用漢字表」と「送り仮名の付け方」等に関する解説を行い、現代表記のきまりを理解してもらおう。これらの知識を身につけながら、毎時間、漢字練習を行う。解説と実習によって、全ての常用漢字を正しく読み、書くことができるようになることを一つの目標とする。	
全学共通科目	技能	日本語力科目	語彙・読解講座	この授業科目は、語彙力および読解力を養う科目である。具体的には、語彙・読解力検定2級程度の力をつけることを目標とする。授業は、講義と実習を織り交ぜながら進める。講義では、身近なトピックを取り上げ、それに関連する語彙を学びながら理解を深めることを目指す。社会常識を身につけつつ、言葉にかんする感覚を磨いていく。実習では、上記トピックにかんする読解問題に取り組むことで、講義で学んだ関連語彙の定着をはかるとともに、読解力を涵養する。	
		日本語力科目	古典に学ぶ日本語表現	この授業科目は、江戸時代以前の多様な文章を取りあげ、受講者にさまざまなワークを課すことにより、書く力と読む力を鍛える科目である。授業は少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。日本語の表現は、古代から脈々と受け継がれつつ、多様な変容を遂げてきた。その分厚い積み重ねの上に現代の日本語表現がある。「個体発生は系統発生を繰り返す」ように、受講生は能動的学修を通して、さまざまな時代の多様な日本語表現を体験し内化することにより、豊かな日本語力・表現力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 日本語力科目	実用文書の作り方・情報の伝え方	この授業科目は、客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルを身につける科目である。大学生活において作成が求められるレポート・エントリーシート・卒業論文、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになるビジネス文書や技術文書を、わかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得すること、そうした文書を企画設計する上での基本的な考え方を身につけること、を目標とする。授業は講義形式によるが、演習を織り交ぜながら進める。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（文芸をたのしむ）	この授業科目は、創作を行う科目である。好きな本や作家、映画や演劇などについて語りあうことからはじめ、各自が創作したものを発表、互いに感想を述べあうことにより、文学が友達のように感じられる、またはその第一歩を踏み出すことを目指す。授業は演習形式で行うが、「エッセイを読む」、「文学、演劇、映画へのアプローチ」といったテーマの講義を挟んでいく。創作は、短い小説や短歌、現代詩などはもちろん、エッセイや書評でも可とする。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（成蹊俳句教室）	この授業科目は、俳句を実際に作り、作品を互いに鑑賞しあうことを通して、完成度を高めていく科目である。表現と鑑賞は、俳句に限らず創作の両輪である。実作者として他者の作品に向き合い、表現力を高めることを目指す。授業は少人数の演習形式で行われ、主に、①吟行、②句会、③ディベート、④鑑賞文、から組み立てられる。④鑑賞文の作成と講評は1回のみであるが、①キャンパスを歩いて俳句を作る吟行、作品を鑑賞しあう②句会と③ディベートは、2～3セット行う。間に講義をはさみながら、第1ラウンド→第2ラウンド→第3ラウンド、という具合に進んでいく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（源氏物語を読む）	この授業科目は、『源氏物語』の極限的に研ぎ澄まされた文章表現を学ぶことにより、文章表現の豊かな可能性を知り、言葉に敏感になることを目指す科目である。あわせて、教養の一つとして、『源氏物語』の概要の理解も目指す。授業は講義形式で進めるが、随時、課題を投げかけ、受講者に考えてもらう。毎回の授業では、『源氏物語』の一～三場面を取り上げ、悪文、会話、敬語、内心語、和歌、視点、語り手などの文章表現に注目しながら、丁寧に読んでいく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（文章表現を磨く）	この授業科目は、ある程度文章表現力のある学生を対象として、より高度なレベルで文章表現を磨くための科目である。授業は少人数で、講義を織り交ぜつつ、演習形式で行う。受講生の提出作文を無記名で全員に配布、互いに意見を言い、教員が批評・評価する。こうした合評会、および添削指導を通して、明確なだけでなく味わいのある文章を書くためのトレーニングを行う。また随時、名文鑑賞を行い、プロの書き手の用いている日本語表現のテクニックと発想法を学ぶとともに、読解力を伸ばす。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（話し方を磨く）	この授業科目は、話す力を鍛える科目である。「実践話し方入門」が初級編とすると、上級編にあたる。「実践話し方入門」を受講した学生からの、話し方を継続的に学び一層の向上を目指したいので上級編を設置してほしい、という要望をもとに誕生した科目である。「実践話し方入門」と同様に、少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。相手の話を傾聴する体験を通じて多様な価値観を学ぶとともに、周囲に配慮しながらも自身の主張を積極的に発信していく姿勢を身につける。また、聴衆や場に相応しい言葉遣いや効果的な声の出し方、さらには話の内容を豊かにするための着想力やストーリー構築力も実践を重ねることで磨いていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリアプランニング	この授業科目は、大学生として自己と社会を認識し、大学生生活や進路選択に向けて有意義な行動計画(プランニング)を立てられるようになることを目的としている。そのために、進路・雇用・企業に関する基礎知識を学び、自己分析手法を修得し、併せて、キャリア形成の基本的な要素を理解することができるような講義内容になっている。現代の社会が求める「社会人基礎力」、ワークライフバランスと「働き方改革」、キャリアデザイン概念、そして日本の産業構造の現状など、今日的なテーマに触れながらキャリア形成についての理解を深めていく導入型キャリア教育の授業を行う。	
		キャリア教育科目	ビジネストレainingセミナー	この授業科目は、他者と協力しながら目標を掲げ、それに向かってチームで成果を出す能力を実践的に修得することを目的としている。知識や情報を得てもそれを活かさなければ有意義な学びとは言えない。大学での学び方は様々な方法があり、この授業ではその知識や情報を活かし、コミュニケーション能力を身に付けながら目標に向けて進んで行く。チームと一緒に「考える力」と「協力する力」を身につけると共に、学ぶ楽しさを知ることを目指した授業内容となっている。実際に企業の担当者から、企業や社会が抱える課題を与えていただき、「主体的な学び」を目的にコミュニケーションを強化しながらチームで課題解決に取り組み、解決提案の発表とフィードバックを受けるプロセスを通じて、実践的な経験と知識を修得していく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリアセミナー	この授業科目は、少人数のグループワークを通じて密度の濃い討論を行い、進路選択に関する学生の意識の覚醒を図ることを目的とする演習形式の授業である。一方では、自己分析・自己表現等の心理学的な背景を有するキャリア教育の視座から、グループワークを通じて自分の持ち味(強味・知識・情報)に気付き・発揮し・伸ばしていくような授業要素がある。他方、業界動向や人材育成などの経営学的な背景を有する社会理解の視座から、社会や企業にアプローチすることを通じて社会・企業への自己の関わり(働く場・活かす場)を発見するような授業要素もある。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	グローバルキャリアセミナー	この授業科目は、グローバル環境で働くことの意義・方法・課題などを学ぶことを目的としている。近年ますます注目される「グローバル」の意義、そしてそのグローバルな環境で働くことの実態について、実際にグローバル環境で働くゲスト講師からお話を伺いながら学んでいく。また、将来グローバル環境で働くためには、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学んだりしながら、大学生生活で自己成長するための行動計画を検討していく。この授業では、グループワークを通じて情報収集や情報共有を行い、知識を増やしたり、情報収集力、情報分析力を高めるとともに、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力をディスカッションやプレゼンテーションなどのワークを通じて高めていく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリア発展講義	この授業科目は、キャリア教育に関するさまざまなテーマごとに深く掘り下げて学修することを目的としている。各科目においては、自己分析や業界・企業研究などのキャリア形成の基盤となる中心的テーマに関する発展的な知識や技能の修得に加えて、雇用の仕組みやライフプランニングなど働く人に不可欠なテーマや、ワークライフバランスやキャリア形成の国際化・情報化など社会的な変革に関する適時的なテーマをそれぞれ講義展開していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	日本企業の現状と展望	共同
		この授業科目は、現代の日本の様々な業界や、代表的あるいは特徴的な企業について、現状を把握し将来を展望することを目的としている。まずは、各業界で活躍する実務家講師が、業界の構造や業務内容、雇用状況などの現状を講義する。そして、実務家と学生とが議論しながら、業界の将来像や企業の戦略などについて展望していく。こうした授業進行を専任教員がコーディネートする、オムニバス形式の授業である。民間企業を志望する学生は、情報を収集し分析する能力を身に付けて、それぞれのキャリア形成の中で業界・企業の現状を把握し、将来を展望することができるようになる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	インターンシップ準備講座	
		この授業科目は、「インターンシップ実習」の前提科目であり、民間企業や公共部門等でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前指導を行うことを目的としている。組織の仕組み・業務内容・ビジネス習慣などについての基礎知識を講義によって学ぶ一方で、インターンシップ実習で重視されるグループ討論やグループワークを多く取り入れ、実習の実践的な準備を行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要とされる知識や技能を修得することができる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	インターンシップ実習	
		この授業科目は、民間企業、公共部門等で行うインターンシップ実習のための科目である。インターンシップ実習には、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲が生じるという意義がある。これらの意義に応じた一定の要件をみたすインターンシップ実習を行った者が、実習後のレポート作成、成果発表等の事後的な指導を受けることによって単位を修得することが可能となる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	発展インターンシップ準備講座	
		この授業科目は、成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) の「発展インターンシップ実習」の前提科目であり、協力企業でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前準備を行うことを目的としている。問題解決能力、プレゼンテーション力、マナーの育成など実習に対する実践的な準備を行うとともに、協力企業から与えられた課題に対してグループワークで解決策の提案を作成し、当該企業関係者の前でのプレゼン、ディスカッションも行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要とされる知識や技能を修得することができる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	発展インターンシップ実習	
		この授業科目は成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) において、「発展インターンシップ準備講座」を受講した学生が実際に協力企業でインターンシップを行い、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲を生ませることを目的とした科目である。実習の成果はプレゼンテーションで発表し、そのうち選抜された者は協力企業が一堂に会す成果発表会で発表することで、準備講座からの学びにより学生個々が成長を実感するプログラムとなっている。		

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 キャリア教育科目	Global Career Design	この授業科目は、将来、グローバル環境で働くことを目指す学生が、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学び成長するための行動計画を考えていく科目である。実際にグローバル環境で働くゲスト講師を招聘して、「グローバル環境で働くとはどのようなことか」を学ぶ。授業ではグループワーク、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力を高めていく。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報基礎	この授業科目は、情報化社会の一員として重要な情報倫理についての理解を深めた上で、大学での学習や成果発表の手段として必要不可欠である情報基盤技術の習得を目指す。具体的には、インターネットを通じての情報収集や情報交換、ワードプロセッサによる文書作成、表計算ソフトによる簡単な計算やデータの集計、プレゼンテーションソフトによる発表資料の作成などの基本的な技能を、講義とコンピュータを用いた実習により習得する。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用A	この授業科目は、情報発信の2つの手段であるWWWとプレゼンテーションの基本を理解し、実際に実行する力を身に付けることを目的とする。WWWによる情報発信(Webサイトの作成、公開)においては、HTMLの基本から、Webサイトの企画、Webページ、サイトの作成、Webサーバへのアップロードまでを、講義と実習を通じて学ぶ。プレゼンテーション技法(PowerPoint)によるスライド作成、発表)においては、プレゼンテーションの企画、構成、視覚化のポイント、発表技法など、プレゼンテーション技術を総括的に学び、「伝える」のではなく「伝える」プレゼンテーションを目指す。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用B	この授業科目は、MS-Officeのうち、社会に出てから業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointの実践的な活用法と、著作権に配慮した成果物の作成を学修し、ここで習得したスキルを大学生活や社会において実践できるようになる事を目的とする。MS-Wordにおいては、見出しや差し込み印刷、図形描画といった機能を学び、MS-Excelにおいては、Vlookup、記録マクロなどの機能を使いこなし、業務でのデータ処理に活用できるようになることを目指す。MS-PowerPointにおいては、動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションの作成を習得する。さらに基礎的な画像処理の方法と著作権、バリアフリーなどに配慮した成果物の作成ができるようになることを目標とする。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用C	この授業科目は、すでに学んだパソコン基礎の技能をさらに充実させることを目的とする。ワープロソフトの習熟に的を絞り、通常仕事を行う上で必要とされる日本語入力速度を初めに達成し、次に社外・社内宛てのビジネス文書の作成を学び、さらに技術のみならずパソコンに関連する知識や情報倫理も学ぶ。日本語ワープロ習得後、現在では当然のように必要とされる英文ワープロ技能も英文ビジネスレターやレジュメの作成を通して学ぶ。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用D	この授業科目は、Microsoft WordとExcelの実践的な技術を身につけることを目的とする。そのために、Microsoftが認定する国際資格である、MOS(Microsoft Office Specialist)スペシャリストレベルの取得を目指す。MOSはMicrosoft Officeに習熟していることを客観的に示す資格であり、就職やキャリアアップの際に有利に働くと考えられる。「パソコンが使える」レベルより、ワンランク上の技術を得ようとしている学生や、国際的な資格の取得をめざす学生のニーズに応えることを想定している。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用E	この授業科目は、Microsoft Excel 操作を自動化するプログラムを VBA (Visual Basic for Applications) というプログラミング言語を用いて作成するスキルの習得を目的としている。Excel VBA の基本的な概念や用語、VBA で作成されたプログラムの処理内容を理解し、繰り返し処理や条件分岐処理を含めて Excel 操作を自動化するプログラムの作成することを目標とする。課題プログラムの作成を通じて、アルゴリズムの構築ができる論理的思考を身につけるとともに、Excel 操作そのものについてもより深く理解することを旨とする。	
		情報基盤科目	情報活用F	この授業科目は、チームワークに必要な能力を育成することを目指している。チームワークとは、さまざまな分野の人が集まってチームをつくり、それぞれの能力を生かした活動により、問題を解決したり、新しい物を創造したりする活動である。例えば医療の世界では、内科医や外科医、麻酔科医や精神科医や看護師などが連携して行う治療をチーム医療と呼ぶ。このようなチームワークで成果を出すには、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、意思決定能力、ファシリテーション能力など、さまざまな汎用的な能力が必要になる。これらの能力の育成には、知識だけでなく、実践が必要となるため、授業では基本的に講義を行わず、講義に必要な内容は、学生が教室外において事前準備学修してから授業に参加することになる。また、リフレクションシートの作成や最終課題など、授業外の活動も必須である。そのため、主体的に学習することを望まない学生は履修できない。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、安全管理をベースとしたマネジメントについて、方法および評価と修正の視点を重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習B	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、各種目の基本的な技術やマナーおよびそれらの文化的背景について、重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツ・パフォーマンス向上の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。科学技術の発展は、今日のスポーツを考える上で切り離せないものとなっているが、具体的にはどのように関わってくるのだろうか。また、スポーツ・パフォーマンスを構成する要素はスキル、フィットネス、モチベーションといわれ、日本でも古来「心技体」が重視される。さらに近年では、戦術・戦略が目玉されてきた。こうした知識はどのようにスポーツ・パフォーマンスに反映されるのだろうか。講義ではこれらの問いを軸にして、科学に基づいたトレーニングやコンディショニングについての理解を深めていく。	
		健康・スポーツ科目	健康と科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特に大学生活と身体と心の健康維持増進の観点から、健康科学分野の学術的知見を取り上げる。現在社会において、日本人の死因として上位にあるのは、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患である。これらはいずれも生活習慣病であり、日頃のライフスタイルがこれらの疾患の発症と大きく関わっている。こうした認識にもとづき、講義では、大学生活における身体と心の健康を考える。生活習慣病、感染症、身体の免疫機能、食生活、喫煙、飲酒、ストレス、ダイエット、睡眠などをテーマとし、具体的な事例やデータを用いながら問題にアプローチしていく。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと文化	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの文化的意義の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。共通ルールによる身体活動を通じて、世界中の多様な人びとが互いに高め合い、通じ合えるのはスポーツの特質であるが、国や地域によってスポーツ文化の受容や解釈あり方は多様かつ複雑でもある。また、スポーツは、歴史的にさまざまな側面において変化をくり返しており、現在もまた変化のただ中にあるといえる。以上の認識にもとづき、授業では多様な時代や地域における運動・スポーツの具体的な事例や議論を紹介し、そこに見られる文化的特質や課題について考えていく。	
		健康・スポーツ科目	スポーツと社会	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの社会的経済的位置づけや機能の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。人とスポーツとのかかわりには、「する・みる・ささえる」という様々な側面がある。そしてそれぞれにおいて、スポーツとのかかわりを支える社会的支援や経済活動が必要となる。授業では、日本社会を中心として、スポーツを「する・みる・ささえる」仕組みが社会・経済的にどのように成り立っているのか、そこにどのような課題があるのかということ、具体的な事例を紹介しながら考えていく。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	哲学の基礎	この授業科目は、西洋哲学の歴史を概観し、大きな世界観・全体像の中で育まれてきた哲学上重要な基本概念の理解を促す科目である。代表的な哲学者やその考え方を学習し、混沌とした現代社会の中で何かしらの基本となる考え方が発見できる、あるいは、今日のわれわれが現代社会のうちどのような問題を見て取らなければならないか発見できるという哲学的な思索を行うことができるようになることを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	倫理学の基礎	この授業科目は、「良いもの」「正しいもの」「美しいもの」などの人間の価値判断は何を根拠に形成されているのか、また、人は何をよりどころに生きるのか、といった問題に実践哲学の観点からアプローチしてきた倫理学の体系を概観し、代表的な考え方を理解し、学生自身が現代社会の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対して倫理的思考を行えるようになることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	人文学	現代社会と哲学	この授業科目は、時代や文明の矛盾に挑んだ近現代の哲学者の考え方を通して、学生自身が現代という時代を哲学的に深く見詰め直す機会を提供することを目的とする。「哲学の基礎」の延長上に主として20世紀の代表的な哲学者を取り上げ、彼らがアイデンティティの問題、大衆社会の問題、官僚制の問題などの近現代社会の問題をどのようにみつめてきたのかといった学習を手掛かりとして、これから21世紀の日本社会と向き合う学生がどのような思索を行えばよいかを学生自身に問いかけていく。
		人文学	現代社会と倫理学	この授業科目は、規範の根拠について考える学問分野であり、その根本にある人間はいかにあるべきか、いかに生きるべきかという問いに対して、近・現代の日本の思想家の文章を読解することを通じて、歴史を先導した人物達の思想を学びながら、現代社会で暮らす「人の一生」をめぐる私達の問題を考える。
全学共通科目	教養基礎	人文学	文学への招待	この授業科目は、文学を専門にしない学生のための文学入門であり、実際の作品の読解を通じて、文学に触れる方法、楽しみ方を身につけていく。授業担当者によって、西洋の近代文学、日本の古典、日本の現代文学など、取り上げる素材はさまざまであるが、1) 文学作品の読解を通して、さまざまな時代の社会や制度のなかで、人間がおかれた状況を理解できること、2) 多様な文化に触れ、思想的な問いかけも行いつつ相互理解を深められること、3) 文学が提起する問題提起をもとに、新たな世界の可能性に向けて自己の意見を発信できることを共通の到達目標とする。
		人文学	芸術への招待	この授業科目では、音楽もしくは美術を対象に、芸術の基礎理論とさまざまな表現手法、様式・形式を概説するとともに、それらの歴史を概観し、代表的な作家や作品がどのように創造されてきたのかを講義する。これらを通じ、芸術作品は宗教、思想、時代背景などさまざまな人間の文化と相互作用を持って生み出されたことを理解し、芸術をその背景を考えながら、より深く鑑賞する姿勢を身につけられることを到達目標とする。音楽のクラスでは18～19世紀の西洋芸術音楽(クラシック)、美術のクラスでは19～20世紀の西洋近代美術をそれぞれ対象とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	カルチュラル・スタディーズ	この授業科目は、大衆文学、映像、ポップミュージック、ファッション、アニメなどといった主として「大衆文化」(ポピュラー・カルチャー)を主たる対象として、私たちの日常生活との関わりの中から「文化」をさまざまな理論や概念、方法論を用いて批判的・多角的に理解・考察していく研究領域であるカルチュラル・スタディーズと、社会学、文化人類学、メディア論などの理論を用いて日常生活に見られる現象を分析していく。
全学共通科目	教養基礎	人文学	心理学の基礎	この授業科目は、データや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である心理学の各研究領域(知覚・記憶・言語と思考・学習・社会)において最も基礎となる事柄を概説するとともに、心理学の最先端の研究を紹介することによって、心理学が、日常生活にもたらした知見を明らかにする。心理学への期待と関心をもつ受講生に、基礎心理学の基本的な考え方や知識をわかりやすく講義する。心理学の基本的な知識や考え方を身につけ、自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること、また、その限定性を知ることを到達目標とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	自己理解の心理学	この授業科目は、だれにでも起こり得るこころの問題に対し、臨床心理学の知見から、大学生の発達課題、青年期にみられる精神医学的問題、大学生の過去とこれから(発達臨床心理学)の3点を盛り込んで講義する。青年期を生きる大学生が、自分の心を通して振り返り考えさせつつ、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として、社会の構成員となるための基礎づくりをねらいとする。

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	人文学	教育原理	この授業科目は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことを通して、これからの教育を担っていく教師としての基礎的な資質能力として以下の力を身に付けることをテーマとしており、教育構想や実践における教育思想の重要性を理解し、学校教育の背景にある教育思想や歴史を説明でき、自身の教育体験を相対化し、これからの教育について自分なりに考えることができることを到達目標としている。新しい教育や、よりよい教育を構想し実践していくためには、これまでどのような教育が行われてきたのかをよく知る必要がある。そこで、教育とは誰のために、何を、どのように行うことが良いのかということ、歴史や思想の基本的知識、教育における今日的課題に基づきながら、学生自らが毎時考えを深めていくことを内容としている。	
		人文学	教育心理学	この授業科目は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することをテーマとしている。幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえた発達の概念及び教育における発達理解の意義の理解、乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についての具体的な内容の理解、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎の理解、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方についての発達の特徴と関連付けた理解、幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえて主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方の理解、を到達目標とする。発達し学ぶ主体である子どもについて理解する。自身のこれまでの発達、学習の振り返りも行う。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	政治学の基礎	この授業科目では、政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。民主主義の歴史、権力分立、政治制度、官僚制、政党制、マスメディアと政治、日本の政治、選挙制度、地方自治、国際政治などを主な内容とする。政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	社会学と現代	この授業科目は、社会学の基本的枠組みを学ぶ。社会学とは、個人の認識のなかに、他者との相互作用のなかに、人々の集団のなかに、社会の存在を複眼的にみだし、探求していく営みである。本科目は現代の世界における社会的問題を概観し、それが同時代的に私たちの身の回りにどのような形で存在するかを考える。これを通じて、諸問題にたいする社会的な捉え方、および社会学理論を学び、その射程について理解を深める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	日本国憲法	この授業科目は、日本国憲法を概観し、憲法上の諸問題について学生自身が考えていくための端緒を提供することを目的とする。平和主義、自由と平等、基本的人権、日本の統治機構など憲法上重要な概念を網羅的に取り扱うが、なるべく具体的な事件や判例などの学習を通して、学生が自分自身で考えていくための憲法上のテーマを提供する。1) 日本国憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得する、2) 憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質について説明できる、の2点を到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	市民生活と法A	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「A」ではまず刑法と比較しながら民法の特徴や民事裁判について理解した後、物権、債権に関する主要な条文や法的概念(契約など)の理解を促していく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
		社会科学	市民生活と法B	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「B」では、NHKの受信料問題、欠陥住宅問題、消費者金融の過払い金問題、マンション紛争、相続紛争など、具体的なケーススタディをもとに民法の考え方について学んでいく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	現代のマスメディア	この授業科目は、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。わたしたちは、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされており、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついている。本講義科目は、こうした社会学的視点からマスメディアを考察するとともに、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望についても扱う。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	社会心理学入門	この授業科目は、社会心理学の基礎的な知識について紹介する。社会心理学とは、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。本講義ではとくに社会的な影響によって作り出された心理状態が個人を拘束していくありさま、および人間の心理が社会的に波及していくときのメカニズムなどについて扱うこととし、具体的な事例などをひきながら、社会心理学の射程を理解することを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	学校と社会	この授業科目は、教育の社会的な役割、近代学校制度の成立と発展の歴史、その中でも、特に学校教育と社会との相互関係及び学校と地域との連携、学校安全について学修することをテーマとし、学生の「社会理解」と「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」の観点を加えて講義を行う。社会と学校教育との相互の関連について理解することができること、近代公教育制度の特徴とその後の発展の歴史を理解することができること、学校と地域との連携の意義とその実践事例を理解することができること、学校安全に関わる意識・知識の必要性を理解することができることを到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	近現代日本史A	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「A」で問題にするのは、19世紀半ばから20世紀初頭にかけての日本の近代化過程における国際関係のなかでの位置である。日本の近代化が、開国というヨーロッパとの関係において始まったことにまず着目して、そのことによって日本の近代化がどのような内容をもつようになったのか、さらに中国・朝鮮というアジアの国々との関係が日本の近代化にどのような影響を与えたのかを学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	近現代日本史B	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「B」では、20世紀前半の日本史を学ぶ。20世紀前半の50年間は、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と続き、戦争の時代とってよいであろう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに到ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えると、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことである。なぜ戦争に到ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもある。	
		社会科学	現代社会の地理	この授業科目は、世界の南北格差、一国内における人口や産業の一極集中、一つの大都市内における社会的なモザイクなど、地球規模あるいは国際的な諸課題や、国外もしくは国内の地域課題について、地理(学)的な視点から理解を促す科目である。講義にあたっては、ローカルな地域にかかわる諸課題を理解するためには、グローバルな事象との相互作用に着目する必要があること、また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があることを認識させることに配慮する。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	物質の究極像	この授業科目は、いくつかのトピックスをとりあげて、物理学の歩みと基本的な考え方、方法を学ぶ。物質は何でできているのだろうか、物質を包んでいる宇宙は何からできているのだろうか、また、我々の住んでいる宇宙はいつ出現したのだろうか、こうした古典的な疑問に対する答えが、この30年間に実証的に得られてきた。こうしたことを理解するために、物質の素というものがそもそも何なのかという問題に立ち返って、物理学的な観点からレビューを行う。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	人間と進化	この授業科目は、生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探究するものである。本講義では、まず、生物としてのヒトの特徴、すなわち人体の諸システム(運動、エネルギー、物流・調節、防御、情報等)を学び、ヒトの個体発生、人類の起源と進化といった順に授業を展開する。科学の究極の目的は自分自身を知ることであり、本科目でも、生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものか学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業につなぐことが目標である。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	脳科学と心	この授業科目は、脳の動きを脳画像によって見ることができるよう飛躍的に発展している脳科学において、記憶や思考、感情などの心理学が扱ってきた心の諸側面について、あるいは、精神疾患・発達障害・認知症などの脳の病気のメカニズムを明らかにする研究など、最新の脳科学の研究成果をもとに、心と脳との関係を考えていく。脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	天文学入門	この授業科目は、もっとも古い学問のひとつであり、また、20世紀後半以来急速な進展を見せた学問でもある天文学について、人工衛星などの飛翔体技術や電波・赤外線・X線などさまざまな波長域での観測手段次々と発見される新しい現象をとりあげながら、私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河まで、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概観し、また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	薬はなぜ効くか	この授業科目は、病気の治療、予防に、そして診断に用いられ、人の健康の維持に無くてはならない薬について、歴史的な薬の始まり、最近の科学の発達・医学の急速な進歩のなかで多岐にわたる開発、かつ、作用の多様化、治療面の効果と副作用、結核菌などの病原細菌、ガン細胞にも薬に対する耐性とといった点を中心に、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）など、”薬”全般について講義するものである。受講生が薬について正しい知識を取得し、それが健康的な生活の一助となることを目標とする。	
	教養基礎	自然科学	身の回りの科学	この授業科目は、科学について学ぶ機会の少ない文系学部の学生を対象に、サイエンスのエッセンスを伝えることを目指すものである。科学技術は、現代の人間生活の基本的な衣食住に深く関わっているのみならず、人間が限りなく豊かに生きてゆくことを力強く支えるものでもある。半導体を中心とする物質科学やデジタル技術等の具体的な科学技術の概観を通じて、科学技術のあるべき姿を考察し、その発展を正しく理解し、場合によっては、それに協力できる現代に生きる社会人を養成することを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	科学史	この授業科目は、「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する。仙台の科学や科学技術では、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。それゆえに人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなっている。本科目の履修を通じて、知識の客観性をめぐる真相その他、科学に関する諸問題を、自ら哲学的に捉え直せるようになることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	科学技術の発展と歴史	この授業科目は、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを具体的に論じる。科学技術の歴史的発展過程に関する講義を通して、科学技術と社会・経済・政治などとの関係、また科学技術の発展構造や方法に関する理解を深めることが授業の目標である。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (熱と光の科学)	この授業科目では、身近な現象から熱と光に関わるものを取りあげ、現象を理解すると同時に、さまざまなレベルでの「なぜ」について講義形式で考える。数式の使用は最小限にとどめ、文系の学生でも納得できるようなアプローチで解説する。熱については、温度と熱、エネルギーの保存法則、温度と分子、エントロピー、などの項目を取り上げ、物質の原子論的な観点を強調する。光の現象は波としての性質に注目して、虹、構造色、偏光、などの項目を取り上げる。また、光の粒子としての性質についても言及する。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (物質の科学)	この授業科目は、身の回りで、また体の中で、多くの元素がどのように組み合わせあって、そしてどのような性質を示すようになっていくかを学ぶ。また、この講義ではさまざまな物質の例を通して、科学的な直感を身につけることをも目的としている。さまざまな科学情報が氾濫する現代において、その中から正しいと思われるものを取捨選択する能力を身につけることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (数の世界)	この授業科目では、微積分をはじめとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさの一端を紹介する。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (生命の科学)	この授業科目は、身体、行動や考え方、その基となる脳の構造などさまざまなところに違いのある男女の生物学的な違いを概観し、生命科学の考え方の理解を促す。具体的には、性の定義、性の進化、様々な動物の性、身体的性差の発達メカニズム、行動の性差、脳の性差、子育てと脳、など。男女の生物学的な差異について学ぶことで、違いと類似点を理解する。ひいては男女共同参画社会の実現において不可欠な異性の理解と尊重という態度を養うこともめざす。	
		自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための数学)	この授業科目では、「数理の話題」と「集合・論理の話題」とを取り上げる。たとえば、価格の計算の中で、かけ算・わり算の意味を見直すところから始める。同じ式の中では、かけ算をたし算よりも先に計算する理由が納得できる。それだけではなく、簡単な連立方程式であれば、暗算でも解を求めることができるようになる。他方、ヒトが問題を考えるときには「まったくそう」「大体そう」のようにゆらぎがある。脳は本来論理的でないのかも知れない。しかし、あいまいな表現の引き起こすトラブルは少なくない。このような事情を踏まえて、数学の規則で命題の内容を論理的に判断する方法も身につける。数理の話題と集合・論理の話題との橋渡しとして、高校までとちがった方法で確率・統計の考え方を振り返る。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための科学実験)	この授業科目は、科学実験を通じて科学的思考を促す演習科目である。日常生活の中での見慣れた現象をとりあげて、自ら実験や工作することを中心に進め、科学をより身近なものとして感じられるようになることをねらいとしている。具体的には、身の回りの現象を題材にして、自らの手で実験をし、確かめることで、科学に対して積極的に向き合う姿勢を醸成するとともに、実験結果を整理した上で、人に伝えることができるよう育むことを目標としている。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地球と環境	この授業科目では、太陽系や地球環境のしくみを、地球科学的な視点から基礎的な事項を中心に学び、46億年前から現在までの間に、地球がどのような変化をとげてきたか、そして生物はその変化の中でどのように発生・進化してきたのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的には、①地球の歴史と人類出現と近代化以降の急激な環境変化、および各種の地球環境問題とそれに対する国際的な動向について説明ができること、②身近な自然環境の見どころを理解し、自然に対する興味を維持・増進することができること、③健全な自然を後世へ伝承する大切さを理解し、これからの世界がどう進むべきかを、自らが考えることができることを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	気象と地球環境	この授業科目は、気象・気候および地球環境問題を理解するために、身近な大気現象から、気象災害、地球規模で発生する現象や地球温暖化問題などをトピックとして取り上げ、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を中心に学習する。具体的には、①大気現象を物理的なメカニズムから理解し、説明できるようになること、②気象にとどまらず身近な環境に興味を持ち、さらに災害に備える意識を個々に持つこと、③地球規模で進む温暖化対策の国際的な動向について説明ができることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	自然環境と文明	この授業科目は、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていく。これまで地球の自然環境が複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきたものの、人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じている。このことをふまえ、本授業では現代文明がもたらした環境変化を理解することから始め、また世界の気候変動史を学んだ上で、農耕と文明、森林と文明、火山噴火と文明、歴史時代の気候と文明といったトピックスを扱う。	
		環境・地域	日本列島の歴史と災害	この授業科目は、日本列島が形成されたプロセスについて理解した上で、そのプロセスゆえの災害上のリスクについて考える。近年のウラン-鉛年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが明らかになったことで約 6 億年にわたる日本列島形成史のデファクト・スタンダードが生まれつつある。こうした現状を踏まえて、本授業では最新の研究を踏まえた日本列島の特徴を多くの画像で理解し、その恩恵と表裏一体で発生する災害について考察することを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	日本の国土と社会	この授業科目は、グローバル化の進展によって、地球上で進行する地域秩序の再編、それに伴い変貌する地域の社会経済や人びとの暮らしの在り方を概観する。具体的には日本を対象にして、日本の産業活動の空間的構成の変容を講義するとともに、日本の地帯構成を念頭においた上で、標識的な地域の事例を踏まえつつ、それぞれの地帯における地域変容や地域問題の理解へとつなげていく。また、あわせて、地理学的なフレームワークや地図がグラフ類の表現法を学んでいく。	
		環境・地域	外国の自然と社会 A	この授業科目では、EU 諸国およびアメリカ合衆国などの先進諸国における諸国土と社会について地誌学的見地から概説する。まず、対象地域における自然環境の多様性を踏まえた上で諸国土の成り立ちについて理解する。その上で、言語・民族・慣習の多様性、国民国家形成と国民統合のメカニズム、産業化と都市化の軌跡、EU、NAFTA 等の経済統合とそれに伴う社会経済的諸課題、域内経済格差とそれを是正するための地域経済政策について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会 B	この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになってきている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。	
		環境・地域	地域づくり論	この授業科目は、地域づくりを念頭においた地域調査の方法と地域活性化のための実際的な方法について考える。地域経済・地域社会の活性化の方法は、社会の変化に応じて変化するが、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備から始まることに変わりはない。雇用、人口、生活の 3 つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、大都市地域、地方圏都市地域、人口減少地域の 4 つを取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス (生命と環境)	この授業科目では、生命の進化と環境への適応について、生物の視覚と体色の進化を中心に学習する。まず、生物と進化、光と色などの基礎的な知識を習得したうえで、物が見えるしくみや生物の体色について様々な事例をとりあげて理解を深める。具体的には、①生命の進化、適応について理解し、説明できるようになること、②光、色の特性と環境を理解し、説明できるようになること、そして③生物の形質についての論理的考察ができることをめざす。	
		環境・地域	環境科学トピックス (食料と環境)	この授業科目は、人類が生存するために最も必要な食料および食料生産環境について、安心・安全な食料や健康・衛生環境と関連付けながら、グローバルな視点から理解を深めることを目的とする。具体的には、①世界や日本における環境問題について基本的な知識を習得すること、②白書や国際機関の報告書をもとに、現代の日本および世界の食料生産と需給状況を読み取り、説明できるようになること、③安心・安全な食料の確保に向けた取り組みについて、自らが考えることができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	戦後の日本と世界	この授業科目は、第2次世界大戦後の日本と世界の歴史を学ぶことで、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、あわせて専門科目学習の基盤を作ってもらいたいことを狙いとしている。特徴は日本史、世界史(大学では西洋史、東洋史)という区分をせず一体のものとして、大きな歴史の転換点となった戦後について、国内政治史、国際情勢(国際政治と現代思想)をはじめとして概説する。ビデオ教材を用い、映像によって理解をリアルなものにするようにする。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代のアジアA	この授業科目では、アヘン戦争の時期から20世紀初頭までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。東アジアの国々は19世紀の半ばに、ヨーロッパによって不平等条約を押しつけられて開国を求められ、自由貿易体制に組み込まれ、植民地化の危機のなかで近代化をすすめていった。日清戦争・日露戦争を通して、東アジアの日本、中国、朝鮮は大きな岐路をむかえ、その立場を変えていった。東アジアの近代化の歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係のみならず日本の近代化のあり方を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代のアジアB	この授業科目では、20世紀初頭から1950年代までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。現在の東アジアの国際関係の直接の原点は、第二次世界大戦以降の中国の国共内戦、朝鮮戦争というアジアの熱戦による、社会主義中国と朝鮮半島の分断国家という枠組みの形成にある。その歴史的前提は、日本の朝鮮の植民地支配と中国に対する侵略戦争である。こうした歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代の欧米A	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらいたいことをめざす。とくに、新大陸への入植、18世紀末のアメリカとフランスの市民革命から、産業資本主義の成立を経て、19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパ(特にフランス、ドイツ、ロシア)とアメリカ合衆国をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	近現代の欧米B	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、19世紀末の帝国主義時代から20世紀後半の第二次世界大戦までの時代までのヨーロッパの歴史の歴史を、ウィーン体制の成立と崩壊、アメリカ南北戦争、国民国家の建設、アメリカ西部開拓、帝国主義と第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制、世界恐慌とファシズムといったトピックでたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	中東地域史	この授業科目は、現在においても、過去にさかのぼってみても、つねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた中東地域に関し、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならないという観点から、「イスラム史」の確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に適用する中東地域史の理解をめざすことを到達目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	現代の国際政治	この授業科目は、国際関係の主に政治的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。世界は再び激動の時代を迎えつつある。中国をはじめとする新興国の台頭など、プレグジットに揺れる欧州、アメリカにおけるトランプ政権成立、目まぐるしく動き続けている。どうして戦争は起こるのだろうか、正しい戦争はあるのだろうか、国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか、グローバルゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか、情報革命は私たちの国際社会へのかかわり方をどのように変えているのだろうか、グローバル化の中で各国の内政はなぜ不安定化するのだろうか、こうした課題に対し、本講義では、理論と歴史の両面から考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	グローバル経済論	この授業科目は、国際関係の主に経済的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。日本経済は1990年代に急激なグローバル化の只中におかれるようになり、国民経済の枠を超えて国際経済のなかで自国経済をみつめる必要がこれまで以上に大きくなった。本講義では、現代的グローバル化というものがどういう特質をもつものなのかを理解した上で、リカードの比較生産費説をはじめとする自由貿易を推進する諸思想にふれ、ブレトンウッズ体制の形成と崩壊といった制度的側面の変遷を追う。また、直接投資と多国籍企業の理論と実際を学び、世界経済の3極化とさまざまな国際的な経済連携協定の意義と役割について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	国際文化交流論	この授業科目では、グローバル時代における日本の進路を考える一環として、国際文化交流の意義と現状を概観する。本講義では、国際文化交流の歴史的展開、各種交流の具体例、ジャンルや担い手別の特徴などを広く紹介するとともに、日本の代表的国際文化交流実施機関である国際交流基金の事業例などを見ながら、交流の目的、実施上の留意点、評価など、文化交流の要点を詳しく検討する。その過程で、文化の本質について考察するとともに、新しい価値観の創造、外交や「国益」との関係などを考える。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	異文化理解トピックス（ドイツ語圏）	この授業科目は、ドイツ語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色（言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等）に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (フランス語圏)	この授業科目は、フランス語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
		国際理解	異文化理解トピックス (スペイン語圏)	この授業科目は、スペイン語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (中国語圏)	この授業科目は、中国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
		国際理解	異文化理解トピックス (韓国語圏)	この授業科目は、韓国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (イスラーム世界)	この授業科目は、イスラーム世界の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。イスラーム世界は、1300年を超える長い歴史を有し、21世紀に入ってそれは旧大陸から地球全域にまで広がり、重要性はますます増している。イスラームは宗教というよりも、多民族・多文化が入り混じった世の中で人々がいかに共存のためのネットワークを構築してきたか、その方法を示す処方箋であるとの理解が必要になる。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	裁判と社会	この授業科目は、日本や諸外国の裁判制度の概要を理解し、それが社会に及ぼしている影響を考察することを目的とする講義である。裁判員制度の創設により、法律の専門家ではない一般の市民も裁判に関わる可能性が生じている。裁判員制度は重大な刑事事件のみを対象とするものであるが、現代社会における法の役割の高まり (さらに、セクハラ訴訟や知的財産権をめぐる訴訟など、企業が裁判に巻き込まれるケースの増加) をも考えるならば、社会人になろうとするすべての学生は、広く民事・刑事の両分野の裁判について一定の知識を持っていることが必要であることを認識してもらうことが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	生命倫理と法	この授業科目は、安楽死や人工妊娠中絶などの伝統的な問題だけでなく、遺伝子工学や医療技術の進歩によって、遺伝子検査と個別化医療の普及に伴う患者の「データ化」、ES 細胞を用いた研究に特有の倫理的問題など、生命倫理に関する問題の急増、それをめぐる立場の対立といった現代社会の状況を踏まえ、法的にこれらの問題に対してどのように取り組んでいけばよいかを学生自身に考えさせることを目的とする講義である。現行法の解釈やこれからの法的枠組みの整備の方向性などについて、なるべく多くの具体的な事例を通して考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	地域福祉論	この授業科目は、社会福祉と地域福祉の相違性と関連性を知り、「地域福祉とは何か」を解明していく。わが国の社会福祉は、21 世紀を目指して大きな転換期を迎え、制度改革が次々と打ち出され、これら改革の方向性を示す共通のキーワードは、「ノーマライゼーション」である。地域福祉の理念は、人々が住みなれた地域で生きがいをもつより豊かな生活を保障することであり、国、自治体、地域住民が協働して改革していく必要があることを認識していく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	人権とジェンダー	この授業科目は、女性も男性も、そして、多様なジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティを持つすべての人々が、自由に自分らしく生きられる社会とは、ということを入権の視点を重視しながら考えて行く。私たちが「当たり前」だと思いがちな現代日本のジェンダーのあり方は、世界の国々や日本の過去のそれと比較するならば決して「当たり前」ではなく、日本のジェンダー・ギャップ指数は 130 カ国中 98 位である (2008 年) であることも認識していく必要がある。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	こころの健康と臨床	この授業科目は、臨床心理学の知見から、福祉・教育・医療などのヒューマンサービスにかかわる活動 (仕事) や対人的なボランティア活動などを視野に入れた、人への支援活動に必要な心理学的な知識とスキルを学ぶことを目的とする。具体的には、臨床心理専門活動の実際 (スクールカウンセリング、災害・犯罪・虐待などの被害者支援、高齢者や HIV 感染者への援助、子育て支援など) を紹介し、心理アセスメントと心理療法・コミュニティアプローチについて講じる。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	老人福祉論	この授業科目は、国、地方自治体、あるいは地域住民の意識や活動などによって大きく左右される高齢者福祉の制度化や質のレベル、高齢社会から超高齢社会への進展が高齢者福祉に及ぼす影響、福祉国家スウェーデンの高齢者像と国・自治体の政策の変遷、近く超高齢社会を迎える日本の現状と今後の展望、新しい自立支援・促進型福祉のあり方などを論じ、国、地方自治体、民間組織、地域住民が担うべき役割など、今後の課題を考察する。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	福祉社会に生きる	この授業科目は、法や制度が整っているか否かによって判断できるものではなく、社会を構成する国民の意識の相違によって左右されるものであるとされる福祉社会について、憲法で保障される権利と社会福祉関連法、人口問題と福祉、福祉と国民の連帯、福祉の町づくりなど、わが国の福祉の現状や国民の意識に内在する様々な問題点の認識、福祉社会のモデルとなるスウェーデンの福祉理念と制度の国民浸透度について紹介し、「福祉社会」の構築意識を培う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	特別支援教育概論	この授業科目は、様々な教育的ニーズを持つ子供たちを理解し、適切な支援をおこなうために必要な知識を身につけることをテーマとし、インクルーシブ教育の理念とともに、特別支援教育の制度や関わる法令について理解し、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の発達過程や特性を理解し、支援の方法を具体的に例示することができること、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の教育課程を理解し、個別の指導計画の作成や関係者および関係機関との連携のあり方について理解すること、外国籍（母語が日本語ではない）や貧困、愛着などの教育的ニーズを抱える子供の理解と支援について理解することを目標とする。知識的な事柄の他、具体的な実践例の紹介も併せて行う。	
		人権・共生	共生社会トピックス（アートと社会）	この授業科目は、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていく。特に、「アーティスト」と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）の間に立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探る。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	共生社会トピックス（日本女性史）	この授業科目は、政治の中の女性の役割をテーマとする。とくに、古代から幕末まで、天皇および為政者の意思が伝達される過程を学び、そこで女性がどのように位置づけられ役割を果たしたのかを、現存する各種史料に基づいて考察する。これまで、官僚機構や為政者の意思の伝達は、男性官僚の職務として考えられる場合が多かった。その通説的理解の是非を検討していきたい。また、政治機構は社会のあり方を反映したものである。このため、政治史のみならず社会のありようと変化についても学んでいきたい。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊を知る	この授業科目は、自校史に関わる科目として、成蹊学園はどのようにして誕生しどのような経緯をたどって現在の姿になったのか、本学園の歴史を紐解きながら成蹊のアイデンティティについて考える。教育史における中村春二の業績、岩崎小彌太が成蹊において果たした役割、吉祥寺移転後の浅野校長の教育理念、第二次世界大戦後の成蹊、成蹊から育った著名な人々、成蹊大学の現状などについて講義を行っていく。あわせて、成蹊学園の教育史におけるESD（持続可能な開発のための教育）の意義について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	情報保障とボランティア	この授業科目は、近年増加する大学に学ぶ障がい学生の多くが、授業をはじめ学生生活のさまざまな面で困難を感じている「情報取得」について、この困難を軽減するための「情報保障」の考え方、現在、成蹊大学を含むいくつかの大学で行われている「情報保障」の障がいごとの実例（聴覚障がいを持つ人に対して行われるノートテイク、手話、視覚障がいを持つ人に対して行われる点字テキスト）をあげながら、当該学生が授業に積極的に参加していくために必要な情報保障、支援方法を具体的に学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	野外自然教育論	この授業科目は、多くの人が自然を感じ、それを共有するための方法について考察し、実践することを目標とする。現代において、「自然災害に立ち向かう」という表現に見られるように、人間と自然を対置しようという意識は強い、しかし、本来、人間や人間社会も宇宙や地球のシステムの一部に内包されているものである。屋内の人工的な環境の中では、人間が自然のシステムの一部であることは分かりにくい、都市部でも野外に出ることで、少しの工夫で自然のシステムを実感することができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	実践	地元学実践演習	この授業科目では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を演習方式で学ぶことを目的とする。地域を知ることが、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要である。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法(＝地域調査の手法)を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域における、まちづくり、地域資源プロデュース、コミュニティ防災等を題材として具体的に学ぶ。	
			武蔵野地域研究	この授業科目は、成蹊大学の位置する武蔵野市やその周辺地域の地域社会の成り立ちについて、複数のゲストスピーカーによる講演を交えて講義する科目である。まずは地域概要を理解することから始め、商店街、公的機関、NPO、コミュニティ組織などの関係者の講演によって、当該地域の地域課題を理解し、課題解決に向けてどのような取り組みが行われてきたかについて、学んでいく。授業担当者、ゲストスピーカー、受講者の間での積極的なディスカッションによって、深い理解を促していく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野市寄附講座	この授業科目は、包括的な連携協定を結んでいる武蔵野市から運営経費の補助を受けて開講する科目である。本学で設置している各学部の回り持ちで、担当となった学部が、当該学部の取り上げる専門領域、地域的または社会的トピックを取り上げてテーマを定め、本学教員をはじめ、外部からの有識者等をゲストスピーカーとして招いて講義をおこなう。このことにより、自分の専門領域、領域外にかかわらず、現代の地域課題、社会課題を涵養するものとなる。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	大学生活と相互理解	この授業科目は、青年期に生じるさまざまな悩みや課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、心理的メカニズムを理解するとともに、他人事であるとの認識を超えて向かい合い考えていく科目である。主として大学における学びの意義とアイデンティティ形成、親・友人との関係のとらえ直し、大学生とカルト問題、性の問題、犯罪の問題、依存症(携帯・ゲーム等)、精神医学的な問題、自殺予防、ひきこもり等を取り上げ、これらを通して、良識ある社会人としての人格の陶冶を目的とする。	共同
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーA	この授業科目は、異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「A」では、チームワークを作る活動、ファシリテーター体験、ビジネス・コミュニケーション・ゲーム、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーB	この授業科目は異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「B」では、チームワークを作る活動、言語コミュニケーション活動、フェアトレードを考えるための活動、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 実践	武蔵野地域連携セミナー	この授業科目は、武蔵野市との包括的連携協定に基づいて、市役所をはじめとする武蔵野市内の各主体との連携によって、武蔵野市とその周辺地域における地域資源の発見、地域課題とその解決策の探究などを、演習方式で学ぶものである。取り上げるテーマとしては、インバウンドツーリズムの推進のための観光資源の提示、市街地における緑視率向上の方策の探究、武蔵野市の友好都市との交流方策の模索とその実践など、さまざまな主題が考えられる。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar I (Academic Study Abroad Preparation)	この授業科目は、1年次夏期に参加する短期留学のための準備講座であると同時に、大学生として国内外で必要となる基礎的な学習スキルを身につける役割を持つ。講義の受ける際の注意点、ディスカッションに参加する意義など海外の大学で大学生に求められる基本的な心構えについても学んでいく。さらに留学先の文化（歴史・社会事情、習慣など）から、教育制度、安全管理や生活上注意すべき点まで、現地の事情についての知識を身につけることで、外国での生活、学習に対する不安を払拭するとともに、留学による学習効果を最大限にするようにする。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar II (Global Citizenship)	この授業科目は、国境の枠を超えて平和的で持続可能な社会を維持するため、グローバル市民として必要な基礎知識・態度を育成することを目的とする。「グローバル社会」とはいったい何を意味するのか、単なる「国際社会」とはどう異なるのか、という問いについて様々な角度（環境、言語、人種、民族、宗教、経済、政治）から考える。このことによって、グローバルな思考を醸成する。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar III (Japanese Culture)	この授業科目は、グローバル社会において、多様な背景を持つ人々との相互理解を促進するため、自国の文化や社会事情などについての発信力を身につけることを目的とする。自国の文化は、身近であるがゆえにかえって説明できないことが多々あるが、著名な日本文化論や、海外と比較した日本の姿などを通して、日本の文化・社会の特性についてより客観的に見つめ直し、理解を深める。さらに、それを海外に向けて英語で発信できる力を身につけていく。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経営学部総合経営学科)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
専門科目	演習科目	基礎演習	この授業科目は、大学での勉強のスタイルについて経営学やその関連領域の入門的なテーマをゼミ形式で学ぶものである。実際のテーマは担当者ごとに異なるものの、どのゼミにおいても基本的には以下のことを学ぶ。(1)大学の勉強のスタイルを学修する(予め存在する正解を求めるのではなく、自分たちで正解を作り出す)、(2)自分の研究テーマを設定し、それを研究する基本的な方法を学修する、(3)少人数でディスカッションをする技能を学修する、(4)他者の前で自分の調査内容などを報告する技能を学修する。		
専門科目	演習科目	経営専門演習Ⅰ	この授業科目は、3年生の前期に配置される必修の演習であり、15人～20人の学生に対して1人の専任教員が指導するという体制で行われるものである。演習の具体的な内容は、指導教員によって異なるが、どの演習においても、学部学生に相応しい水準の研究を続けるための基礎を培うことを目的としている。また、通常の授業と異なり、教員と学生だけではなく、学生同士のインタラクションが盛んに行われることで、いわゆるアクティブラーニング的に専門領域の知識を身に付けることが可能である。		
専門科目	演習科目	経営専門演習Ⅱ	この授業科目は、経営専門演習Ⅰに引き続くもので3年生の後期に配置される必修の演習である。この経営専門演習Ⅱは、経営専門演習Ⅰで学修した専門的な知識を、4年生で履修する経営卒業研究へと結びつける役割を果たすものである。この時期に担当教員の指導のもとで、学生自身の研究上の関心をより具体化していき、学術的な研究へと結び付けていくことが行われる。演習によっては、予備的な研究として、チームでの研究や発表報告が行われる。		
専門科目	演習科目	経営卒業研究	この授業科目は、4年生に通年科目として設けられているもので、経営専門演習Ⅰ・Ⅱを履修した学生が履修する必修科目である。大学4年間の集大成として、担当教員の指導のもと、個々の学生の研究テーマに従って卒業研究に従事し、それを何らかの形で公開することを目的としている。公開の方法は、卒業論文や研究発表のいずれかの形式をとる。		
専門科目	専門基幹科目	経営経済基礎科目	企業経営の基礎	この授業科目は、経営学を構成する各専門分野の基本的な内容を学ぶものである。経営学が研究対象とする領域の範囲を理解したり、その基本的な考え方を理解するための基礎を提供することを目的としている。具体的には、経営組織論、経営戦略論、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理論、経営情報などの各分野の基礎的及び導入的な内容について、それぞれ1～2回ずつ取り上げる。	
専門科目	専門基幹科目	経営経済基礎科目	会社のしくみと制度	この授業科目は、会社とはどのような仕組みのものであり、また、どのような法的・社会的制度のもとで成り立っているのかについて基本的な事柄を学ぶ。具体的には、(1)会社は社会の中でどのような役割を果たしているか。(2)会社にはどのような種類があるか。(3)会社のトップ構造はどのようになっているか。(4)会社に勤めるとはどういうことか。(5)会社の活動に必要な資金を会社はどのように調達するのか。(6)会社間の競争・協調はどのように行われているのか、といったことを学修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	経営経済基礎科目 専門基礎科目	ミクロ経済学の基礎	この授業科目は、ミクロ経済学の基本的な内容や考え方を学ぶものである。ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで、経済学を理解するために必要な最も基礎的な科目である。われわれが経済生活を送っていく上で役に立つ資源の量は限られており、これを多くの用途にどのように配分すればよいかは、時代や社会を超えて、常に重要な問題であり続けてきた。この問題を解決するための手段である価格メカニズム（市場機構）の仕組みと機能を体系的に分析し、経済政策、産業政策、外国貿易などへの応用も学修する。	
専門科目	経営経済基礎科目 専門基礎科目	統計の基礎	この授業科目は、経営学を学ぶ上で必要とされる統計的アプローチの基礎知識を学修する。特に度数分布（度数分布表やヒストグラムなど）、平均（算術平均や幾何平均など）をはじめとする位置の尺度、分散、標準偏差などの散らばりの尺度、相関関係と回帰分析など、記述統計の分野を中心とした統計学の基本的な知識の修得を目指す。企業経営を理解するには、企業やその活動にかかわるデータを正しく分析して、その内容について考察できる能力が必要であり、この講義はそのようなデータ分析の能力の基礎を培うものとなる。	
専門科目	経営経済基礎科目 専門基礎科目	企業会計の基礎	この授業科目は、会計学の最も基本的な内容として、複式簿記の仕組み（基本的な仕訳や転記）、財務諸表の種類（貸借対照表と損益計算書）とその内容、基本的な経営分析（健全性の分析や収益性の分析）などを理解することで、経営学や会計学を学ぶ上での基礎的な知識を身に付けることを目的としている。会社において、経理や財務などの会計関係の仕事は重要な役割を担っている。ここで会計とは、資金を集め、事業を遂行し、その結果として利益を獲得する様々な活動を金額的に識別・測定・記録・報告するプロセスのことである。	
専門科目	経営経済基礎科目 専門基礎科目	マクロ経済学の基礎	この授業科目は、マクロ経済学の基本的な内容や考え方を学ぶものである。マクロ経済学はミクロ経済学と並んで、社会現象を理解するために必要な最も基礎的な科目である。経済全体のしくみや制度を概観し、関連する科目をさらに学んでいくために必要な諸概念の習得を行う。GDP（国内総生産）、マネーサプライ、金利、消費、投資、租税、財政支出、労働市場、賃金、失業、物価、国際収支、為替レートなどのマクロ経済の見方や、経済成長、景気循環、金融や財政などのしくみや制度、金融政策、財政政策のGDPや金利、物価に与える効果等を、データを見ながら学修していく。	
専門科目	経営専門基礎科目 専門基礎科目	経営戦略	この授業科目は、経営戦略と競争戦略という2つの大きな戦略カテゴリーのうち、企業全体のビジネスをうまく展開して成長していくための方法として前者の経営戦略に焦点を当ててその理論について説明する。企業が成長を続けていくには、ビジネスを成功に導くための論理的な思考と行動が不可欠であり、これが企業において戦略が必要とされる根本的な理由である。なお、経営戦略の理解には単に用語や概念を暗記するだけでは不十分であるので、基礎的な理論と実際のケースをあわせて紹介する。	
専門科目	経営専門基礎科目 専門基礎科目	マーケティング	この授業科目は、売れる仕組みを作る企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとする。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができない。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題である。本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的な概念やフレームワークを解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	経営専門基礎科目	人間行動と組織	この授業科目は、組織の一員として働き、生きていく人間や人間が集まった小集団に焦点を当てて、その行動、動機、知覚、態度、意思決定などを総合的に学んでいく。社会に生きるほとんどの人は、企業や非営利団体など、何らかの組織に属し、その組織の一員として活動しているが、その組織において人間はどのような動機で働くのか、どのようなリーダーシップが効果的なのか、あるいは、上司や部下、同僚などとの人間関係はどのように形成されていくのか、といった働く人にとって身近な話題が提供される。なお、専門応用発展科目である「組織と管理」と本講義によって、従来の「経営管理論」の内容をカバーするものとなっている。	
専門科目	経営専門基礎科目	ファイナンスの基礎	この授業科目は、「現代ファイナンス」とよばれる分野の基礎的な内容についての理解を深めることを目的としている。現代ファイナンスは、経済主体の金融に関わる意思決定を取り扱う専門分野である。本講義では、現代ファイナンスの学問上の位置づけを概観したのちに、資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や利益還元政策などをテーマとするコーポレート・ファイナンスにスポットを当ててベーシックな内容を学んでいく。	
専門科目	経営専門基礎科目	基本簿記	この授業科目は、「企業会計の基礎」で取り扱った、会計情報作成のプロセスをさらに深めていくことを目的としている。具体的には、企業会計でアウトプットされる会計数値を作成する上でのもっとも基本的なスキルである「複式簿記」という計算技術の基本原理を修得する。基本的な簿記の知識として、取引の意義、資産・負債・資本（純資産）・収益・費用・利益の区別、基本的な仕訳と総勘定元帳への転記、試算表、精算表、財務諸表の構造と作成などを学ぶ。	
専門科目	経営専門基礎科目	国際経営	この授業科目は、以下の問題関心に沿って、できるだけ最近の事例をまじえつつ、企業活動の国際化についての理解を深めることを目的とする。(1)企業活動の国際化とはどういうことなのか。(2)その国際化はどのようにして行なわれるのか。(3)なぜ、企業は国際化するのか。(4)国内だけの経営を考える場合にはない、国際経営ならではの課題にどのようなものがあるか。なお、国際経営の分野は、相対的に学際的な性格が強いため、関連する学問領域の成果についても随時織り交ぜていく。	
専門科目	経営専門基礎科目	ゲーム理論	この授業科目は、ゲーム理論の基礎を学ぶ。ゲーム理論は、企業同士の関係、人と人との関係、国家間の関係などにおける戦略的な行動を理解する上で役に立つ知識を与えてくれる。企業同士の競争と協力関係、スポーツや戦争における戦略、労使交渉や国家間交渉など様々な状況をゲーム理論によって分析することができる。また、オークションや公共財の供給などの経済政策もゲーム理論を使って制度設計されているなど、この理論が適用される領域は想像以上に広いものである。	
専門科目	経営専門基礎科目	経営情報	この授業科目は、今日の情報化社会における情報技術の発展とその普及が企業経営に多様な影響を及ぼすことを前提に、このような企業経営と情報技術とのかかわりについて、(1)情報化社会における企業経営、(2)企業活動と情報技術、(3)ナレッジマネジメント、(4)サプライチェーンマネジメント(SCM)、(5)情報技術投資、(6)インターネットビジネス、(7)情報システムの発展と種類、(8)情報システムの運営と管理などのトピックを扱うことで、情報技術の基本的な内容とそれを活用する企業に関する基本的な知識を修得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	経営専門基礎科目 専門基礎科目	ビジネス法の基礎	この授業科目は、商取引の基本である契約法と企業経営の基本となる会社法の主要なトピックについて、簡単なケースを用いて概説するものである。現代経済において、株式会社が果たす役割は大きく、多種多様なビジネス活動の主体となっている。その活動は、日々、商取引(契約)を通じて繰り返し行われている。この授業は、法学の初学者がビジネスと法との接点や法的知識・視点を持つことの重要性を理解し、会社法の学修の導入となることを目標とする。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	競争戦略	この授業科目は、企業の活動について知り、「戦略とは何か」を理解することを目的とする。戦略には、競争戦略と経営戦略という二つの大きな流れがあり、競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を考える。この講義は、競争戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明する。現実の課題に対して理論がどのように適用できるかを理解する機会として、実際の企業で活躍しているビジネスマンを招き、プレゼンテーションをしてもらうセッションを複数回設ける。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	情報戦略	この授業科目は、自社の経営戦略や競争戦略を実現し、また新しいビジネスを生み出すためには、どのように情報技術を活用していくべきかを学ぶ。「経営情報」が情報技術と企業経営の関係についての全般的な知識を提供するのに対して、この講義では特に情報技術が戦略に与える影響が強調される。この分野の特徴は、社会において日々新しい変化が生まれていくことであり、単に文献に基づいた議論を行うのみでは十分ではない。したがって、必要に応じて学外の実務家や専門家をゲストに招き、最前線のビジネス事例を学ぶことを企図とする。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	ベンチャー・ビジネス	この授業科目は、特に会社規模的には中小企業にあたるベンチャー企業をとりあげて、大企業とは異なるその事業や戦略などについて、理論と具体的なケースを通じて基本的な説明を行う。ここでベンチャーとは、企業が新しい技術やノウハウ、イノベーションを通じて新たな事業へと取り組むことを指している。したがって、ベンチャーの概念自体は、既存の企業の新たな取り組みを含むものであるが、特に重要なのは新規に起業したベンチャー企業の取り組みであり、この講義でもその種のベンチャー企業に焦点を当てる。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	ブランド戦略	この授業科目は、ブランドの意義やその戦略を学ぶ。ブランドというと、一般的には、高級ブランドのことを思い浮かべやすいが、学問的な意味でのブランドとは、ある商品を他の同じカテゴリーの商品と区別するためのあらゆる概念を指す総称である。本講義では、高級ブランドにとどまらないブランドの考え方を網羅的に学んでいく予定である。ブランドの戦略を理解するには抽象的な議論だけでは十分ではないので、具体的な企業の取り組み事例を交えながら、関連する理論や概念についての解説を進めていく。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	消費者行動	この授業科目は、商品やサービスを購入する消費者の心理や行動に焦点を当てる。企業は消費者に自社の製品やサービスを購入してもらうためにマーケティング活動を展開している。マーケティング活動はどのような場合に、どのようなプロセスで消費者に影響を及ぼしているのか。それを理解するためには消費者の行動や心理のプロセスについての理解が必要となる。本講義では、消費者の購買意思決定プロセスに関する理論枠組みを、具体的なマーケティングの事例と関連付けながら解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	生産管理	この授業科目は、ものづくりに関わる諸活動のなかで、主として「生産」活動に焦点をあてて、それをうまくマネジメントするために必要となるさまざまな概念や方策を体系的に取り上げる。ただし、本講義は消費者の満足度を高めることがものづくり活動の根本であるという視点に立っているため、そこで学修することは、いわゆる物理的なモノの生産活動のマネジメントだけでなく、サービス領域にも適用可能なものである。本講義の目標は、受講生が、生産管理に関する基本的な考え方を学ぶとともに、当該活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して解決策を示せるようになることである。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	産業の経済学	この授業科目は、市場競争のメカニズムと企業の戦略的行動について学ぶ。具体的には、企業が活動を行う産業の市場構造の差が企業の行動にどのような違いを生じるのか見ていく。競争的な市場で活動している企業と独占的な市場で活動している企業の行動にはどのような違いがあるのか。市場構造が企業の行動を決めるのであろうか。市場が競争的かどうかというのは、どうやったら分かるのだろうか。企業が海外でも活動を行う現在では、産業や市場をどの範囲でとらえたらよいのか考える。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	情報産業	この授業科目は、産業の情報化と情報の産業化という2つの基本的な方向に焦点を当てる。この2つの側面のうち、前者は、モノやサービスの生産要素で情報の投入量が増えることであり、後者は情報通信産業が生成・成長するということである。情報化社会とはこのような情報化の2つの側面が相互作用をしながら急速に発展していくことが特徴である。講義の基本的な内容としては、(1)情報化とデジタル化、(2)情報化投資の効果、(3)日本と世界の情報化の現状、(4)電子商取引とその分類などが扱われる。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	広告と市場	この授業科目は、広告の機能や効果について解説していく。消費者は、日々、数えきれないほどの量の広告に接触している一方で、情報技術の発達や、消費者の価値観の変化などにより、広告を見ない消費者が増加して広告の影響が弱まっているとも言われる。こうした傾向を念頭に置くと、企業と消費者とのコミュニケーションを改めて検討することが重要になる。特に、市場との関係を明らかにするため、消費者視点を重視して講義を進め、さらに、近年の相対的な広告の影響力低下を踏まえ、代替手段となる他のマーケティング・コミュニケーション手法についても言及していく。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	イノベーションと製品開発	この授業科目は、イノベーションや製品開発に関するさまざまな概念・現象を、消費者の満足度を高めるという観点から整理・統合しながら議論を進めていく。この講義の目標は、受講生が、イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を学ぶとともに、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示せるようになることである。生産管理との関連性が強い内容であるため、生産管理の履修の後で本講義を履修することが望まれる。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	環境と経営戦略	この授業科目は、企業の環境マネジメントに関連した具体的なトピックを取り上げ、経営学の側面から詳しく分析する。例えば、(1)企業の環境対策は収益性を高めるのか、(2)ISO14000シリーズの認証取得は本当に環境を改善させる効果を持つのか、(3)環境にやさしい商品が割高な場合、消費者はどのような金額であれば買うか、(4)企業は戦略上、どのような商品について優先的に環境対策を進めていくべきか、(5)企業が環境情報を開示することで、株価はどの程度の影響を受けるのか、といった基本的かつ重要な疑問に対して、国内外の事例や研究例を紹介しながら講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	企業の国際戦略	この授業科目は、ミクロ経済学及び国際経済学の理論を基礎として、現実の日本企業や外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例を踏まえながら解説する。現代のグローバル社会では、あらゆる企業が、それ自身が国際的に活動をしているかどうかにかかわらず、国際的な視野をもって戦略を策定する必要性を迫られており、どの企業においても国際戦略は重要である。講義では、具体的な企業の M&A 戦略や販売戦略、研究開発 (R&D) 投資の動向を学ぶことで、ミクロ経済学や国際経済学の理論と現実について解説する。	
専門科目	戦略とマーケティング科目 専門応用発展科目	戦略的問題解決型プロジェクト演習 A	この授業科目は、戦略的問題解決型プロジェクト演習のうち、特に経営戦略やマーケティング、消費者行動、広告などに関する具体的な企業の課題をとりあげ、それを教員と学生、及び学生同士のディスカッションを通じて解決策を検討していくことを目的としている。この演習は、企業経営における経営戦略やマーケティング、消費者行動、広告に関する実際の課題に取り組むことで、経営学の基本的な知識やノウハウを理解することはもちろんのこと、経営学に対する関心をより高めることを目的とする。	
専門科目	組織と人間科目 専門応用発展科目	人事政策	この授業科目は、人のマネジメントに関する主な理論を、歴史的な変遷を踏まえながら学ぶ。現代の組織において、ヒト(人的資源)は最も大切な経営資源である。また、多くの受講生が卒業後に企業の組織メンバーとして仕事をするという意味でも、人的資源の活用は身近な問題と言える。そして、人のマネジメントに関する諸理論は時代とともに変化していることや、その変化は仕事内容や働く人自身の仕事観の変化と密接に関連していることも学んでいく。	
専門科目	組織と人間科目 専門応用発展科目	意思決定科学	この授業科目は、意思決定に焦点を当てて、合理的な意思決定とは何か、情報を合理的に処理するとはどういうことか、また、人間は本当に合理的な存在か、という問題に関する基本的知識を身につけることを目標としている。ここで意思決定とは、企業や人間が、状況に対応する行動案を決定するプロセスのことである。この定義によれば、企業戦略や政策の背景には必ず人間(管理者)の意思決定が行われており、企業の行動もまたすべて意思決定の結果ということができる。	
専門科目	組織と人間科目 専門応用発展科目	職場の心理学	この授業科目は、主に EAP(employee assistance program)の活動を通して、職場においてどのように心理学が活かされているかを、実例を用いて紹介する。EAP とは、ストレスが原因で仕事の生産性が低下したり、心身の不調をきたして休業に至るといった従業員のメンタルヘルスの問題に対処するために、企業に活用されている仕組みないしプログラムである。EAP はメンタルヘルス不調者のカウンセリングだけにとどまらず、人々が健康で生き生きと働くことを、心理学を通して支援してゆくものであり、職場の心理を理解する上では極めて重要である。	
専門科目	組織と人間科目 専門応用発展科目	カウンセリングの基礎	この授業科目は、カウンセリングを「悩みや成長欲求を持つ個人を支援・援助する専門的にかかわり」と認識して、その基本について学ぶ。カウンセリングにおいては、各個人が有する固有の悩みや人間性をいかに理解していくのか、そして、そうした理解に基づき、いかなる援助的にかかわりを提供していくのかという点についての多様なアプローチが提唱されている。この講義では、特に、(1)カウンセリングの全体像を把握し、発展の歴史や多様性について学び、(2)カウンセリングの代表的なアプローチ法を知り、それぞれの理論と実際を学び、(3)カウンセリングスキルの中から日常生活で活かすことができると思われるコミュニケーションスキルを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	組織と管理	この授業科目は、企業組織に焦点をあて、組織全体の仕組みや効率的な管理方法について理解をすることを目的とする。私たちは、社会の中で、いくつかの組織とかかわりを持って生活をしている。そこで、自分たちを例にして、組織の中での個人の役割や責任について理解を深めるとともに、個人行動のあり方を実際を学ぶ。また、フィールドワーク（キャンパス現地調査）・グループワークを通して、ディスカッションやコミュニケーションのスキルを修得することも目指す。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	キャリア・マネジメント	この授業科目は、現代社会で生きがいをもって生活していくために、学生1人1人が、自分自身のキャリアを自律的に形成させていくことを目的としている。この目的を達成するために、まずは、自分自身をよく知るために、いくつかの適性検査を通じて、自己の強みや弱みなどについて客観的に分析する。そして、次に、自分のキャリアを組織の中で活かせるように、キャリアについての理解を深めると同時に、調査データやケーススタディを使って、自分に適合する組織や職種を見つけていく。すなわち、自己と社会の望ましい適合関係を見つけていくことが重要となる。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	組織と社会	この授業科目は、個人と組織の関わり合いを社会という枠組みの中で探っていく。個人と組織の間には少なからずの相互作用がある。組織はその活動結果を様々な手段で開示し（ディスクロージャ）、それを受けて個人は組織に対して何らかの反応をする（モニタリング）。その反応に対して、組織は活動方針の変更や現状の維持といったさらなる対応を試みる。この開示⇒反応⇒再対応という循環がうまくいけば、社会全体としてみれば経済的ベネフィットは大きく損なわれることはない。この好循環を実現するためにはどうしたらよいか、何が必要なのかについて、この講義では、企業倫理とアカウンタビリティ（説明責任）というキーワードをもとに検討をしていく。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	人的資源管理	この授業科目は、企業に勤める人間の管理に関する考え方や具体的な管理方法として、特に、企業戦略を実現する上で人材が果たす役割を強調した近年の議論である人的資源管理（human resource management: HRM）の基本を学ぶ。この講義では、人的資源の意義とその戦略的アプローチ、人的資源の獲得、人的資源の評価と報酬提供、人的資源開発、労使関係と安全管理などの多岐にわたる項目に関する基本的な知識を提供する。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	人間情報処理	この授業科目は、人間の情報処理についての諸理論を理解し、さらに、より望ましい判断を下すための糸口を探っていくことを目的としている。日常生活や企業活動において、人々は常に何らかの情報を処理し、判断を下している。我々は、よい判断を導き出したいと思うものである。しかし、常に的確な情報処理が行えるとは限らないため、時には偏った、あるいは誤った判断をしてしまうことがある。また、同じ情報が手元にあったとしても、人や状況によって判断が異なったりもする。なぜ誤ってしまうのか、なぜ異なる判断が下されるのか。このような問題に答えることが本講義の目的となる。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	コーチングの基礎	この授業科目は、様々な個人や集団をよりよい方向に導く方策であるコーチングの基本概念や実践方法について概説する。リーダーシップがリーダー側が相手を目標達成に導こうとするのに対して、コーチングとは、対話によって相手が自ら自己実現や目標達成を促進していけるようにする一連の方法やプロセスのことを言う。「コーチング」は、対人技法の名称として、スポーツに限らず、様々な分野で用いられているが、この講義では、「コーチング」の起源であるスポーツコーチングから軸足を外さずに解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	ストレス・マネジメント	この授業科目は、特に職場におけるストレス・マネジメントに焦点を当てて、その必要性を認識すると同時に、具体的な方法を学ぶものである。近年になり、企業や社会の環境変化に伴い、労働者のメンタルヘルス不調は増加傾向にあり、社会問題化している。労働者が健全な心身を維持し、企業において高い生産性を達成するために、ストレスが一定のレベルを超えないように対策を立てたり、あるいはストレスに対して適切に対応したりすることが必要になっており、ストレス・マネジメントとは、このような一連の対応のことである。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	組織の経済学	この授業科目は、企業組織内のモチベーション（動機付け）、企業間関係と契約、企業の資本構成とインセンティブ、組織のデザインなど、経営学で扱われてきた対象を、経済学的手法を用いて分析する。民営化、企業の合併・買収、従業員の報酬制度、取締役会制度や監査制度など、新聞には経済組織に関する記事が毎日のように載っている。これらの現象を別個にみるのではなく、統一的な経済学の視点から捉えることが組織の経済学の目的である。	
専門科目	専門応用発展科目 組織と人間科目	戦略的問題解決型プロジェクト演習B	この授業科目は、戦略的問題解決型プロジェクト演習のうち、特に人事政策や組織管理などに関する具体的な企業の課題をとりあげ、それを教員と学生、及び学生同士のディスカッションを通じて解決策を検討していくことを目的としている。この演習は、企業経営における人事や組織管理に関する実際の課題に取り組むことで、経営学の基本的な知識やノウハウを理解することはもちろんのこと、経営学に対する関心をより高めることを目的とする。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	コーポレート・ファイナンス	この授業科目は、「ファイナンスの基礎」に続く、資金の需要主体で証券の供給主体である企業を中心に議論を展開するファイナンスのジャンルであるコーポレート・ファイナンスのより発展的なトピックスを学んでいくことを目的とする。具体的には、コーポレート・ガバナンス、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理といったトピックスを取り扱う。できるだけ具体的な事例等をまじえることで、これらのコーポレート・ファイナンスの実際についての理解をさらに深める。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	資産選択の意思決定	この授業科目は、資産運用に関する基本的な考え方の解説を行う。冒頭で資産運用に関する基礎理論を習得することの意義や講義の進め方について説明したうえで、金融市場や市場参加者の概要、株式や投資信託などの投資に関する基礎知識、企業財務データの概要と活用方法、インフレと実質価値、割引率、現在価値、リターンとリスク、市場インデックス、市場の効率性、投資家のリスク選好など、資産運用に関する基本的な概念等の整理を行う。次に、株式や債券など基本的な投資対象の理論価格の推計に関する考え方を説明したうえで、分散投資や最適な資産配分に関する基本的な考え方、代表的な証券投資理論であるCAPMについて解説する。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	管理会計	この授業科目は、管理会計の基本的な内容を講義するものである。会社内部の現場管理者から経営トップまでの多様な管理者に対して、その問題を処理するのにつかう情報を提供するのが管理会計の目的である。この講義では、企業会計における財務会計と管理会計の区別や両者の目的の違いを把握し、経営者が競争優位を構築し、維持するために必要となる会計情報を作成するための会計手法のうち、差額原価収益分析や予算実績差異分析のような基本的な内容を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	財務会計	この授業科目は、とくに財務会計と呼ばれる学問領域からその内容を検討していく。会計学は主として財務会計と管理会計に分けられるが、財務会計は、外部の利害関係者に対して財務的な情報を提供するための理論的枠組み・スキルである。外部の利害関係者が会社に対して適切な判断が行えるように、財務情報の作成や提供には制度的な裏付けが必要である。この講義の目的は、財務会計の理論的な背景や具体的な手法について理解することである。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	国際会計	この授業科目は、日本の会計が晒されている状況を理解して、日本企業がグローバル化のためにいかなる対応を模索しているかについて学ぶものである。21世紀の初頭に、“会計ビッグバン”という衝撃的な言葉に象徴されるような日本の会計制度が大きな変革を迫られる動きがあった。これは、国際標準への調和化に伴う大きな「うねり」に巻き込まれたことに伴う変革であり、その後もこの変革のモーメントは途切れることがなく、日本企業もその対応に追われている。この一連の大きな動きの本質をつかむために、わが国の会計制度だけではなく、国際会計についての知識を修得する。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	経営分析	この授業科目は、会計情報の基本的な読み取り方を習得した人を対象として、その読み込んだ情報をさらに活かしていくためのツールを学修してもらうことを目的とする。会計情報は、ビジネスに関する情報の中でも重要な位置づけにあるが、情報受領者がその情報をいかに加工してさらなる付加価値を得られるか、また得られた情報の真贋をどのように保証できるかが、昨今のビジネス界での大きなテーマである。自分が信頼できるソースから情報を入手し、さらにその情報に自分なりの付加価値をつけるためのツールを学修し、さらにその活用スキルを学んでいく。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	証券市場	この授業科目は、証券市場の発展の経緯や仕組み、そこで活動する市場参加者や仲介機関の概要について学ぶものである。冒頭で金融システムや証券市場の機能の仕組みについて理解した後で、株式と債券の発展の経緯や発行・売買（流通）の仕組みなどを整理する。さらに、証券市場における投資家の種類や投資行動、主要な機関投資家である投資信託や年金基金の概要、証券市場の仲介者である証券業者（証券会社）の役割を理解する。最後に、ヘッジファンドやプライベート・エクイティなどのオルタナティブ投資の概要、ローン債権や不動産などの実物資産を集めたうえで新たな証券を発行する証券化の仕組みや意義について学修する。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	財務諸表論	この授業科目は、財務諸表の意義と役割を理解し、その全体像や個別の項目についての情報内容を把握し、さらに財務諸表を読み解くスキルを活用できるようになることを目的としている。会計を言語としてとらえる場合、発信された言葉は財務数値であり、それを集約的に示したものが財務諸表である。企業（およびその非営利法人のような他の組織）から離れた外部者の視点で、アウトプットである財務諸表をターゲットとして財務諸表を読み解いていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	コスト・マネジメント	この授業科目は、コスト・マネジメントの前提となる原価概念および原価計算、特に間接費の配賦についても取り上げる。コスト・マネジメント(cost management)は、原価計画(cost planning=原価低減; cost reduction)と原価管理(cost control; 原価統制)とに分けることができる。原価計画(原価低減)とは、原価の目標値自体を引き下げたいこうとするものであり、他方、原価管理とは、原価の目標値を定めて、この目標値を実際に達成していくことを通じて原価を引き下げようとするための取り組みである。標準原価計算では、差異分析の計算が中心となる。また、原価計画(原価低減)の手法としては、原価企画を取り上げる。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	戦略支援システム	この授業科目は、企業の戦略を実現するために必要な「事業計画」の作成方法とその実行のための方策について学ぶ。事業計画策定段階においては、全社的な足並みを揃え、資源の面からの実行可能性を担保するために、事業計画は財務的に変換され、検証されなければならない。講義では、各部門の行動計画にもとづき、B/S、P/L、C/F 計算書などの財務数値が作成されることを学ぶ。次に、事業計画実行段階において経営戦略の実現のために必要となる各種 KPI 指標と予算実績差異分析について学ぶ。経営戦略を組織内で共有し、外部からの資金調達を円滑に行うには、構想やアイデアとしての戦略を具体的な会計数値に置き換え、事業計画に翻訳する作業が重要となる点が特に講義では強調される。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	税務会計	この授業科目は、税務会計の意義から、基本的な規則について、わかり易く説明するものである。企業会計は、会計情報を主として誰のために作成し報告するのか、つまり何の目的で会計を利用するのかによって財務会計と管理会計の2つのタイプに分かれるが、そのうち、財務会計の一分野として税務会計がある。税務会計は税金を計算するための会計であり、企業が税務申告の為の課税所得を正しく計算することが税務会計の大きな目的となっている。	
専門科目	専門応用発展科目 ファイナンスと会計科目	戦略的問題解決型プロジェクト演習C	この授業科目は、戦略的問題解決型プロジェクト演習のうち、特にファイナンスや会計などに関する具体的な企業の課題をとりあげ、それを教員と学生、及び学生同士のディスカッションを通じて解決策を検討していくことを目的としている。この演習は、企業経営におけるファイナンスや会計に関する実際の課題に取り組むことで、経営学の基本的な知識やノウハウを理解することはもちろんのこと、経営学に対する関心をより高めることを目的とする。	
専門科目	専門応用発展共通科目	労働法の基礎	この授業科目は、「労働法」の基本的な考え方を理解してもらうことをテーマとしている。労働法とは働くことについてのルールを定めたものであり、会社(使用者)と社員(労働者)の双方にとって、そして社会にとって不可欠な存在である。そこで講義では、基本的な考え方をできるだけわかりやすく説明していく。また、最新の法改正の紹介や、「ブラック企業」「ワーク・ライフ・バランス」「働き方改革」など、労働法が関係する社会問題の解説も随時行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	租税法の基礎	この授業科目は、所得税を中心に租税法の基礎を学修するものである。具体的には、租税法全体に共通する基本的な考え方と、所得税を中心に国税の概要を学修する。租税法は、法学の一部であり、租税実体法、租税手続法、租税争訟法及び租税処罰法から成っているとされている。もともと、私たちの生活に密着した身近な学問でもあり、企業経営においても、租税法の知識は不可欠といえる。本講義を通じて、所得税法等の基礎知識を修得するだけではなく、租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成、より具体的には、租税法の諸原則について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになることが目標となる。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	経営学特殊講義A (自然保護論)	この授業科目は、倫理や心理、歴史などのさまざまな観点から自然保護の変遷について学ぶとともに、将来の望ましい対策について考察する。個人や企業の活動は自然環境の破壊や保護と深い関わりを持つため、企業が自然環境問題に対する知識や見解を持ち、問題に対して適切な措置を講じる必要性が高まっている。この講義では、国内外の過去の事例や研究を多く取り上げ、ケーススタディを通じて自然環境に対して多くの異なる見解があることを学ぶ。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	商法A	この授業科目は、「ビジネス法の基礎」に続き、商法の中でも、特に会社法を中心に基礎的な知識や考え方を理解することを目的とするものである。会社法は会社の経済活動に関するルールであり、機関設計・管理を中心とするコーポレート・ガバナンスの分野と資金調達を中心とするコーポレート・ファイナンスの分野からなる。この授業科目では前者を中心に取り扱い、具体的には会社の設立、株主総会、取締役(会)および監査役(会)等について学修する。この授業を通じて、会社法の概要と基本原則を理解すると共に、ビジネスにおける株式会社の果たす役割について具体的なイメージを掴むことを目標とする。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	商法B	この授業科目は、「ビジネス法の基礎」に続き、商法の中でも、会社法を中心にコーポレート・ファイナンスの分野に関するトピックを中心に扱う。具体的には、新株・新株予約権の発行、組織再編(合併、会社分割、株式交換・移転、事業譲渡)、社債に関する法制度の概要や問題点、これに対する基本的な考え方といった会社法の基礎を学修する。いずれの制度も株式会社が事業活動を展開する上で重要な手段であり、実務における関心も高い分野である。この授業を通じて、会社法の概要と基礎的な知識を習得すると共に、ビジネスにおける株式会社の活動の具体的なイメージを掴むことを目標とする。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	経営学特殊講義B (行動ファイナンス)	この授業科目は、まず人間の思考プロセスの特徴を説明したうえで、伝統的ファイナンス理論が想定しているような合理的な意思決定を妨げている「意思決定上の歪みの源泉」について整理する。そのうえで、具体的に、簡便的意思決定法、プロスペクト理論、心理的勘定の設定という行動ファイナンスの基礎理論について説明する。後半では、伝統的ファイナンス理論の基礎となっている期待効用理論や効率的市場仮説について説明した後で、伝統的ファイナンス理論では説明困難なアノマリーの例を紹介する。次に、証券投資や企業金融などの具体的な局面における行動ファイナンスの応用例を紹介する。最後に、行動ファイナンスの限界と課題について説明し、経済的便益の最適化のみを目的関数とする期待効用理論の修正に関する新たな動きについて取りまとめる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	ロジカル・シンキング &ライティング	この授業科目は、卒業研究を進める上で不可欠となる、論理的に物事を思考し、さらに論理的な文章を書くためのテクニックを学ぶものである。講義は、ロジックやロジカルの意味を理解することから始め、文章や発表内容がロジカルであるための要件を明らかにする。後半では、論理的な文章の基本構造とその基本形を学ぶ。最後には、大学の課題レポートや社内報告書を模擬的に書くことで、より実践的なライティングの技能を身につける。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	実証研究の方法	この授業科目は、データを使った実証研究を行う際の基本的なプロセスを学ぶものである。アンケート等を通じてデータを収集し、さらにそのデータに対して統計的な実証研究を行うためには、一定のプロセスが必要となる。この講義は、その基本的なプロセスを理解することを目的としている。具体的には、(1)問題意識の立て方、(2)仮説の立て方、(3)データ収集の方法、(4)分析と仮説の立証、(5)分析結果を受けてのディスカッション、(6)全体のまとめ方などについて学修する。	
専門科目	専門応用発展科目 応用発展共通科目	ケーススタディの方法	この授業科目は、企業等のケーススタディを進める上での基本的なプロセスを学修するものである。ケーススタディとは、具体的な企業や企業活動に関する詳細な記述から、その現象に関する一般的な法則を導こうとする方法である。この講義では、(1)ケースを集める方法(ネット、文献、インタビュー等)、(2)ケース要約の方法(分類基準設定、フレームワークの構築)、(3)アウトプットの作成(報告レポートの作成、発表の方法)の3点から、基本的なケーススタディの手順を学ぶ。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	経営数学A	この授業科目は、経営学を学ぶために必要な解析の基礎知識を修得することを目的とする。初学者を想定し、まずは、基礎解析の内容(座標平面に関する基本事項、関数の定義、二次関数・指数関数・対数関数、およびそのグラフ)について、様々な応用例を用いた演習問題を通して学修していく。次に、経営科学で用いられる最大・最小問題の考え方を微分法に基づき体系的に学ぶ。さらには、関数の知識を利用し、応用問題を解決できる能力の育成を目指す。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	経営数学B	この授業科目は、線形代数の基本的な知識を提供するものである。まず、行列の基本的な計算方法について演習問題を通して学んだ後に、逆行列や行列式や固有値といった線形代数における基本的な重要な概念について学ぶ。そして、さらにそれらがどのようにデータ分析において活用されているのかを概観する。多数の項目からなるデータを分析する場面において、適切な分析手法を選択するためには、行列を用いた線形代数の知識が必要不可欠である。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	プログラミングの基礎	この授業科目は、プログラミングとはどのような作業であるのかという説明から始めて、基本的なアルゴリズムをプログラムとして実装できるようになることを目的とする。また、さまざまな現実的な問題を解くことも目的とする。データ解析には多くの手間と時間がかかるが、少々のプログラミングの知識を使うことによって、劇的に時間を短縮できることがある。プログラミングをするためのプログラミング言語には様々なものがあるが、本講義では「R」というオープンソースの統計処理言語(環境)を用いることにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学際科目 情報分析科目	統計学	この授業科目は、統計解析に必要な基礎知識として、記述統計から一歩進んだ推測統計の考え方を学修することを目標とする。具体的には、2項分布や正規分布の考え方、統計的仮説検定、分割表の解析などの基本的な推測統計を学ぶ。近年の情報技術の発達により、大量のデータを高速に収集したり、処理したりすることが可能になっている。そのようなデータを有効活用するためには、統計解析によって意味のある情報を取り出し、新たな知見を得ることが重要である。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	情報コミュニケーション技術	この授業科目は、産業・企業・個人という3つのレベルにおけるICTの関わり合いを検討するものである。情報コミュニケーション技術（ICT）とは、コンピュータとネットワークにかかわる技術の総称であるが、高度情報化社会といわれる今日では、産業全体や個々の企業、さらには個人個人のあらゆる階層において、ICTの普及から受ける影響を無視することは全くできない。特に、ICTの特徴の1つはその変化が激しいことであり、受講生は、単にICTの現状を理解することだけではなく、ICTの将来像とそれがもたらす社会変化について洞察を深められるようにすることが必要となる。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	ビジネスゲーム	この授業科目は、パソコンのソフトウェアを使って、ハンバーガー・チェーン店のマネジメント・スタッフとなって、色々な状況下でハンバーガーの価格を決定し利益額を競うビジネスゲームに取り組む。このゲームを体験することで、ビジネスでの意思決定の意味を理解し、コンピュータを利用した手法や表計算ツールの活用方法を学修する。販売価格、競合価格、売上、コスト、不確実性など様々な環境条件を考慮した複雑な分析を行うために、コンピュータの表計算ソフトを活用して利益モデルをシミュレーションする。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	多変量解析	この授業科目は、データを用いた分析を基礎から応用までの一連の体系を紹介するものである。高度情報化社会と言われる現在、データも日々取得しやすくなり、その規模も大きく、多様化している。これらの規模の大きなデータのことをビッグデータと呼び、これらを扱える人たちが企業において必要とされている。具体的には、PCソフトを使って、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、判別分析などの基本的な多変量解析の利用について実践的なスキルを学修する。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	ビジネス・モデリング	この授業科目は、経営管理上の課題として利益計画と資源配分の問題を、業務管理上の課題として在庫管理と待ち行列のテーマを扱う。経営科学は、経営上の諸問題に経験的・直感的に取り組むのではなく、問題を定式化し、数学的・統計学的手法によって科学的に分析しようとするアプローチである。この講義はゲーム形式で進行する。ゲームのルールを理解することで、経営上の諸問題の構造を理解することにつながり、ゲームを優位に進めるアイテムとして、経営科学の分析ツールを活用することが求められる。	
専門科目	学際科目 情報分析科目	経営情報分析	この授業科目は、企業の財務データを検索及び収集する方法を学び、さらにExcelを用いて財務データを分析し、さまざまな観点から企業を理解し、評価し、あるいは比較する手法を学修する。それにより、企業や産業に関する様々な財務データの情報を読み取り、活用できる能力を身につけることができる。講義は、日本の企業・産業に関するデータの探索と把握、および企業財務データを理解することから始め、それらの財務データを、PCを使って安全性、収益性、生産性、成長性に着目して分析する方法を学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Business English	この授業科目は、経済・経営、著名企業、キャリア等について書かれた英文やニュースを素材として、英語の基礎力をバランスよく向上させつつ、ビジネスに関連する知識と語彙を増やしていくものである。現代企業に勤める者にとっては、その職種にかかわらず、ビジネス英語に関する知識は不可欠である。さらに、英語の履歴書・志願書作成、emailの書き方などのビジネス・ライティング、模擬面接などのロールプレイ・ビジネス英会話などの練習を適宜取り入れて、社会で必要とされる実践的なスキルと英語力を身につける。	
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Business Presentation	この授業科目は、TED (Technology Entertainment Design) talks など優れたプレゼンテーションを通して、効果的なビジネス・プレゼンテーションの構成やポイントを学びつつ、実際に個人やグループのプレゼンテーション (例: 広告の分析、商品の企画など) を行って発表力・英語力を身につけていくものである。プレゼンテーションのスキルは、物事を系統立てて説明し、相手を説得するための極めて重要なスキルである。	
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Global Study Skills	この授業科目は、異文化適応能力や国・文化による学修スタイルの違いなどの観点から、これまでの自分の学修方法を見つめ直し、留学を見据えて自分の学修スキルを磨くことを目的とするものである。また、留学生活全般に関する知識に加え、目的・コンテキストに応じた英語表現の指導も行い英語力向上も目指す。グローバル社会では、さまざまな国々の人との共存・協働を通して異文化理解を深めながら、自国の文化や自分自身についても再認識することになる。	
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Area Studies	この授業科目は、世界の様々な国や地域を取り上げ、その歴史、社会、文化事情、時事問題、日本との関係、そこに住む人びとの常識や社会習慣などのトピックを紹介する。現代のグローバル社会に対応するには、英語圏のみならず世界の多様な国々に関する理解を深める必要がある。世界の多様な文化や社会に対する理解を深め、既知の文化や社会との比較を通じて価値観を相対化し、グローバル社会に柔軟に対応できる力を伸ばすことが本講義の目的である。	
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Intercultural Understanding and Global Business	この授業科目は、主に英語圏の文化、価値観、行動様式やビジネス習慣に触れ、ステレオタイプ、アイデンティティ、非言語コミュニケーションといった異文化理解の主要な概念を学ぶとともに、英語力の向上を図るものである。現代のグローバル社会において、文化を異にする人々との交流や相互理解は不可欠な要素である。グローバルにビジネスを展開する場合においても、単に語学力を磨くことだけではなく、異文化コミュニケーション能力を養うことが重要視されている。	
専門科目	学際科目 グローバルと文化科目	Topics in Global Business	この授業科目は、国際的に事業展開する企業を想定して、経営学の専門的なトピック (就職と採用、人的資源管理、経営戦略、製品開発、マーケティング、広告とブランド、海外市場進出、ビジネス交渉、企業の資金調達と金融市場など) を英語で学んでいく。ヒト、モノ、カネ、情報などが世界規模でやりとりされるようになった現代社会では、だれもがグローバル化を意識せずにビジネスを考えることはできないのであり、この講義はそのための基礎知識を提供するものである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	社会理解実践講義(O B・OGが語るビジネス 最前線)	この授業科目は、特に社会の諸分野で活躍されている実務経験が豊富な講師により、企業における彼らの経験などを踏まえて、より実践的な内容を講義するものである。経営学が実践的な学問領域であるという点を踏まえて、単にテキストを通じた理論的な勉強だけでは不十分な点を、実務家が提供する知識で補う役割を持っている。受講生は、各回にそこで何を学んだか、また、自分の将来にその知識をどう生かすべきかに関してレポートを提出することが求められる。	
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	実践ビジネス演習	この授業科目は、実際の企業の抱える問題を、学生自らが調査や分析を通じて解決をしていこうという実践形式の演習である。具体的には、特定の企業の協力のもと、その企業が現実には抱える問題を課題として提示してもらい、学生はその課題を解決するために、必要に応じてその企業からの協力を受けながら、アンケートデータの収集や分析を行い、最終的には企業に対して課題解決の方法を提示することを目的としたものである。このような演習の性格上、学生は多くのフィールドワークが必要となる。	
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	プロジェクト・ マネジメント	この授業科目は、前半においてプロジェクト管理の基本的手法を学び、後半においては、実際に模擬的なプロジェクトを企画し、その企画に対して、学んだ基本的手法がどのように活用できるかを理解する。プロジェクトというのは、全体としては経験のない新規のものであるが、それを構成する個々の活動に対しては何らかの経験があるような計画のことである。このような特徴のあるプロジェクトには、日常のマネジメントプロセスに基づいた方法とは異なる管理アプローチを必要とするため、プロジェクトの立案、日程表の作成、進捗管理などの手法を学ぶ。	
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	モチベーション・ マネジメント	この授業科目は、実際の企業の管理経験者がどのように部下のモチベーションを高めていったのかを理解し、理論と実践のギャップを埋めることを目的とするものである。行動を生み出す原動力あるいは行動を生み出すプロセスをモチベーションという。この授業では、(1)モチベーション・マネジメントの意義、(2)モチベーションアップの具体的な方法、(3)モチベーション維持の具体的な方法、(4)モチベーション低下を回避する具体的な方法、(5)実際の経営者のモチベーション・マネジメント方法、について学ぶ。	
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	実践リーダーシップ	この授業科目は、管理者としての経験に富む実務家教員が、リーダーシップの理論とは異なる、企業におけるリーダーシップの現実についてケースをまじえて議論することで、より実践的なリーダーシップについて解明することを目的とする。具体的には、昨今の実践的リーダーシップの議論の中で注目されているスキルのうち、(1)人間関係構築能力を高めるラポール、ペーシング、バックトラッキング及びミラーリングの各手法について、(2)自分・相手・第三者の視点から物事を考えるポジション・チェンジ、(3)理想のリーダーの思考と行動様式を身に付けるモデリングについて学ぶ。	
専門科目	学際科目 実践キャリア創造科目	社会理解実践演習	この授業科目は、経営学の実践重視的な特徴を活かすために、特定の業界に関心を持つ学生に対して、その業界に近い実務経験者を講師に招き、その講師のもとで、その業界の現状や今後の課題について議論を行い、その業界に対する実践的な知識を学修させることを目的とする。単に講師が業界や企業について講義をするのではなく、この演習では、業界や企業が抱える諸問題について講師と学生とが解決策を共同で考えていき、その成果を発表していく機会を提供する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	学際科目	学際特殊講義 (多文化社会を生きる)	この授業科目は、グローバルと文化科目を補うものとして、特に外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について焦点を当てて、それらを客観的に考察する力を身につけることを目標としている。具体的には、外国の文化、社会、地理、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色(言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化)に対する理解を深めることによって、日本と比較しながら多文化共生の可能性や問題点、さらには将来像を考える。		
専門科目	高度学際科目	高度情報分析科目	情報分析演習	この授業科目は、他者との積極的な議論を通して、様々な発想力と思考力を養うことを目的としている。グループを作り、様々な話し合いを重ねながら、プログラム参加メンバーの相互理解を深めることをねらいとする。この演習では、ブレインストーミング等の議論のやり方を基盤に置き、品質管理で用いられる役に立ついくつかの道具を学ぶ。グループごとに与えられた課題に取り組む中で、これらの道具がどのように適用されていくかを実感してもらう。	
専門科目	高度学際科目	高度情報分析科目	マルチメディアプレゼンテーションA	この授業科目は、マルチメディア・プレゼンテーション (Multi-Media Presentation) の技術を的確に使いこなす能力を身に付けることを目的とするものである。マルチメディア・プレゼンテーションとは、パソコン/ネットワークを使用したプレゼンテーションのことである。情報化の進む現代社会では、手紙やファックスがeメールやSNSに代表されるオンラインのコミュニケーションに、紙の印刷物がデジタル情報 (PDF 文書やWeb ページ等) に置き換えられている。これにともない、自分のアイデアや主張を他人に伝える方法も多様化している。従来のプリントの配布やスライドから、パソコン、タブレット端末などの ICT 機器を利用したマルチメディア・プレゼンテーションにその主流が移っており、本講義では、こうした新しいメディアによるプレゼンテーションの手法について学ぶ。	
専門科目	高度学際科目	高度情報分析科目	総合分析A	この授業科目は、効果的な調査方法について講義するものである。近年ではアンケート調査の有効性が広く認識され、世論調査をはじめ多くの社会調査が実施されている。アンケートは調査票さえ作成すれば比較的容易に実施できるが、一方で効果的な調査のためにはテーマの設定から仮説の構築、データの分析、分析結果の報告に至るまで幅広い技術が必要とされる。さらに調査の方法は多様であり、アンケート等を通じた量的調査のみならず、トピックによっては事例研究が用いられるケースもある。特に、調査設計の各段階に関わる課題に焦点を当て、丁寧に考察を加えながら調査を企画することに重点を置く。	
専門科目	高度学際科目	高度情報分析科目	情報分析特殊講義 (SNSと情報倫理)	この授業科目は、特に近年極めて重要性を増している SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)における情報倫理の問題を取り上げて講義する。学生の大半は、ツイッターやインスタグラム、あるいはFacebookといったSNSを利用しているが、著作権や肖像権にかかわる問題を必ずしも十分に理解せずに画像を勝手に利用したり、権利を侵害せずとも倫理的に望ましくない発言をしたりしてしまう場合が少なくない。この講義では、事例を中心に何が問題だったのかを具体的に解説し、情報化社会において適切に行動できる知識を身に付けることが目標となる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	高度学際科目 高度情報分析科目	マルチメディアプレゼンテーションB	この授業科目は、インターネットを通じて不特定多数の人に情報発信をする一手法として、自分自身の Web ページの作成&公開技術を学修する。特定の Web ページ作成アプリケーションを利用せず、HTML 文書を直接作成することによって、WWW の仕組みを理解する。また、画像や音声などのマルチ電子メディアや、ビジュアルデザイン（レイアウト）技術としての CSS も学ぶ。さらに、作成した Web ページの魅力を皆にアピールし、互いに評価し合うことで、より有効的な情報提示方法を修得する。情報の公開・発信にあたって極めて重要な情報倫理・ネチケットについて学び、考えていくことも重視する。	
専門科目	高度学際科目 高度情報分析科目	総合分析B	この授業科目は、企業や、企業にかかわる人間たち（働き手や消費者）に対する自分たちの仮説を統計的な調査を通じて検証していくプロセスを総合的に学んでいくものである。講義の前半では、実際に調査されたデータを借用して既存のソフトウェアを使った統計的な分析を行って、統計的分析の方法を学ぶ。講義の後半では、自分たちの仮説を実際に立てて、その仮説を立証するために自分たちでデータを集めて分析を行うことで、調査研究の一連のプロセスを学修する。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	International Business	この授業科目は、「企業活動の国際化とはどういうことか?」、「その国際化はどのようにして行われるのか?」、「なぜ企業は国際化するのか?」、「国内経営にはない、国際経営ならではの課題にはどのようなものがあるか?」といった問題関心に沿って、最近の事例をまじえつつ、企業活動の国際化についての理解を深めることを目的とする。国際戦略（国際分業の方針）、国際マーケティング、貿易と国際産業立地、国際戦略提携、グローバル・ブランド戦略、国際的な財務戦略などのトピックについて学ぶ。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Japanese Economy	この授業科目は、日本経済の近年の歴史、現在の日本経済が抱えている課題について学び、今後の日本経済の動向について理解を深める。日本経済は長期的に見ると、少子高齢化のため経済成長の減退が懸念されている。バブル景気とその崩壊後の経済停滞、及び 2000 年代の世界的な金融危機によって日本経済が直面した問題を検討する。新聞や雑誌などで報道される経済記事を理解できるようにすることを目的とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Current Topics in Business and Economics	この授業科目は、経済学と経営学に関する様々な副題（トピック）の授業を講義する。例えば「日本的経営」という視点から日本経営史について学んだ上で、日本企業が直面するグローバル化の問題について考察する。そして日本企業の経営のあり方についての見識を培う。あるいは「現代日本経済史」というテーマの授業の場合、20 世紀以降の日本経済の発展について学び、現代の日本における経済的事象を世界情勢との関係の中で理解する力を養う。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	International Relations	この授業科目は国際政治の大きな潮流を俯瞰しながら、現下の国際情勢への理解を深めることを目的とする。より具体的には、冷戦終結以降の国際政治の動向を踏まえつつ、世界で起きている種々の緊張や危機に目を向ける。アクターが多様化し、パワーバランスの変化が著しい時代に、どのような緊張と危機が生じているかを具体的な事例とともに解説していく。そして国家間に見られる緊張関係、特に大国間における戦略的競争の推移に留意しながら、21世紀の新たな国際環境のなかで日本がとるべき道について考察を巡らせる。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。(1)(2)	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Regional Studies	この授業科目は、特定の国に焦点を当て、その国の歴史と文化を概観するとともに、世界との関わりを学ぶものである。とりわけ英語が発祥した英国の歴史と文化を学ぶことを主眼とする。古代および中世の英国の歴史・文学・文化、さらにはこれらに関連した語彙を学ぶとともに、こうしたテーマについて自身の考えを積極的に発信できるよう理解を深めていく。英国文化がどのように形成されたのかを学びながら、英語能力を高め、クリティカル・シンキングを向上させることを目標とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Current Topics in Global Issues	この授業科目は、国際関係の協調的な側面に着目しつつ、世界の共通課題に国際社会がいかに取り組んでいるのかを検証するものである。国際関係においては特定の課題をめぐる利害対立が起きる一方で、地球規模の課題(グローバル・イシューズ)に各国が協力して対処しようという機運も形成される。この授業科目ではグローバル・イシューズのなかでも特に注目されるトピックを選びながら、問題の背景や現状、今後の課題について論じていく。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Japanese Contemporary Issues	この授業科目は、おもに日本の現代の文化(アニメ、映画、小説)などと現代の日本の政治情勢との関連を読み解くことを目指す。その目的は、単に現代文化を娯楽として消費するのではなく、文化研究の一環としてそれを分析することにある。その文脈で、ジェンダー、セクシュアリティ、人種などの「差異」が重視されることになるだろう。その意味で、前述の政治情勢とは、必ずしも顕在的なものではなく、一見したところ不可視で潜在的なものも含まれることになる。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	高度学際科目 高度グローバル科目	Japanese Traditional Culture	この授業科目は、英語文献・視聴覚資料を参照し、英語で行われる講義を受けることで、日本の「伝統文化」について日本社会と英語圏社会がどのように理解してきたかを学び、両者の理解のしかたの違いを知り、そのことを通じて、単に日本の伝統文化についての基礎知識を得るだけでなく、日本の伝統文化について英語圏の人々が興味を持つように英語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。扱う対象は、歌舞伎、能狂言、落語などである。また教室での講義だけではなく課外でこれらの伝統文化を鑑賞し、実践することを推奨する。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	高度学際科目	高度グローバル科目	<p>Current Topics in World Affairs</p> <p>この授業科目は、今日の変化する世界を文化や社会の視点から考察することを趣旨とする。文化を幅広い意味でとらえ、諸文化の接触や変化、多様な文化的背景をもつ人びとの共生、文化面での活動や政策を通じたよりよい世界の構築といったテーマを探求する。受講者は、資料分析、討論、プレゼンテーションなどを通じ、これらのテーマへの理解を深めるとともに、批判的に考え、自分の意見をまとめ、表現できるようになることを目標とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部総合経営学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目 日本史概論Ⅰ	この授業科目は、旧石器時代から江戸時代までの前近代日本史を対象とし、旧石器、縄文時代、弥生時代の特徴、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、戦国時代、江戸時代の各時代の政権や幕府の構造とその変化をめぐる政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目 日本史概論Ⅱ	この授業科目は、幕末から現代までの近現代日本史を対象とし、幕末、明治時代、大正時代、昭和から現代までの政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを、世界の歴史の動きとの関連で認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目 世界史概論Ⅰ	この授業科目は、前近代世界史の基本的な流れを理解し、「古代文明・古代帝国と地域世界の形成」「中央ユーラシアの発展と東アジアの再編」「唐宋変革」と「中央ユーラシア型国家」の時代」「ユーラシア西方の変動と新しい地域世界の成立」「海陸の交流とモンゴル帝国」「モンゴル帝国とアフロ・ユーラシアの「グローバル化」「明を中心とする国際秩序」「後期帝政期中国の文化」「西アジア・南アジアの近世帝国」「ルネサンスと西ヨーロッパ「近代」の胎動」「ヨーロッパ人の世界進出と「近代世界システム」の形成」「銀と火器による東アジアの激動」「東アジア諸国の「鎖国」「アジア伝統社会の成熟」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目 世界史概論Ⅱ	この授業科目は、近現代世界史の基本的な流れを理解し、「イギリスとフランスの覇権争奪」「イギリスの工業化」「環大西洋革命の展開」「パクス・ブリタニカ」の成立」「欧米の国民国家建設と工業化」「近代化と大衆社会の萌芽」「イスラーム世界の苦悩」「南アジアの植民地化」「東南アジアの植民地時代」「東アジアの衝撃と模索」「アジア間貿易」とアジアの工業化」「帝国主義と第一次世界大戦」「アジアのナショナリズム」「戦間期」の繁栄と世界恐慌」「第二次世界大戦とアジア太平洋戦争」「戦後の国際秩序と「冷戦」「熱戦」「脱植民地化と新興国の国民国家建設」「平和共存」と高度経済成長」「ベトナム戦争とアメリカの覇権の動揺」「中ソ対立と社会主義の行き詰まり」「新自由主義と冷戦の終結」「開発と民主化」「イスラームの復興と挑戦」「グローバル化と反グローバル化」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目 人文地理学	人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、教職課程の受講者に人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日の人文地理学の研究対象、またアプローチは多様性に満ちているが、本科目は、地図の種類と活用法を学んだ上で、とくに景観的視点、空間構造視点を理解するために、集落・都市地理学、人口地理学、農業地理学といった系統地理学の各分野における古典的アプローチを中心に概説する。本講義を通じて、人文地理学を構成する各々の研究分野の初歩的な諸概念を理解するとともに、多様な地図資料等を用いて、また自ら作成することによって、景観・空間構造といった視点から地表上の諸事象を理解できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目	自然地理学	自然地理学は、地形、気候、植生、土壌、生物などの自然環境について、形成のメカニズムやその空間的分布の特徴、時間的変化について、理解を深めていく学問である。本科目では、自然地理学の基礎的な知識とそれに関連する時事問題や自然災害などの応用的な知識を取得することを目指す。具体的には、地球上で起こっている様々な時空間スケールの環境変化や問題、自然災害などに関連した映像や写真、図表をもとに、自然環境にとどまらず、人間との相互関係について理解を深められるように解説し、自然地理に関する様々な主題図やグラフ、GIS を利用した読図をもとに、自然と人間の相互作用の空間分布や時間変化の特徴を読み取る地理的技能を身に付けることを目標とする。	
	広域基礎科目	地誌学	本授業科目では、地誌学の基本的調査方法と分析方法について学ぶ。地誌学は、中学校社会の地理的分野や高校地理の主内容を構成するものあり、学習指導要領では、日本の各地方地誌と世界の各地域の地誌を動的に把握するように指導されている。この講義では、地誌を網羅的に学ぶのではなく地誌学の基本的調査・分析方法を理解することを念頭において、日本地誌と世界地誌のそれぞれについて地理的スケールを変えながら複数の事例を取りあげて具体的に地域の特徴を検討する。あわせて、主題図の作成や人口統計等のグラフ化等によって、身近な地域を地誌学的に考察する方法を学ぶ。これらを通じて、地理的見方・考え方を理解するとともに、教育現場での指導に最低限必要な地理的技能を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	現代の政治学	本科目は、政治学の基礎を政治思想から政治過程まで、地方自治から国際政治まで幅広く学ぶことを目標としている。「民主政治の起源」、「民主政治の変容」、「福祉と政治」、「民主政治のさまざまな仕組み」、「選挙」、「議会と政党」、「政策過程と官僚・利益集団」、「世論とマスメディア」、「地方自治」、「グローバル化」、「民主政治の現在」、「権威主義と民主化」を各授業のテーマとし、理論的な部分と歴史的な部分と現状分析的な部分とが組み合わせられて展開することによって、日本と世界の現代政治を理解する基本的な用語(概念)と考え方を総合的に理解できるようにする。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅰ	この授業科目は、これまで履修・修得してきた教職科目を振り返り、丹念な確認によって不足や欠落を補い、「教職教養」と呼ばれる内容の総括的な、深い学び直しをする科目である。これは、「教師になる」ことを目指して学ぶ者にとって、採用者や学校現場のニーズに適切に対応し、教師への道を拓くための基礎的準備ともなる。「十分な知識と力量」「豊かな教養力」「人間と関わり・交わる卓越した力」だけではなく、「桃李成蹊の人」である教師となるため、志を同じにする仲間との対話や議論を通して、課題解決を図ることを中心に取り組む。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅱ	この授業科目は、これまでに、免許状取得要件となる教職科目の殆どを履修・修得し、教育実習を控える段階で、「教職教養」と呼ばれる内容を改めて総括する科目である。単なる知識の記憶再生に留まるのではなく、教育の本質に迫るものとする。これは、採用者や教育現場のニーズに適切に対応するとともに、それぞれの志望に合わせて、教師への道を実際に拓くことに直結する。教師に求められる資質・力量に加え、「桃李成蹊の人」としての教師を目指し、明日からの教育実践を支え得る土壌としての「知」を固めるために、同じ志を抱く仲間との学び合いの場とする。また、前年度からの成長・深化を確認しつつ、教育課題を演習的に探究し、調べ・考えた内容を、限られた時間と紙幅を活用して適切な論述ができる力の鍛錬・熟成にも力を注ぐ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の大学が独自に設定する科目	学校経営と学校図書館	この授業科目は、情報社会において図書館が果たすべき機能、殊に社会教育及び学校教育という枠組みの中で、如何にして人の知的探求心に応えてゆくかを、多様な観点から考察することをテーマとする。授業では、図書館の起源より現在までの、社会的機能・位置付けの時系列的変遷と地理的相違を学習し、歴史的・地理的な必然性を理解する。次に、現在図書館が置かれている状況-教育・文化・技術-を知り、それが内包するあるいはその外延的な矛盾点・問題点を理解する。その上で、人類の知的所産としての著作物及び文化施設としての図書館を、どのように未来へ継承すべきかを考察します。書館史・資料文化・図書館運営・教育的機能を理解するための基礎知識と、応用力を身につけることを到達目標とする。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	学校図書館メディアの構成	この授業科目は、学校図書館で収集、受入している資料(学校図書館メディア)について、資料の選択、収集、組織化(目標作成、件名付与、分類記号付与)、蔵書構築・評価等を取り上げ、講義と演習で理解を図っていく科目である。情報メディア(資料)の収集では、すべての資料を集めることはできないので選択が必要になり、その際に資料の評価や資料収集方針について学んで行く。その組織化では、図書館で収集した資料を利用者がスムーズに利用できるように、どのように資料を書架上に並べ、そして取り出しているのか、そのための仕組みはどのようにになっているのか、どのような道具(規則)が使われ、全国どこにいても情報メディアを同じ分類記号を用いて書架上で利用できるのか、どのように標準化が図られているのか等を、演習を通して理解を図っていく。その集積としての蔵書では、その構築プロセスや評価法について学んでいく。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	学習指導と学校図書館	この授業科目は、学校図書館を運営するうえで必要な技能を修得し、学習支援・自学能力を育成するための効果的かつ効率的な図書館利用指導への応用を実践的に身につける科目である。第一段階として、図書分類・図書目録の原理を理解し、多様な資料への応用を実践する。第二段階として、受講生自身が授業計画を立て、その為に必要な資料の体系的な選書を行うことで、図書分類・図書目録の効果的利用の指導方法を考える。第三段階として、資料の所属、所在調査、内容調査、書誌事項調査、事実事項調査等、およそ考えられる範囲での多様な参考調査を行う。それによって、図書館における資料の使い分け、資料・情報の効果的収集方法と提示方法等、学習期に習得すべき情報スキルの指導方法を実践的に考察する。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	読書と豊かな人間性	この授業科目は、私たちの身近にある文章を「読む」ということは、どのような行為なのか、「読む」という行為の楽しみは、どのような経緯をたどって、私たち読者にもたらされるのかなど、読書の原点である「読む」ことの内実について学び、文章を読み解く楽しみの再発見を目指す科目である。さらに、読書周辺の楽しみ方として、文学散歩について学ぶ。実際に文学散歩を体験すると共に、任意の作品を選んで文学散歩の企画立案を行う。加えて、メディア・リテラシーについても学び、情報を批判的に取捨選択していく力を育てる指導について考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の大学が独自に設定する科目	情報メディアの活用	この授業科目は、学校図書館で選択・収集、受入、整理、蓄積、そして利用に供している多様な種類の情報メディア(図書館資料)の特性を解説、さらに実際にこれらの図書館資料の検索を通して学んで行く科目である。情報メディア(図書館資料)を対象としている『日本目録規則』1987年版改定3版が、2018年には新しい版になり、これらの情報メディア(図書館資料)の変化と共にその利用の在り方も変化を受けてきている。特に、速報性のある情報メディアの新聞や雑誌の利用の形が現在進行形のかたちで変化が起きている。視聴覚資料においても、LPレコードやカセットテープが若い世代に新鮮なものとして見直されたり、映画がネット配信されたりもしている。図書館もこれらの変化の動向をチェックしながら、また意見交換も取り入れながら情報メディア(図書館資料)の特徴を考察する。	
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教職の意義及び教員の役割・職務内容」に関する内容を行う科目である。我が国における今日の学校教育及び教職の社会的意義を理解し、公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解し、進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解していることを到達目標とする。教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について受講者が多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。また、教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように簡単な演習やグループ討議などを行い、受講者が当事者としてのイメージをもてるようにする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育課程論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育課程の意義および編成の方法」に関する内容を行う科目である。教育課程(カリキュラム)とは、「学校における子どもの学習体験の総体」とも言える。それは、子どもの学習体験をどうデザインするかということでもある。教育課程(カリキュラム)を、教科・科目の時間数や単位数の配分などに矮小化しがちだが、知識基盤社会、グローバル化、ICT化が進む中では、前例や常識に囚われず、本源的に探究しなければならない。目的の明確化、内容の策定だけではなく、実践と評価も統合したカリキュラム・マネジメントの視点が不可欠となる。そのため教育課程編成の大綱的基準である「学習指導要領」を熟知した上で、教育課程(カリキュラム)デザインの意義と思想、方法を獲得し、創造の担い手となる力を養う。	
教職の教科及び教職に関する科目	道徳教育の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「道徳の理論及び指導法」に関する内容を行う科目である。今日の学校教育は多くの課題を背負っており、その中心とも言える重要な課題は「心の教育」である。「いじめ防止対策推進法」施行から時間を経ても、相変わらず「いじめ」は後を絶たない状況である。この「心の教育」は道徳だけでなく、学校教育すべてにおいて、更には家庭や地域との連携において行われるものである。これからその核となるのが「特別の教科 道徳」である。道徳教育の本質・意義を理解し、教師としてどのように実践するべきなのか、具体的に考究していく科目である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「総合的な学修の時間の指導法」に関する内容を行う科目である。変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとする科目である。従って、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代において、ますます重要な役割を果たすものとなる。上記の内容を、教科を超えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解していること、さらに学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解していることが求められる。	
教職の教科及び教職に関する科目	特別活動の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「特別活動の指導法」に関する内容を行う科目である。教育課程（カリキュラム）の中に「特別活動」という領域が設けられているが、生徒を初め一般的には馴染みの薄いものとなっている。ともすれば「特別なもの＝余分なもの」と見られたりもする。しかし、学校は集団で学び・生活する場ですから、「豊かな人間関係の形成」「集団の意思決定と社会参画」及び「自己実現」の学びの場として、特別活動は極めて重要である。中学校・高等学校学習指導要領による「学級活動（中）・ホームルーム活動（高）」「生徒会活動」「学校行事」の3領域それぞれの歴史的背景を踏まえ、意義・実践・課題を理解し、教科指導・生徒指導・キャリア教育などとの関連、家庭や地域との連携を考えながら、指導のあり方を学んでいく。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育方法論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育の方法及び技術」に関する内容を行う科目である。本学教職課程の理念のうち、教職に関する深い教養と教育的技能の養成を目指し、学習指導要領等をふまえた教育の方法と技術について学習することを目的とする。豊富な実践事例を示し、これからの社会で求められる資質・能力の育成を可能とする多様な教育方法(授業デザイン、学習指導方法、ICTを含む教材作成、および評価方法等)についての基礎理論を学ぶ。併せて、それらの基礎理論を身につけて受講生自身の教育実践に適用できるように実践的な演習を行い、理解や思考の深化を目指す。	
教職の教科及び教職に関する科目	生徒・進路指導論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「生徒指導」「進路指導及びキャリア教育」に関する理論と方法を学ぶ科目である。生徒指導とは、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目では、『生徒指導提要』や学校教育サービスの理論と技法の研究を主たる目的とする学問である「学校心理学」に基づき、中学生・高校生を対象とした生徒指導について考える(進路指導及びキャリア教育を含む)。具体的には、前半では現在の中学生・高校生の実態および教育上の課題を理解し、「学校心理学」を基盤とした生徒指導の在り方(心理教育的援助サービスのモデル)を学ぶ。後半では、具体的な生徒指導に関する事例を取り上げ、これらの課題の解決のために、教師はどのような生徒指導や進路指導及びキャリア教育を展開することが望ましいかを演習を通して学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教育相談	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育相談」に関する理論と方法を学ぶ科目である。教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。以上四点をの到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習論	この授業科目は、教育実習前にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行い、教師という立場に必要な基礎知識を充実し、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させ、教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育むことを授業内容とする。来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的基本的知識・技能を修得し、教育実習の意義と課題の確認をすることができること、教育実習において、教師という立場で必要な基礎知識を充実させることができること、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させることを到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(中・高)	この授業科目は、教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(中・高)」は、中学校の教育職員免許状または中学校および高等学校の免許状を取得しようとする学生向けで、中学または高校での教育実習を3週間(120時間)以上行うこととする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(高)	この授業科目は、4年次において教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、5月から11月にかけて教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(高)」は、高等学校の教育職員免許状のみを取得しようとする学生向けで、高校(または中学校)での教育実習を2週間(60時間)以上行うこととする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教職実践演習 (中・高)	この授業科目は、教職課程の科目の履修を終え、教育実習を行った者が、その集大成として理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る科目である。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。到達目標は、教員として求められる資質、 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関係能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できることである。履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。その上で、4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法A	この授業科目は、受講生全員が学習指導案を作成して模擬授業をおこない、中学社会科について、学習指導案づくりと授業をおこなう力量を養うことをテーマとし、中学社会科の内容を理解し、教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握でき、授業研究にもとづき学習指導案を作成し、学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができることを到達目標とする。授業は、中学社会科の内容、教材研究の方法、学習指導案作成の授業研究の方法、授業を行う上で留意しなければならない点について講義をし、その後学生の模擬授業を行う。学生の模擬授業については、教材研究、授業研究について、随時指導する。模擬授業について、各時間内に講評・検討する。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法 B	この授業科目は、中学校社会科の模擬授業を行う。「中学校学習指導要領解説 社会編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科・地理歴史科教育法	この授業科目は、中学社会科・高校地理歴史科の歴史をたどり、学習指導要領の内容について理解し、学力及び授業法をめぐる議論を取り上げ、社会科・地理歴史科教育の内容、課題を考えることを第一のテーマとする。そのことを踏まえて、学習指導のあり方を理解し、教材研究と授業連展開の研究の意味と内容を理解し、学習指導案を作ることを授業の第二のテーマとする。中学社会科、高校地理歴史科の授業にむけて、中学社会科・高校地理歴史科の学習指導要領と学習内容を理解し、学力と授業法について自らの意見を論述できる、社会科地理歴史科の学習指導案を作成できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部総合経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目 教職の教科及び	社会科・公民科教育法	この授業科目は、中学校社会科及び高校公共科の学習指導要領の目標及び内容の理解に基づいて、授業構想をする。社会科・公民科教育法の授業では、中学校社会科（公民領域）の学習指導案と高校公民科の学習指導案を作成する。そのために、中学校社会科及び高校公民科の学習指導要領の精読、各出版社から出版されている教科書の読み比べ、既習事項の確認として前段階の学校種の教科書内容の整理、単元の知識の展開と本時の位置づけの確認、板書計画、ワークシート、パワーポイントなどデジタル授業資料の作成を行う。また、グループによる模擬授業を行う。	
教職の教科及び教職に関する科目	公民科教育法	この授業科目は、高等学校公共科の模擬授業を行う。「高等学校学習指導要領解説（公共）編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	

学校法人成蹊学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和1年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
成蹊大学				成蹊大学				
経済学部				経済学部				令和2年4月学生募集停止
経済経営学科	500	-	2,000	<u>0</u>	-	<u>0</u>		学部の設置(届出)
				<u>80</u>	-	<u>320</u>		
				<u>150</u>	-	<u>600</u>		
				<u>290</u>	-	<u>1,160</u>		
理工学部				理工学部				
物質生命理工学科	133	-	532	物質生命理工学科	125	-	500	定員変更(△8)
情報科学科	134	-	536	情報科学科	150	-	600	定員変更(16)
システムデザイン学科	133	-	532	システムデザイン学科	125	-	500	定員変更(△8)
文学部				文学部				
英語英米文学科	130	-	520	英語英米文学科	121	-	484	定員変更(△9)
日本文学科	90	-	360	日本文学科	84	-	336	定員変更(△6)
国際文化学科	110	-	440	国際文化学科	110	-	440	
現代社会学科	110	-	440	現代社会学科	105	-	420	定員変更(△5)
法学部				法学部				
法律学科	280	-	1,120	法律学科	280	-	1,120	
政治学科	160	-	640	政治学科	160	-	640	
計	1,780	-	7,120	計	1,780	-	7,120	
成蹊大学大学院				成蹊大学大学院				
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻(M)	70	-	140	理工学専攻(M)	70	-	140	
理工学専攻(D)	10	-	30	理工学専攻(D)	10	-	30	
経済経営研究科				経済経営研究科				
経済学専攻(M)	6	-	12	経済学専攻(M)	6	-	12	
経済学専攻(D)	3	-	9	経済学専攻(D)	3	-	9	
経営学専攻(M)	10	-	20	経営学専攻(M)	10	-	20	
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9	
法学政治学研究科				法学政治学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	8	-	16	
法律学専攻(D)	4	-	12	法律学専攻(D)	4	-	12	
政治学専攻(M)	4	-	8	政治学専攻(M)	4	-	8	
政治学専攻(D)	2	-	6	政治学専攻(D)	2	-	6	
文学研究科				文学研究科				
英米文学専攻(M)	8	-	16	英米文学専攻(M)	8	-	16	
英米文学専攻(D)	4	-	12	英米文学専攻(D)	4	-	12	
日本文学専攻(M)	8	-	16	日本文学専攻(M)	8	-	16	
日本文学専攻(D)	4	-	12	日本文学専攻(D)	4	-	12	
社会文化論専攻(M)	8	-	16	社会文化論専攻(M)	8	-	16	
社会文化論専攻(D)	4	-	12	社会文化論専攻(D)	4	-	12	
計	156	-	346	計	156	-	346	